令 和 ３ 年 度

授　　業　　概　　要

（シラバス）

東 北 生 活 文 化 大 学 短 期 大 学 部

シラバス項目の内容

項　　目	内　　容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 **学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。**
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習　事前学修	授業時間外の予習について記載しています。
自習　事後学修	授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能、履修したほうがよい関係科目、或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか、加味される要素を具体的に記載しています。 **ただし、総授業回数の１／３をこえて欠席した場合はその時点で不合格となりますので、注意してください。**
教科書 参考書	授業で使用する、受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合記載しています。

ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階、順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科をあらわします。
- A・・食物栄養学専攻
- B・・子ども生活専攻
- K・・共通教養

中分類：科目の区分
- １・・学科共通教養科目
- ２・・基幹科目
- ３・・学科専攻科目

小分類：科目群

学位授与の方針との関連

食物栄養学専攻

＜知識・理解＞

１．基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。

２．家庭と社会との関りを理解できること。

３．栄養士に必要な専門知識・技術と、食分野の幅広い知識を身につけること。

＜汎用的技能＞

４．栄養士として指導力を発揮できる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

＜態度・志向性＞

５．基準や法令を遵守し、安全でおいしい食事を提供するための態度や倫理観・責任感をもつこと。

＜統合的な学習経験と創造的思考力＞

６．実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

子ども生活専攻

＜知識・理解＞

１．基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。

２．家庭と社会との関りを理解できること。

３．保育士と幼稚園教諭に必要な専門知識・技術と保育に関する幅広い知識を身につけること。

＜汎用的技能＞

４．保育の現場で自ら課題の解決に取り組むことができる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

＜態度・志向性＞

５．保育者として子どもの安全や健全な成長にかかわることへの倫理観・責任感をもつこと。

＜統合的な学習経験と創造的思考力＞

６．実習・演習・講義などを通して獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈食物栄養学専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
解剖生理学	曽根　正彦	給食管理学	益田　裕司
病理学	曽根　正彦	給食管理基礎演習Ⅰ	益田　裕司
食品衛生学	黒川　優子	給食管理基礎演習Ⅱ	益田　裕司
食品衛生学実験Ⅰ	黒川　優子	給食管理実習Ⅰ	益田　裕司
食品衛生学実験Ⅱ	黒川　優子	給食管理実習Ⅱ	益田　裕司
微生物学	黒川　優子	給食管理実習Ⅲ （給食運営に係る校外実習）	益田　裕司
臨床栄養学概論	髙橋　文	栄養士基礎演習	益田　裕司
臨床栄養学各論	髙橋　文	食文化論	木下　ゆり
臨床栄養学実習	益田　裕司	食生活支援論	黒川　優子 木下　ゆり
ライフステージ栄養学実習Ⅰ	木下　ゆり	特別演習	曽根　正彦・益田　裕司・黒川　優子 木下　ゆり
ライフステージ栄養学実習Ⅱ	木下　ゆり	テーブルコーディネートⅠ （テーブルマナーを含む。）	小林　知恵子
栄養指導論Ⅰ	木下　ゆり	テーブルコーディネートⅡ	小林　知恵子
栄養指導論Ⅱ	木下　ゆり	フードエンタテイメント演習	堀江　志穂　他
栄養指導論実習	木下　ゆり		

〈子ども生活専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
子ども家庭福祉論	米川　純子	教育・保育方法論	岡崎　善治
地域福祉論	米川　純子	保育内容の指導法	高橋　恵美
子ども家庭支援論	浅野　咲子	保育の実技と演習	高橋　恵美
保育者論	岡崎　善治	児童文化	安藤　倫子
子ども家庭支援の心理学	米川　純子	児童文化Ⅱ	横山　美喜子
教育・保育相談	米川　純子	乳児保育Ⅰ	大窪　裕喜恵
子どもの保健	千葉　明子	乳児保育Ⅱ	大窪　裕喜恵
子どもの食と栄養Ⅰ	菊地　香保里	子どもの健康と安全	岩佐　あけみ
子どもの食と栄養Ⅱ	菊地　香保里	特別支援教育	岡崎　善治
保育の計画と評価	高橋　恵美	社会的養護Ⅱ	米川　純子
保育内容総論	高橋　恵美	ピアノⅠ	佐藤　和貴
保育内容（環境）	高橋　恵美	ピアノⅡ	佐藤　和貴
保育内容（環境Ⅱ）	高橋　恵美 岡崎　善治	ピアノⅢ	佐藤　和貴
保育内容（言葉）	佐藤　深雪	ピアノⅣ	佐藤　和貴
保育内容（言葉Ⅱ）	佐藤　深雪	保育実習指導Ⅰ	佐藤　深雪　他
保育内容（表現Ⅰ）	横山　美喜子	保育実習指導Ⅱ	米川　純子　他
保育内容（表現Ⅱ）	佐藤　和貴	保育・教職実践演習	高橋恵美 岡崎　善治
保育内容（表現Ⅱ）	横山　美喜子 佐藤　和貴	教育実習指導	高橋　恵美　他

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　共通教養科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員
K-1-a-01-1	生物と生命倫理　必修	前期	子専1・食専1	堀　江　佐知子
K-1-a-02-1	地球環境学	後期	子専2・食専2	黒　川　優　子
K-1-b-01-1	消費生活と経済	後期	子専2・食専2	舛　谷　謙　ニ
K-1-b-02-1	社会学	前期	子専2・食専2	庄　司　一　平
K-1-b-03-1	日本国憲法　必修	後期	子専1	横　田　尚　昌
K-1-b-03-1	日本国憲法　必修	前期	食専2	横　田　尚　昌
K-1-c-01-1	文化史	後期	子専2・食専2	庄　司　一　平
K-1-c-02-1	心理学	前期	子専1・食専1	植　松　公　威
K-1-c-03-1	健康管理学	前期	子専2・食専2	土　屋　葉　子
K-1-c-04-1	健康スポーツⅠ　必修	前期	子専1・食専1	土　屋　葉　子
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ　必修	後期	食専1	土　屋　葉　子
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ　必修	後期	子専1	土　屋　葉　子
K-1-d-01-1	日本語基礎	前期	子専1	佐　藤　深　雪
K-1-d-01-1	日本語基礎	後期	食専1	佐　藤　深　雪
K-1-d-02-1	国語表現法	後期	食専2	佐　藤　深　雪
K-1-d-02-1	国語表現法	後期	子専1	佐　藤　深　雪
K-1-d-03-1	英語Ⅰ　必修	後期	食専1	裏　川　信　夫
K-1-d-03-1	英語Ⅰ　必修	前期	子専1	裏　川　信　夫
K-1-d-04-1	英語Ⅱ	前期	食専2	裏　川　信　夫
K-1-d-04-1	英語Ⅱ　必修	後期	子専1	裏　川　信　夫
K-1-d-05-1	情報処理Ⅰ　必修	前期	食専1	松　尾　　広
K-1-d-05-1	情報処理Ⅰ　必修	前期	子専1	松　尾　　広
K-1-d-06-1	情報処理Ⅱ　必修	後期	食専1	松　尾　　広
K-1-d-06-1	情報処理Ⅱ　必修	後期	子専1	松　尾　　広
K-1-e-01-1	スタディスキルズ　必修	前期	食専1	食物栄養学専攻教員全員
K-1-e-01-1	スタディスキルズ　必修	前期	子専1	子ども生活専攻教員全員
K-1-e-02-3	キャリアアップセミナー　必修	後期	食専1	食物栄養学専攻教員全員
K-1-e-02-3	キャリアアップセミナー　必修	後期	子専1	子ども生活専攻教員全員
K-1-e-03-3	キャリアサポートセミナーⅠ　必修	通年	食専1	瀬　戸　典　彦
				教職員
K-1-e-04-3	キャリアサポートセミナーⅡ	前期	食専2	瀬　戸　典　彦
				教職員

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　基幹科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員
K-2-a-01-1	生活文化概論　必修	前期	食専1	伊　藤　常　久
K-2-a-01-1	生活文化概論　必修	前期	子専1	伊　藤　常　久
K-2-a-02-1	生活文化各論　必修	後期	子専1・食専1	生活文化学科教員全員

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　食物栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目		学期	対象学科	教　　員
A-3-a-02-1-1	有機化学	必修	前期	食専1	菅　野　修　一
A-3-a-03-1-2	統計学		後期	食専2	池　田　展　敏
A-3-a-04-1-1	数学基礎演習	必修	前期	食専1	池　田　展　敏
A-3-a-05-2-2	栄養情報処理演習Ⅰ		前期	食専2	池　田　展　敏
A-3-a-06-2-2	栄養情報処理演習Ⅱ		後期	食専2	池　田　展　敏
A-4-b-01-2-2	社会福祉論		後期	食専2	伊　藤　常　久
A-4-b-02-2-2	公衆衛生学	必修	前期	食専2	伊　藤　常　久
A-4-b-03-2-1	健康管理概論		後期	食専1	伊　藤　常　久
A-4-c-01-2-1	解剖生理学	必修	後期	食専1	曽　根　正　彦
A-4-c-02-2-2	運動生理学		後期	食専2	川　俣　幸　一
A-4-c-03-2-1	生化学	必修	後期	食専1	鈴　木　裕　行
A-4-c-04-2-2	病理学		前期	食専2	曽　根　正　彦
A-4-d-01-2-1	食品学	必修	前期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-d-02-2-2	食品機能学		後期	食専2	永　沼　孝　子
A-4-d-03-2-1	食品学実験Ⅰ	必修	前期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-d-04-2-1	食品学実験Ⅱ		後期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-d-05-2-2	食品衛生学	必修	前期	食専2	黒　川　優　子
A-4-d-06-2-2	食品衛生学実験Ⅰ	必修	前期	食専2	黒　川　優　子
A-4-d-07-2-2	食品衛生学実験Ⅱ		後期	食専2	黒　川　優　子
A-4-d-08-2-1	微生物学		前期	食専1	黒　川　優　子
A-4-e-01-2-1	栄養学Ⅰ	必修	前期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-e-02-2-1	栄養学Ⅱ		後期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-e-03-2-2	栄養学実験		後期	食専2	永　沼　孝　子
A-4-e-04-2-1	ライフステージ栄養学	必修	後期	食専1	永　沼　孝　子
A-4-e-05-2-1	ライフステージ栄養学実習Ⅰ		後期	食専1	木　下　ゆ　り
A-4-e-06-2-2	ライフステージ栄養学実習Ⅱ		前期	食専2	木　下　ゆ　り
A-4-e-07-2-2	臨床栄養学概論	必修	前期	食専2	髙　橋　　文
A-4-e-08-2-2	臨床栄養学各論		後期	食専2	髙　橋　　文
A-4-e-09-2-2	臨床栄養学実習		後期	食専2	益　田　裕　司
A-4-f-01-2-1	栄養指導論Ⅰ	必修	後期	食専1	木　下　ゆ　り
A-4-f-02-2-2	栄養指導論Ⅱ		前期	食専2	木　下　ゆ　り
A-4-f-03-2-2	栄養指導論実習		前期	食専2	木　下　ゆ　り
A-4-f-04-2-2	公衆栄養学	必修	後期	食専2	栗　山　孝　雄
A-4-g-01-2-1	調理科学論	必修	前期	食専1	宮　地　洋　子
A-4-g-02-2-1	調理学実習Ⅰ	必修	前期	食専1	宮　地　洋　子
A-4-g-03-2-1	調理学実習Ⅱ		後期	食専1	宮　地　洋　子
A-4-g-04-2-2	調理学実習Ⅲ		前期	食専2	宮　地　洋　子
A-4-g-05-2-1	給食管理学	必修	前期	食専1	益　田　裕　司
A-4-g-06-2-1	給食管理基礎演習Ⅰ		後期	食専1	益　田　裕　司
A-4-g-07-2-2	給食管理基礎演習Ⅱ		前期	食専2	益　田　裕　司
A-4-g-08-2-1	給食管理実習Ⅰ	必修	前期	食専1	益　田　裕　司
A-4-g-09-2-2	給食管理実習Ⅱ		前期	食専2	益　田　裕　司
A-4-g-10-2-2	給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外実習）		前期	食専2	益　田　裕　司
A-4-g-11-2-1	栄養士基礎演習		後期	食専1	益　田　裕　司
A-5-a-01-2-2	食文化論		後期	食専2	木　下　ゆ　り
A-5-a-02-3-1	食生活支援論		前期	食専1	松　尾　　広
					池　田　展　敏
					黒　川　優　子
					木　下　ゆ　り
A-5-a-04-3-2	特別演習		前期	食専2	永　沼　孝　子

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　食物栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員
				曽　根　正　彦
				鈴　木　裕　行
				黒　川　優　子
				益　田　裕　司
				宮　地　洋　子
				木　下　ゆ　り
A-5-a-05-2-1	テーブルコーディネートⅠ（ﾃｰﾌﾞﾙﾏﾅｰを含む）	前期	食専1	小　林　知恵子
A-5-a-06-2-1	テーブルコーディネートⅡ	後期	食専1	小　林　知恵子
A-5-a-07-2-2	フードマネジメント	前期	食専2	堀　田　宗　徳
A-5-a-08-3-2	フードエンタテイメント演習	後期	食専2	池　田　展　敏
				堀　江　志　穂
A-5-a-09-2-2	コンピュータサイエンス概論	後期	食専2	池　田　展　敏

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　子ども生活専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目		学期	対象学科	教　　員
B-3-a-01-2-1	保育原理	必修	前期	子専1	山　沢　智　樹
B-3-a-02-2-1	教育原理	必修	前期	子専1	山　沢　智　樹
B-3-a-03-2-1	子ども家庭福祉論	必修	前期	子専1	米　川　純　子
B-3-a-04-2-1	社会福祉論	必修	前期	子専1	大瀬戸　美　紀
B-3-a-05-2-2	地域福祉論		後期	子専2	米　川　純　子
B-3-a-06-2-2	子ども家庭支援論	必修	後期	子専2	浅　野　咲　子
B-3-a-07-2-1	社会的養護Ⅰ	必修	後期	子専1	大瀬戸　美　紀
B-3-a-08-2-2	保育者論	必修	後期	子専2	岡　崎　善　治
B-3-a-09-2-2	教育・保育制度論	必修	後期	子専2	山　沢　智　樹
B-3-b-01-2-1	発達心理学	必修	後期	子専1	三　浦　主　博
B-3-b-02-2-2	子ども理解の理論と方法	必修	前期	子専2	三　浦　主　博
B-3-b-03-2-2	教育心理学	必修	後期	子専2	植　松　公　威
B-3-b-04-2-2	子ども家庭支援の心理学	必修	後期	子専2	米　川　純　子
B-3-b-05-2-2	教育・保育相談	必修	前期	子専2	米　川　純　子
B-3-b-06-2-1	子どもの保健	必修	前期	子専1	千　葉　明　子
B-3-b-07-2-2	子どもの食と栄養Ⅰ	必修	前期	子専2	菊　地　香保里
B-3-b-08-2-2	子どもの食と栄養Ⅱ	必修	後期	子専2	菊　地　香保里
B-3-c-01-2-2	教育課程論	必修	前期	子専2	山　沢　智　樹
B-3-c-02-2-1	保育の計画と評価	必修	後期	子専1	高　橋　恵　美
B-3-c-03-2-1	保育内容総論	必修	前期	子専1	高　橋　恵　美
B-3-c-04-2-1	保育内容（健康）	必修	前期	子専1	土　屋　葉　子
B-3-c-05-2-2	保育内容（健康Ⅱ）	必修	後期	子専2	土　屋　葉　子
B-3-c-05-2-1	保育内容（人間関係）	必修	前期	子専1	大瀬戸　美　紀
B-3-c-07-2-2	保育内容（人間関係Ⅱ）	必修	後期	子専2	大瀬戸　美　紀
B-3-c-06-2-1	保育内容（環境）	必修	後期	子専1	高　橋　恵　美
B-3-c-09-2-2	保育内容（環境Ⅱ）	必修	前期	子専2	高　橋　恵　美
					岡　崎　善　治
B-3-c-07-2-1	保育内容（言葉）	必修	後期	子専1	佐　藤　深　雪
B-3-c-11-2-2	保育内容（言葉Ⅱ）	必修	前期	子専2	佐　藤　深　雪
B-3-c-08-2-1	保育内容（表現Ⅰ）	必修	後期	子専1	横　山　美喜子
B-3-c-09-2-1	保育内容（表現Ⅱ）	必修	後期	子専1	佐　藤　和　貴
B-3-c-13-2-2	保育内容（表現Ⅱ）	必修	後期	子専2	横　山　美喜子
					佐　藤　和　貴
B-3-c-16-2-1	教育・保育方法論	必修	前期	子専1	岡　崎　善　治
					松　尾　　広
B-3-c-15-2-2	保育内容の指導法	必修	前期	子専2	高　橋　恵　美
B-3-c-16-2-2	保育の実技と演習	必修	前期	子専2	高　橋　恵　美
B-3-c-19-2-1	児童文化	必修	後期	子専1	安　藤　倫　子
B-3-d-02-2-2	児童文化Ⅱ		前期	子専2	横　山　美喜子
B-3-c-20-2-1	乳児保育Ⅰ	必修	前期	子専1	大　窪　裕喜惠
B-3-c-21-2-1	乳児保育Ⅱ	必修	後期	子専1	大　窪　裕喜惠
B-3-c-22-2-1	子どもの健康と安全	必修	後期	子専1	岩　佐　あけみ
B-3-c-22-2-2	障害児保育		前期	子専2	大瀬戸　美　紀
B-3-c-23-2-2	特別支援教育	必修	後期	子専2	岡　崎　善　治
B-3-c-24-2-2	社会的養護Ⅱ	必修	前期	子専2	大瀬戸　美　紀
					米　川　純　子
B-3-c-25-2-2	子育て支援	必修	後期	子専2	大瀬戸　美　紀
B-3-c-31-2-2	体育Ⅱ		前期	子専2	土　屋　葉　子
B-3-c-27-2-1	ピアノⅠ	必修	前期	子専1	佐　藤　和　貴
					阿　部　玲　子

2021年度　シラバス科目情報一覧

生活文化学科　子ども生活専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員
				渡　邉　　恵
				大　友　詠里子
				阿　部　陽　子
B-3-c-28-2-1	ピアノⅡ　　必修	後期	子専1	佐　藤　和　貴
				阿　部　玲　子
				渡　邉　　恵
				大　友　詠里子
				阿　部　陽　子
B-3-c-34-2-2	ピアノⅢ　　必修	前期	子専2	佐　藤　和　貴
				阿　部　玲　子
				渡　邉　　恵
				大　友　詠里子
				阿　部　陽　子
B-3-c-35-2-2	ピアノⅣ	後期	子専2	佐　藤　和　貴
				阿　部　玲　子
				渡　邉　　恵
				大　友　詠里子
				阿　部　陽　子
B-3-d-01-2-1	保育実習指導Ⅰ　　必修	通年	子専1	佐　藤　深　雪
				高　橋　恵　美
				山　沢　智　樹
				子ども生活専攻教員
B-3-d-02-2-2	保育実習指導Ⅱ　　必修	通年	子専2	横　山　美喜子
				大瀬戸　美　紀
				米　川　純　子
				子ども生活専攻教員
B-3-e-01-2-1	教育実習(事前)指導（１年次）	通年	子専1	佐　藤　深　雪
				高　橋　恵　美
				山　沢　智　樹
				子ども生活専攻教員
B-3-e-01-2-2	教育実習(事前・事後)指導（２年次）　必修	通年	子専2	横　山　美喜子
				大瀬戸　美　紀
				米　川　純　子
				子ども生活専攻教員
B-3-e-02-3-2	保育・教職実践演習（幼稚園）　　必修	後期	子専2	高　橋　恵　美
				岡　崎　善　治

生活文化学科共通教養科目

生物と生命倫理

(30001)

単位：２単位
対象学科：子専１年・食専１年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
堀　江　佐知子

■ 授業の概要

本講義は、生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目標とし講義を行う。

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	①
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。	③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第２回　原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第３回　地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第４回　魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第５回　植物の進化	植物の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第６回　哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第７回　鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第８回　昆虫の進化	昆虫の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第９回　人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回　ヒトの設計図，遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回　心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回　骨と筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回　免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回　脳と心	脳について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回　講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回　試験	試験対策を行う。

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、講義の終了時に受付ける。

地球環境学

(30002)

単位：２単位
対象学科：子専２年・食専２年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

日本各地で公害問題が多発した1960～1970年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を紹介しながら講義を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・環境に関する基礎的知識を身に付ける。	①②
・環境との関わり方の大切さについて理解を深める。	①②
・環境に関する正しい情報を選択できる力を身に付ける。	①②

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　地球環境学とは	事後：授業内容の復習。
第２回　人間活動と環境とのかかわり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　水俣病	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第４回　飲料水と食品に関する今後の課題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第５回　中村　哲医師：アフガンとの約束	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第６回　環境変化に伴う異変	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第７回　外来種問題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第８回　環境DNA	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第９回　化学物質汚染研究の基礎	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第10回　大気汚染・水質汚染・土壌汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第11回　化学物質による汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第12回　内分泌撹乱物質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第13回　エコチル調査	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第14回　環境活動の実践と環境倫理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第15回　環境教育	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第16回　試験	授業で学んだこと総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

日頃から環境に関心・興味を持つように心がけ、新聞、テレビ、インターネット、書籍等で環境に関する情報について調べておく。

■ 成績評価方法・基準
・授業への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（30%）、課題への取り組み（30%）、試験（40%）
・提出された課題については、後日、添削して返却する。

■ 教科書
「環境科学入門　第2版－地球と人類の未来のために」川合真一郎・張野宏也・山本義和（化学同人）〔2，300円〕

■ 参考書
・〔環境ホルモンと水生生物〕〔川合真一郎〕〔成山堂書店〕〔1，600円〕
・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹簗一訳〕〔新潮社〕〔766円〕
・〔新装版　苦海浄土（くがいじょうど）　わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690円〕
・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640円〕
・〔牡蠣の森と生きる「森は海の恋人」の30年〕〔畠山重篤〕〔中央公論新社〕〔1，430円〕.
・〔人は愛するに足り、真心は信ずるに足る　アフガンとの約束〕〔中村　哲、澤地久枝（聞き手）〕〔岩波書店〕〔2，310円〕
・〔脱プラスチックへの挑戦　持続可能な地球と世界ビジネスの潮流〕〔堅達京子〕〔山と渓谷社〕〔1，650円〕
・〔環境再興史〕〔石　弘之〕〔角川新書〕〔990円〕
・〔データでわかる2030年地球のすがた〕〔夫馬賢治〕〔日経プレミアシリーズ〕〔990円〕
・〔売り渡される食の安全〕〔山田正彦〕〔角川新書〕〔946円〕
・〔世界を驚かせた頭のいい江戸のエコ生活〕〔菅野俊輔〕〔青春出版社〕〔922円〕
・〔ハチドリのひとしずく〕〔監修・辻　信一〕〔光文社〕〔1，143円〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

消費生活と経済

(30003)

単位：２単位
対象学科：子専２年・食専２年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
舛　谷　謙　ニ

■ 授業の概要

われわれが享受している豊かな消費生活は「大量生産・大量販売・大量消費システム」による高度経済成長から、今日の「経済活動のグローバル化」に至る経済成長によってもたらされた。しかし、その過程では消費生活を脅かす欠陥商品・不当表示・契約トラブルなど多様な問題もあった。

この授業では、われわれの消費生活を背後で支える経済のメカニズムや、その発展の歩みを概観するとともに、さまざまな「消費者問題」の発生と対処について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・経済活動の基礎的メカニズムが理解できる。	①②
・消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。	①②
・消費者問題の内容と対処法が理解できる。	①②

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認など	シラバスを精読して授業に臨む。
第２回　経済発展と消費生活の変容（1970年代まで）	レポートを作成して次回提出する。
第３回　経済発展と消費生活の変容（1980年代から）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第４回　消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（最適消費の理論）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第５回　消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（雇用と物価）	レポートを作成して次回提出する。
第６回　理念としての消費者と現実の消費者（消費者主権）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第７回　消費者問題の概要（1）消費者保護基本法の基本視角	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第８回　消費者問題の概要（2）PL法から消費者基本法へ	レポートを作成して次回提出する。
第９回　クレジット社会の消費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第10回　情報化社会の諸費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第11回　高齢社会の消費者問題	レポートを作成して次回提出する。
第12回　企業・消費者・行政	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第13回　消費者保護から自立支援へ	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第14回　消費者政策と消費者教育	レポートを作成して次回提出する。
第15回　補足と授業のまとめ	授業でのキーワードを辞書で調べる。

■ 履修上の注意

テレビや新聞で日々の経済の動きや消費者問題の動向について継続的にチェックしておくこと。
※初回授業には必ず出席すること。

■ 成績評価方法・基準

授業内で提出するミニットペーパー（75%）・5回の課題レポート（25%）で評価する。なお、レポートについては授業中に、ミニットペーパーについては次回授業でフィードバックする。

■ 教科書

プリントを配布する。

■ 参考書

授業中に適宜指示する。

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

社会学

(30004)

単位：２単位
対象学科：子専２年・食専２年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人の関係に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけ行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・社会に関する幅広い教養を身につける	①②
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける	④
・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 「社会」という言葉
第２回　自己と他者の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す アイデンティと役割理論
第３回　常識の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 制度・規範・統制・階層
第４回　自殺の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 社会的自殺率、アノミーとむなしさ
第５回　経済の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 社会階層と文化資本、資本主義の起源
第６回　政治の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 政治的公正、支配、ナショナリズム
第７回　教育の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 学校化、遊びと学び、教育と近代国家
第８回　家族の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 日本のイエ制度、近代家族論
第９回　つながりの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す コミュニケーション論、社会関係資本論
第10回　倫理の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 宗教と倫理、共同体と倫理
第11回　宗教の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 神・教典・宗教集団、近代と宗教
第12回　不安の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第13回　対立の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 連帯と分断、イデオロギーと文化戦争
第14回　歴史の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べる

	事後学修：配布資料を見直す 市民社会と自由、近代化
第15回　まとめ	全体の振り返り

■ 履修上の注意
マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準
①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書
使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書
①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1，200円＋税。
②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成―知識社会学論考』新曜社、2，900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終業時に受け付ける。

日本国憲法

(30005)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	①
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。	①
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。	①

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。
第２回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する。（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第３回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第４回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第５回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第６回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第７回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第８回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
第９回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する。
第10回	幸福追求権と法の下の平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。

第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。

■ 成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

日本国憲法

(30006)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールを定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	①
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。	①
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。	①

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。
第２回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する。（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第３回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第４回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第５回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第６回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第７回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第８回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
第９回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する。
第10回	幸福追求権と法の下の平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。
第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。

第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。

■ 成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

文化史

(30007)

単位：２単位
対象学科：子専２年・食専２年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要

わたしたちの時間は、普段の暮らしという日常と、まつりやイベントという非日常で成り立っている。非日常的な行事や儀礼の多くは、季節の切り替わり（春／夏／秋／冬）や年齢の節目（おとな／こども）をつくりだし、生活や人生にメリハリを与える「年中行事」と「人生儀礼」である。この講義では、過去と現在における口頭伝承・民間習俗を手がかりに、さまざまな行事や儀礼の様式およびその歴史的・文化的背景、日本社会における暮らし方・生き方をめぐる諸問題について考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本の民俗文化に関する幅広い教養を身につける	①②
・日本の年中行事・人生儀礼とその文化的背景について、意欲的に調べ説明することができる	④⑤⑥
・日本社会における暮らし方・生き方について、主体的に考え議論ことができる	④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す さまざまな時間論
第２回　季節と暦の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す さまざまな暦法と祝日、日の吉凶
第３回　春と夏の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 正月、春のまつり・夏のまつり
第４回　秋と冬の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す お盆、秋のまつり・冬のまつり
第５回　年齢と人生の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第６回　誕生の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 名づけ、初宮詣、初誕生
第７回　子どもと若者の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第８回　おとなの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第９回　老いの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望
第10回　病の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 病気と健康の曖昧さ、病気なおし
第11回　医の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第12回　ケアの民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第13回　死の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す

	死の曖昧さ、死の受容、看取り
第14回　死後の民俗文化	事前学修：次回のキーワードを調べる 事後学修：配布資料を見直す 「あの世」の比較文化論
第15回　まとめ	全体の振り返り

■ 履修上の注意
マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準
①授業への参加度・理解度（ミニットペーパー）［50%］、②レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書
使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書
〔『暮らしの中の民俗学』1〜3（吉川弘文館、2003年）〕〔新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）〕
〔各2，600円＋税〕その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。

心理学

(30008)

単位：２単位
対象学科：子専１年・食専１年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い，心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究の特色，とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について，実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として，行動主義心理学や社会的学習理論，精神分析学などを取り上げ，それぞれの理論を説明する。また，記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・1．条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	①
・２行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析学の各理論の人物名とキーワードを理解する。	①
・３記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。	①

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（教授内容と教育目標）	あらかじめシラバスを熟読すること
第２回　条件操作的な実験の重要性についてー「利口な馬ハンス」の話などー	資料を熟読し、要点をまとめること
第３回　心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し，要点をまとめること
第４回　説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること
第５回　心理学を勉強すれば人の心がわかるようになるか	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること
第６回　現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること
第７回　現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること
第８回　現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること
第９回　現代の心理学の背景④ 精神分析学（フロイトの理論）	資料とノートを復習し，要点をまとめること
第10回　精神分析学における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し，専門用語を理解すること
第11回　自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し，練習問題に取り組むこと
第12回　まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと
第13回　記憶の実験ー系列位置曲線と系列位置効果ー	実験結果の考察を考え，レポートすること
第14回　記憶のしくみー感覚的記憶・短期記憶・長期記憶ー	ノートを見直し，専門用語を理解すること
第15回　エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し，感想をまとまること
第16回　試験	試験対策の学習をすること

■ 履修上の注意
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題20%，試験80%。
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書
授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜，紹介する。

■ 備考
質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

健康管理学

(30009)

単位：２単位
対象学科：子専２年・食専２年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

「健康」。それを守ることは人間にとって非常に重要な課題である。世界でも有数の長寿国となったこの日本で、心身ともに健康な状態で生活していくために、本講義では、まず自身の健康に興味を持ち、将来にわたって健康でより良い生活を送ることができる能力や知識を身につけ、実践できる力を養っていく。

さらに、現代社会で問題とされる様々な健康についての課題を共に考え、今後の自身及び周囲の健康保持に役立てることができるよう具体的に指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・自身の健康について興味を持つことができる。	①②
・健康を守る事のできる知識、能力を身につける（３・６は子のみ）。	①②③⑥
・将来にわたって、健康でより良い生活を送ることができる実践力を身につける（６は子のみ）。	①②⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康の概念	本講義の学習内容について確認する。
第２回　青年期の発育と発達①身体的特性	次時学習についての関連情報を図書館等で収集する（毎時）。
第３回　青年期の発育と発達②呼吸・循環機能の発達	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第４回　性の科学　○性とは	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第５回　○男性・女性の生理①女性のライフサイクル	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第６回　○男性・女性の生理①男性のライフサイクル	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第７回　○結婚・妊娠	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第８回　○妊娠・出産	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第９回　○性行為感染症	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第10回　○性行為感染症（AIDSについて）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第11回　○避妊	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第12回　更年期障害 について	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第13回　健康管理○ライフステージ別の健康管理（前思春期・思春期）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第14回　健康管理○ライフステージ別の健康管理（成熟期・更年期）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第15回　健康管理○ライフステージ別の健康管理（老年期）・まとめ）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第16回　試験	試験対策を行う。

■ 履修上の注意

初回ガイダンスで説明する履修上の注意（授業には積極的に参加すること等）を遵守すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（70%）、及び試験（30%）により総合的に評価する。
提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

健康スポーツⅠ

(30010)

単位：１単位
対象学科：子専１年・食専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

生涯スポーツという事が近年盛んに謳われており、また、体力の低下が叫ばれている現代、最終学府としての体育の授業は、卒業後の健康を考える上で大変重要な役割を担っていると考える。本講義ではスポーツ・各種運動を通じ、運動を日常のものにするべく基礎技術の実習を行うとともに、運動の必要性、健康のあり方を見直し、将来に向けての身体作りの一歩とする。また、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・運動の楽しさを体感し、日常生活に取り入れることができる。	①④⑥
・自身の体力を維持できる知識、能力を身に付ける（5は子のみ）。	①⑤⑥
・自然と親しみ、その中で運動を楽しむことができる（5は子のみ）。	①④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。
第２回　新体力テスト	新体力テストの内容を理解する。
第３回　新体力テスト（シャトルラン）	新体力テストの内容を理解する。
第４回　自然散策（台原森林公園）	体力作り、維持に努める。
第５回　球技（バレーボール・バスケットボール他）	体育祭に向けてクラスで準備をする。
第６回　球技（バレーボール・バスケットボール他）	体育祭に向けてクラスで準備をする。
第７回　大縄跳び（8の字跳び・全員跳び）	体力作り、維持に努める。
第８回　インディアカ①基礎練習　2人組	インディアカのルールについて調べる。
第９回　インディアカ②基礎練習　グループ分け	体力作り、維持に努める。
第10回　インディアカ③基礎練習　サーブ練習	体力作り、維持に努める。
第11回　インディアカ④ゲーム　総当たり1回目	体力作り、維持に努める。
第12回　インディアカ⑤ゲーム　総当たり2回目	体力作り、維持に努める。
第13回　インディアカ⑥ゲーム　総当たり3回目	体力作り、維持に努める。
第14回　自然散策（台原森林公園）	体力作り、維持に努める。
第15回　新体力テスト（シャトルラン）	自らの体力・健康を振り返り、後期までの課題を持つ。

■ 履修上の注意

毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とする。
初回のガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・平常点90％（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート10％により総合的に評価する。提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、指示する。

■ 備考

毎回10分間走を行う。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。

健康スポーツⅡ

(30011)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯、自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるよう具体的に考えていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・自身の体力を維持できる実践力を身につける。	①④⑥
・自然と親しみ、その中での運動を日常のものにすることができる。	①⑥
・運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。	①④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）	毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。
第２回　大縄跳び（8の字・全員跳び）	体力作り、維持に努める。
第３回　ドッジボール	体力作り、維持に努める。
第４回　ソフトボール①基礎練習キャッチボール(1)	ソフトボールのルールについて調べる。
第５回　ソフトボール②基礎練習キャッチボール(2)	体力作り、維持に努める。
第６回　ソフトボール③打撃練習(1)	体力作り、維持に努める。
第７回　ソフトボール④打撃練習(2)	体力作り、維持に努める。
第８回　ソフトボール⑤打撃練習(3)	体力作り、維持に努める。
第９回　ソフトボール⑥ゲーム	体力作り、維持に努める。
第10回　二人三脚（クラス全員）	体力作り、維持に努める。
第11回　ダブルダッチ①基本の跳び方	ダブルダッチの理解に努める。
第12回　ダブルダッチ②応用編	体力作り、維持に努める。
第13回　ミニ運動会	体力作り、維持に努める。
第14回　台原森林公園	体力作り、維持に努める。
第15回　新体力テスト（シャトルラン）	体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。

■ 履修上の注意

毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・平常点90%（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート10%により総合的に評価する。提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、指示する。

■ 備考

毎回10分間走を行う。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。

健康スポーツⅡ

(30012)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ、さらに自身の健康に興味を持ち、将来役立てる事の出来る運動の技術の習得を目指すとともに、運動の楽しさを体感し、日常生活で実践できる具体的な方法を学習する。また、四季を感じながら、自然の中での運動の楽しさ、魅力についても体感し、今後に役立てていけるように考えていき、生涯自身の体力を維持できる知識、能力を身に付け、実践することができるよう具体的に考えていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・自身の体力を維持できる実践力を身につける。	①④⑥
・自然と親しみ、その中での運動を日常のものにすることができる。	①⑤⑥
・運動の楽しさを体感し、日常生活で実践することができる。	①④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス・新体力テスト（シャトルラン）	毎日少しでも歩くことを心がける（毎時）。
第２回　身体運動（ダンス・アンパンマン体操）	体力作り、維持に努める。
第３回　身体運動（ダンス・アンパンマン体操）	体力作り、維持に努める。
第４回　身体運動（ダンス・アンパンマン体操）	体力作り、維持に努める。
第５回　大縄跳び（8の字・全員跳び）	体力作り、維持に努める。
第６回　ソフトボール①基礎練習キャッチボール（1）	ソフトボールのルールについて調べる。
第７回　ソフトボール②基礎練習キャッチボール（2）	体力作り、維持に努める。
第８回　ソフトボール③打撃練習（1）	体力作り、維持に努める。
第９回　ソフトボール④打撃練習（2）	体力作り、維持に努める。
第10回　ソフトボール⑤打撃練習（3）	体力作り、維持に努める。
第11回　ソフトボール⑥ゲーム	体力作り、維持に努める。
第12回　二人三脚（クラス全員）	体力作り、維持に努める。
第13回　ダブルダッチ	ダブルダッチの理解に努める。
第14回　台原森林公園	体力作り、維持に努める。
第15回　新体力テスト（シャトルラン）	体力・健康について振り返り、今後の健康維持への目標を持つ。

■ 履修上の注意

毎回、授業開始後に10分間走を行うので、遅刻は授業最初に行う準備体操前までとする。また遅刻は2回で1回の欠席とする。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・平常点90%（授業への参加状況及び取り組み姿勢等で総合的に判断する）、レポート10%により総合的に評価する。　提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、指示する。

■ 備考

毎回10分間走を行う。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。

日本語基礎

(30013)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
本講義では、まず「日本語とはどういう言語か」その特徴を解説する。言葉集めや言葉遊びといった言語活動を実際に行いながら理解を深める。また、これまでの文章表現について振り返り「伝わる文章」を書く技術を習得させる。実際に「200字作文」を書く言語活動を通して、基礎的な作文技術を指導する。スキルの理解、作文（活用）、合評会（相互評価）、推敲という、一連の文章作成の過程を通して、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本語の特徴、文章表現技術についての基礎的な知識を得る。	①④
・学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。	①④
・自己評価・相互評価に意欲的に取り組み推敲する習慣を身に付ける。	①④

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：授業の概要と目的，課題の説明 「言葉」の意義と働き	資料「日本語の魅力」を読んでくる
第２回　日本語の特徴について　「日本語の魅力」を読む	「日本語の魅力」についてまとめる
第３回　文章表現について振り返る ①原稿用紙の使い方	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第４回　200字作文を書く（自己紹介）②文題　書き出し結び	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第５回　200字作文を書く（大好物）③動詞を選ぶ　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第６回　200字作文を書く（人物）④行動描写　話者　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第７回　200字作文を書く（風景）⑤叙述の順序　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第８回　200字作文を書く（ある日の出来事）⑥首尾照応　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第９回　合評会　相互評価後、推敲する	合評会に出す作文を推敲して提出
第10回　合評会　批評文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第11回　「勧誘・推薦文」を書く　構想　主張　アウトライン 他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第12回　「勧誘・推薦文」を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第13回　推敲と合評会　推敲する	推敲して書き直して提出
第14回　短歌を詠み味わう	短歌をつくって提出
第15回　短歌を詠み味わう　一首評を書く	自分の文章表現を振り返りまとめる

■ 履修上の注意
授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。

■ 成績評価方法・基準
提出課題と合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。200字作文（10点×５）勧誘・推薦文（２0点）振り返り作文（10点）合評会（10点×２）

■ 教科書
授業でワークシートを配布する。

■ 参考書
〔二百字作文練習〕〔金子泰子著〕〔渓水社〕〔１８００円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。

日本語基礎

(30014)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
本講義では、まず「日本語とはどういう言語か」その特徴を解説する。言葉集めや言葉遊びといった言語活動を実際に行いながら理解を深める。また、これまでの文章表現について振り返り「伝わる文章」を書く技術を習得させる。実際に「200字作文」を書く言語活動を通して、基礎的な作文技術を指導する。スキルの理解、作文（活用）、合評会（相互評価）、推敲という、一連の文章作成の過程を通して、社会人として要求される日本語運用能力を身に付けることを目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本語の特徴、文章表現技術についての基礎的な知識を得る。	①④
・学生あるいは社会人として要求される日本語運用能力を習得する。	①④
・自己評価・相互評価に意欲的に取り組み推敲する習慣を身に付ける。	①④

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：授業の概要と目的，課題の説明 「言葉」の意義と働き	資料「日本語の魅力」を読んでくる
第２回　日本語の特徴について　「日本語の魅力」を読む	「日本語の魅力」についてまとめる
第３回　文章表現について振り返る ①原稿用紙の使い方	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第４回　200字作文を書く（自己紹介）②文題　書き出し結び	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第５回　200字作文を書く（大好物）③動詞を選ぶ　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第６回　200字作文を書く（人物）④行動描写　話者　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第７回　200字作文を書く（風景）⑤叙述の順序　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第８回　200字作文を書く（ある日の出来事）⑥首尾照応　他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第９回　合評会　相互評価後、推敲する	合評会に出す作文を推敲して提出
第10回　合評会　批評文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第11回　「勧誘・推薦文」を書く　構想　主張　アウトライン 他	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第12回　「勧誘・推薦文」を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第13回　推敲と合評会　推敲する	推敲して書き直して提出
第14回　短歌を詠み味わう	短歌をつくって提出
第15回　短歌を詠み味わう　一首評を書く	自分の文章表現を振り返りまとめる

■ 履修上の注意
授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。
2年次後期に開講される「国語表現法」を続けて履修することが望ましい

■ 成績評価方法・基準
提出課題と合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。200字作文（10点×５）勧誘・推薦文（２0点）振り返り作文（10点）合評会（10点×２）

■ 教科書
授業でワークシートを配布する。

■ 参考書
〔二百字作文練習〕〔金子泰子著〕〔渓水社〕〔１８００円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。

国語表現法

(30015)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
本講義では、パラグラフライティング、及び文章全体の構成について理解を深め、実用的な文章を書く技術を習得させる。授業計画2～6回では、設定した目標スキルに関する演習問題を解き、毎回、学習したスキルを活かして小論文を書く活動を行う。その後、応用として、800字程度の意見文や自己PR・エントリーシートを書く活動を実施する。互いの文章を読みあい相互評価する合評会の時間を設け、「評価シート」に基づいた適切な批評文が書けるよう指導する。自己評価・相互評価を基に推敲する習慣を身に付けさせることをねらいとしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎を習得する。	①④
・実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付ける。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の概要と目的，課題の説明	自分の文章表現にかかわる課題について書く
第２回　①パラグラフの組み立て方	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第３回　②トピック文を生かして書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第４回　③必要十分なサポート文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第５回　④主張・データ・論拠	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第６回　⑤事実と意見をかき分ける	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第７回　⑥論点　「意見文を書く」	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第８回　⑦要約・引用　「意見文を書く」	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第９回　⑧批評文の書き方　「合評会」	合評会に向け事前に読んでくる
第10回　推敲と合評会　推敲して書き直す	推敲して書き直す
第11回　自己PR　エントリシートを書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第12回　自己PR　エントリシートを書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第13回　推敲と合評会　推敲して書き直す	推敲して書き直す
第14回　最終課題作文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第15回　文章表現学習を振り返る	自分の文章表現について振り返りまとめる

■ 履修上の注意
授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。課題作文は全て評価の対象となるので必ず提出すること。

■ 成績評価方法・基準
提出課題と作文、合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。提出課題（４０点）意見文・自己PR・最終課題作文（１５点×３）合評会（１５点）

■ 教科書
授業でワークシートを配布する。

■ 参考書
講義の中で適宜紹介する

■ 備考
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。

国語表現法

(30016)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
本講義では、パラグラフライティング、及び文章全体の構成について理解を深め、実用的な文章を書く技術を習得させる。授業計画２～６回では、設定した目標スキルに関する演習問題を解き、毎回、学習したスキルを活かして小論文を書く活動を行う。その後、応用として、800字程度の意見文や自己PR・エントリーシートを書く活動を実施する。互いの文章を読みあい相互評価する合評会の時間を設け、「評価シート」に基づいた適切な批評文が書けるよう指導する。自己評価・相互評価を基に推敲する習慣を身に付けさせることをねらいとしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・学生あるいは社会人として要求される実用的な文章表現の基礎を習得する。	①④
・実社会で活用できるコミュニケーション能力を総合的に身に付ける。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の概要と目的，課題の説明	自分の文章表現に関わる課題について書く
第２回　①パラグラフの組み立て方	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第３回　②トピック文を生かして書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第４回　③必要十分なサポート文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第５回　④主張・データ・論拠	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第６回　⑤事実と意見を書き分ける	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第７回　⑥論点　「意見文を書く」	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第８回　⑦要約・引用　「意見文を書く」	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第９回　⑧批評文の書き方　合評会	合評会に向け事前に読んでくる
第10回　推薦と合評会　推敲して書き直す	推敲して書き直す
第11回　自己PR・エントリシートを書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第12回　自己PR・エントリシートを書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第13回　推敲と合評会　推敲して書き直す	推敲して書き直す
第14回　最終課題作文を書く	授業で課せられた作文を仕上げて提出
第15回　文章表現学習を振り返る	自分の文章表現について振り返りまとめる

■ 履修上の注意
　授業の中で課せられた作文は、時間内に書き終わらない場合、次回までの宿題とする。課題作文は全て評価の対象となるので必ず提出すること。

■ 成績評価方法・基準
提出課題と作文、合評会の取り組み状況を評価する。提出課題については、授業の中で適宜フィードバックする。提出課題（４０点）意見文・自己PR・最終課題作文（１５点×３）合評会（１５点）

■ 教科書
授業でワークシートを配布する。

■ 参考書
講義の中で適宜紹介する

■ 備考
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）あるいは、学習支援センター（予約制）で受け付ける。

英語Ⅰ

(30017)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
裏　川　信　夫

■ 授業の概要
食に関する様々な分野（栄養・ダイエット・病気・GM food等）を簡単な英文や会話文に編集したものを配布し、コミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と食に関する知識、語彙力を養う。
各テーマをhandoutに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英語の読解力や簡単な英作文の技能を身に着けさせる。食に関する様々な話題についての関心・好奇心を高め、自分の意見を英語で表現でき、話し合えたり、発表できるようにさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	①③
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、話して聞き取ることができる。	①②
・食分野に関する英語表現を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	学習内容について確認する。
第２回　Balanced diet	予習プリントの解説と復習
第３回　Grains	予習プリントの解説と復習
第４回　Vegetables / Fruits	予習プリントの解説と復習
第５回　Milk and other dairy foods	予習プリントの解説と復習
第６回　Protein	予習プリントの解説と復習
第７回　Beans,　Peas,　and Lentils	予習プリントの解説と復習
第８回　復習・テスト	これまでの復習とテスト
第９回　How much each food group should you eat?	予習プリントの解説と復習
第10回　Sports and Diet	予習プリントの解説と復習
第11回　Foods and Allergies and Other Diseases	予習プリントの解説と復習
第12回　Genetically Modified Foods	予習プリントの解説と復習
第13回　Japanese Traditional Foods	予習プリントの解説と復習
第14回　Presentation (My Favorite Food)	Presentation
第15回　Presentation (My Favorite Food)	Presentation

■ 履修上の注意
必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）
授業中の2回の試験60%(内1回はpresentation)
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書
授業前にプリントを配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

英語Ⅰ

(30018)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
裏　川　信　夫

■ 授業の概要

保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の一日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。英語Ⅰでは1章～8章を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	①③
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。	①②
・保育分野に関する英語表現を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス・アンケート・挨拶と自己紹介	前期の学習内容について確認する。英語で自己紹介。
第２回　入学前英語課題復習	入学前課題のe-learningを復習する。
第３回　新学期・園の人々・園舎	テキスト1章を読んで解き、ノートをまとめる。
第４回　登園・家族	テキスト2章を読んで解き、ノートをまとめる。
第５回　室内あそび・欠席の連絡	テキスト3章を読んで解き、ノートをまとめる。
第６回　外あそび・遊具	テキスト4章を読んで解き、ノートをまとめる。
第７回　復習・テスト	１～４章の復習・テスト
第８回　伝承童話	英語圏の伝承童話について学び、感想等をまとめる。
第９回　園庭・けんか	テキスト5章を読んで解き、ノートをまとめる。
第10回　文法①（動詞）	動詞の用法について復習する。
第11回　昼食・献立表	テキスト6章を読んで解き、ノートをまとめる。
第12回　着替え・おはなし	テキスト7章を読んで解き、ノートをまとめる。
第13回　トイレ・お昼寝	テキスト8章を読んで解き、ノートをまとめる。
第14回　まとめ	ノートや小テストを参考にし、前期の学習を振り返る。
第15回　復習・テスト	５～８章の復習・テスト

■ 履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）2回のテスト60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1，900円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

英語Ⅱ

(30019)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
裏　川　信　夫

■ 授業の概要

英語Ⅰで身に付けた英語力を使って外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、日本文化の説明の仕方を学ぶ。演習を通じて実際に英語が使えるようになることを目指す。身近なトピック、自己紹介や趣味、栄養に関すること等を簡単な英語で話せるように指導する。授業は学生の学習進捗状況によって進めてゆく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	①③
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、話して聞き取ることができる。	①②
・様々な分野に関する英語表現を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	学習内容について確認する。
第２回　自己紹介	予習プリント配布
第３回　日本食について（外国料理との違い）	予習プリント配布・小テストの復習
第４回　日本の名所・旧跡について	予習プリント配布・小テストの復習
第５回　日本独特のマナーを外国のそれとの違いについて	予習プリント配布・小テストの復習
第６回　日本食の作り方について	予習プリント配布・小テストの復習
第７回　ダイエットについて	予習プリント配布・小テストの復習
第８回　復習・テスト	復習及びこれまでの範囲のテスト
第９回　食と病気との関係について（アレルギー・糖尿病等）	予習プリント配布
第10回　GM食品について	予習プリント配布・小テストの復習
第11回　栄養素について	予習プリント配布・小テストの復習
第12回　断食について	予習プリント配布・小テストの復習
第13回　スポーツと栄養の関係について	予習プリント配布・小テストの復習
第14回　フードロスについて	予習プリント配布・小テストの復習
第15回　復習・テスト	

■ 履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）2回のテスト60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

英語Ⅱ

(30020)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
裏　川　信　夫

■ 授業の概要

保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の一日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、短文表現の作文、リスニング問題等を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。時間が許せばスキットを作り演じる。英語Ⅱでは9章～17章を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	①③
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。	①②
・保育分野に関する英語表現を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	後期の学習内容について確認する。
第２回　病気・身体の名称	テキスト9章を読んで解き、ノートをまとめる。
第３回　感情・緊急連絡	テキスト10章を読んで解き、ノートをまとめる。
第４回　文法②（文の種類）	文の種類について復習する。
第５回　行事の案内状・電話連絡	テキスト11章を読んで解き、ノートをまとめる。
第６回　運動・動作	テキスト12章を読んで解き、ノートをまとめる。
第７回　散歩(1)・地図	テキスト13章を読んで解き、ノートをまとめる。
第８回　復習・テスト	ノートや小テストを見て復習
第９回　散歩(2)・交通	テキスト14章を読んで解き、ノートをまとめる。
第10回　お絵かき・お手紙	テキスト15章を読んで解き、ノートをまとめる。
第11回　文法③（前置詞）	前置詞の用法について復習する。
第12回　園行事③　クリスマス	クリスマス行事に関する英語表現を学び、復習する。
第13回　雪の日・工作	テキスト16章を読んで解き、ノートをまとめる。
第14回　降園・お知らせ	テキスト17章を読んで解き、ノートをまとめる。
第15回　復習・テスト	ノートや小テストを見て、前期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

テキストとともに必ず辞書（スマホ携帯は不可）を持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）テスト2回60%
毎時の小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

〔新・保育の英語〕〔森田和子〕〔三修社〕〔1，900円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

情報処理Ⅰ

(30021)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要
Word、Excel、PowerPointの操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、栄養指導の媒体作成やプレゼンテーションができるように、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。	①
・データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。	①
・プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。	①

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	前期の学習内容を確認する。
第２回　Wordによる文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）	ビジネス文書の様式を理解する。
第３回　Wordによる文書作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第４回　Wordによる文書作成（表）	表の操作について理解する。
第５回　Wordによる文書作成（表、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第６回　Wordによる文書作成（図）	図の挿入、編集方法について理解する。
第７回　Wordによる文書作成（図、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第８回　Excelによる表計算（計算式・関数）	計算式の表現方法を理解する。
第９回　Excelによる表計算（計算式・関数）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回　Excelによる表計算（関数、練習問題）	関数の利用方法を理解する。
第11回　Excelによる表計算（グラフ）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第12回　Excelによる表計算（グラフ、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第13回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（基本操作）	操作の流れを確認し、反復する。
第14回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（レイアウト）	操作の流れを確認し、反復する。
第15回　演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）	前期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。
テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書
〔実践ドリルで学ぶOffice活用術〕〔noa出版編〕〔noa出版〕〔1，324円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報処理Ⅰ

(30022)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要

Word、Excel、PowerPointの操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、視聴覚教材の作成やプレゼンテーションができるよう、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。	①
・データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。	①
・プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。	①

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	前期の学習内容を確認する。
第２回　Wordによる文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）	ビジネス文書の様式を理解する。
第３回　Wordによる文書作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第４回　Wordによる文書作成（表）	表の操作について理解する。
第５回　Wordによる文書作成（表、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第６回　Wordによる文書作成（図）	図の挿入、編集方法について理解する。
第７回　Wordによる文書作成（図、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第８回　Excelによる表計算（計算式・関数）	計算式の表現方法を理解する。
第９回　Excelによる表計算（計算式・関数）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回　Excelによる表計算（関数、練習問題）	関数の利用方法を理解する。
第11回　Excelによる表計算（グラフ）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第12回　Excelによる表計算（グラフ、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第13回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（基本操作）	操作の流れを確認し、反復する。
第14回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（レイアウト）	操作の流れを確認し、反復する。
第15回　演習内容のまとめ、まとめの課題（Word、Excel）	前期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。
テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

〔実践ドリルで学ぶOffice活用術〕〔noa出版編〕〔noa出版〕〔1，324円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報処理Ⅱ

(30023)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPointの操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特にWordとExcelの連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらにExcelをデータベースとして利用する方法、Wordと連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPointではプレゼンテーションを効果的に行うための準備作業について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・Word、Excel、PowerPointなどを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。	①

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	後期の学習内容について確認する。
第２回　Excelによる表計算（データベース）	データベースの構成方法を理解する。
第３回　Excelによる表計算（データベース練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第４回　Excelによる表計算（ピボットテーブル）	ピボットテーブルの操作を理解する。
第５回　Excelによる表計算（ピボットテーブル練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第６回　WordとExcelの連携（コピーアンドペーストの応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第７回　WordとExcelの連携（差し込み印刷）	差し込み印刷の仕組みを理解する。
第８回　レポートの作成法（Word）	ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。
第９回　レポートの作成法（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第11回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第12回　PowerPointによるプレゼンテーション	操作の流れを確認し、反復する。
第13回　まとめの課題（Word）	後期の学習内容を振り返る。
第14回　まとめの課題（Excel）	後期の学習内容を振り返る。
第15回　まとめの課題（PowerPoint）	後期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。
テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書
（情報処理Ⅰの教科書と同じ）

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報処理Ⅱ

(30024)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要
情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPointの操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特にWordとExcelの連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらにExcelをデータベースとして利用する方法、Wordと連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPointではプレゼンテーションを効果的に行うための準備作業について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・Word、Excel、PowerPointなどを適切に組み合わせて体裁が整った文書・プレゼンテーションを作成できる。	①

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	後期の学習内容について確認する。
第２回　Excelによる表計算（データベース）	データベースの構成方法を理解する。
第３回　Excelによる表計算（データベース練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第４回　Excelによる表計算（ピボットテーブル）	ピボットテーブルの操作を理解する。
第５回　Excelによる表計算（ピボットテーブル練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第６回　WordとExcelの連携（コピーアンドペーストの応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第７回　WordとExcelの連携（差し込み印刷）	差し込み印刷の仕組みを理解する。
第８回　レポートの作成法（Word）	ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。
第９回　レポートの作成法（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第11回　PowerPointによるプレゼンテーション作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第12回　PowerPointによるプレゼンテーション	操作の流れを確認し、反復する。
第13回　まとめの課題（Word）	後期の学習内容を振り返る。
第14回　まとめの課題（Excel）	後期の学習内容を振り返る。
第15回　まとめの課題（PowerPoint）	後期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意
つまずいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。
テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書
（情報処理Ⅰの教科書と同じ）

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スタディスキルズ

(30025)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要
高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指すほか、実習に対する態度やお礼状の書き方など、専門科目を学ぶ上での常識も学んでいく。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・本学の歴史を理解する。	①
・学内における生活上の常識や学内施設使用の仕方を理解する。	①⑥
・常識的な主要5科目の基礎学力を身につける。	①
・一般的な学習方法（ノート等）や学科・専攻の学習目的を理解する。	①④⑥

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	ガイダンスおよび短大生活・プレイスメントテスト（１年担任、土屋・池田）	配布プリントの復習。
第２回	学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）（1年生担任、学習支援委員）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了。
第３回	短大における学修について（学長による講話）	配布プリントの復習。
第４回	学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート 等）（松尾、他）	配布プリントの復習。
第５回	e-learning（国語）の復習（池田、他）	配布プリントの復習。e-learningの予習・復習。
第６回	漢字や語彙の学習（学習支援委員）	配布プリントの復習。
第７回	e-learning（理科・数学）の復習（池田、他）※「７，８，９」は並行して行う。	配布プリントの復習。宿題の提出。
第８回	図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、1年生担任、他）　※「７，８，９」は並行して行う。	図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。
第９回	本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、黒川、木下、永沼、益田、宮地）　※「７，８，９」は並行して行う。	学園の歴史について感想等の記入を行う。
第10回	一般的な学習方法や専攻科目に関するアドバイス（講義・演習・実習の特性、スケジュール管理等）（池田、永沼、黒川、宮地、木下）	配布プリントの復習。
第11回	e-learning（英語）の復習（学習支援委員、他）	配布プリントの復習。宿題の提出。
第12回	e-learningの復習（新OA室にてドリル20課題など）池田	配布プリントの復習。e-learningの復習。
第13回	社会に関する常識（学習支援委員、宮地、木下）	配布プリントの復習。
第14回	お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）	配布プリントの復習。
第15回	短大生活と就職活動、各種アンケート（1年生担任、他）	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前e-learningを使用することがあるのでログイン方法等は忘れないこと。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準
提出物の提出状況とその内容（100%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書
毎回資料を配布する。

■ 参考書
e-learningの教材

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

スタディスキルズ

(30026)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
子ども生活専攻教員全員

■ 授業の概要

大学における初年次教育（導入教育・リメディアル教育等）を行う授業であり、本学（三島学園・東北生活文化大学短期大学部）の歴史や、施設の利用法を知った上で、マナーなどの生活面を含めた短大生としての学習方法（ノートの取り方、レポートの作成、資料の収集方法など）について学ぶ。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講するうえで必要な基礎学力の向上とともに、短大における学習がどのように将来（2年次の実習や就職後の仕事）と結びつくのか、話し合いや発表等を通して考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。	①④⑥
・学内施設使用の仕方を理解する。	①
・学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。	①
・学内における生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。	①②④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス・プレイスメントテスト(池田・土屋　他)	前期の学習内容について確認する。
第２回　学修ポートフォリオの記入（池田、1年担任　他）	ポートフォリオに記入し、学習の計画を立てる。
第３回　短大における学修について（学長講話）［佐藤学長］	講話の内容をまとめて感想等を記入する。
第４回　学習方法に関するアドバイス（授業形態の特性、学外実習とその準備について）（松尾　他）	大学における学習方法について確認する。
第５回　入学前課題の復習①（国語）（土屋　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第６回　入学前課題の復習②（国語）（土屋　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第７回　入学前課題の復習③（数学）（池田　他）※「7，8，9」は並行して行う。	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第８回　図書館の利用の仕方（検索の方法等）※「7，8，9」は並行して行う。	図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。
第９回　本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学）※「7，8，9」は並行して行う。	学園の歴史についての感想等を記入する。
第10回　日常生活のマナーについて（挨拶と言葉遣い）（土屋　他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第11回　一般教養①（文章表現）（佐藤深　佐藤和　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第12回　一般教養②（漢字）　（佐藤深　佐藤和　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第13回　一般教養③（地理）（佐藤和　土屋　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第14回　一般教養④（ことわざ）（佐藤深　佐藤和　他）	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第15回　タバコとアルコールについての講話［保健センター　佐藤とよ子先生］ まとめと後期の課題（1年担任　土屋　他）	講話についての感想等を記入する。 前期の学修を振り返り、夏休みの課題に取り組む

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。
提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・授業への参加状況（50%）、提出物の提出状況・内容（50%）。
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。

都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアアップセミナー

(30027)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要
社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。考える力の手段としては「コンセプトマップ」「ピラミッドストラクチャ」「クリティカルシンキング」を、チームワークや行動する力としては「ブレーンストーミング」「プレゼンの準備と練習」「電話対応演習（ロールプレイ）」などの演習を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・コミュニケーション能力を身につけること。	①⑥
・チームで問題解決をするための能力を習得する。	①⑥
・論理的思考や一歩を踏み出す力を身につける。	①⑥
・就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了すること。	①⑥

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	１．ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学修ポートフォリオ記入　（池田、1年生担任）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了。
第２回	２．コンセプトマップとは何か。（池田）	コンセプトマップの完成と復習。
第３回	３．コンセプトマップの活用法　（池田）	コンセプトマップの完成と復習。
第４回	４．説明と質問の発想方法　5W1Hの活用法とピラミッドストラクチャ、クリティカルシンキング（池田）	ピラミッドストラクチャの完成と復習。
第５回	５．ブレーンストーミング①　「ブレーンストーミングとは何か」「テーマ設定」（松尾、池田）	配布プリントの復習。
第６回	６．ブレーンストーミング②　「ブレーンストーミングとＫＪ法の実践」（松尾、池田、黒川、永沼、益田、木下）	配布プリントの復習。発表用紙の作成。
第７回	７．ブレーンストーミング③　発表準備（同上）	配布プリントの復習。発表準備。
第８回	８．プレゼンテーション演習①　前半グループの発表（同上）	プレゼンテーションの感想の提出。
第９回	９．プレゼンテーション演習②　後半グループの発表（同上）	プレゼンテーションの感想の提出。
第10回	10．履歴書、添え状、封筒の常識（池田、黒川、佐藤）※12と並行	履歴書雛型、添え状、封筒の提出。
第11回	11．エントリーシートを書くための自己ＰＲ作成（池田、黒川）※13と並行	自己PRの構想用紙の提出。
第12回	12．言葉の使い方と電話対応の基本（松尾、永沼、益田、木下）	配布プリントの復習。感想提出。
第13回	13．電話対応の練習（実践的な例）（松尾、永沼、益田、木下）	配布プリントの復習。感想提出。
第14回	14．喫煙リスク等、職場における健康管理（外部講師による）	配布プリントの復習。感想提出。
第15回	15．就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（池田、1年生担任）	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意
配られた資料はファイルに閉じて整理すること。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準
提出物の提出状況とその内容およびブレーンストーミングへの参加（80%）。小テスト（20%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書
毎回資料を配布する

■ 参考書
ビジネスマナー教本（配布予定）

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

キャリアアップセミナー

(30028)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
生活文化学科共通教養科目
子ども生活専攻教員全員

■ 授業の概要

前期開講のスタディスキルズ（初年次教育）の授業を引き継ぎ、短大での学生生活、2年次に予定されている保育実習（保育所・施設）及び教育実習（幼稚園）、就職後の仕事に必要なスキル（基本的なマナー、文章作成、一般教養など）について、保育、教育実習指導の授業と連携しながら学習する。また、就職活動の方法や知識等についても学び、卒業後の社会生活におけるキャリアについて話し合いや発表等を通して考え、具体的なイメージをもてるようにしていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・学生・社会人としてのマナーや一般教養を学ぶ。	①②④⑥
・2年次の実習や就職後に必要となる知識や技能について学ぶ。	①④⑥
・就職活動について知識を獲得し、卒業後のキャリア形成について考える。	①②④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーションと夏季休業中の課題についての振り返り 学習ポートフォリオ記入（1年担任　土屋　他）	後期の学習内容について確認する。
第２回　日常生活の基本的マナー①（挨拶と言葉遣い）（全教員）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第３回　日常生活の基本的マナー②（服装と礼儀作法）（全教員）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第４回　日常生活の基本的マナー③（食事のマナー）（全教員）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第５回　日常生活の基本的マナー④（掃除の仕方）（全教員）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第６回　キャリア教育①（保育者セミナー）［就職支援センター］	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第７回　手紙の書き方	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第８回　履歴書・実習生調書の書き方①（説明）（土屋　佐藤和　他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第９回　履歴書・実習生調書の書き方②（記入）（土屋　佐藤和　他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第10回　履歴書・実習生調書の書き方③（記入・訂正） （添え状、封筒の説明も含む） （土屋　佐藤和　他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第11回　キャリア教育②（就職情報等の活用）［就職支援センター］	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第12回　面接・自己PRの仕方①（説明と原稿作成）（佐藤深　土屋　他）	作成した原稿をもとに、自己PRの練習を行う。
第13回　面接・自己PRの仕方②（実際の練習）（佐藤深　土屋　他）	面接練習を振り返り、自分の課題を明確にする。
第14回　キャリア教育③（公務員試験等）［就職支援センター］	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第15回　キャリア教育④（2年生就職内定者報告会）（2年担任） まとめ	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。
提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・授業への参加状況（50%）、提出物の提出状況・内容（50%）。
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は刑事で確認）で受け付ける。
都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアサポートセミナーⅠ

(30029)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：通年
生活文化学科共通教養科目
瀬　戸　典　彦　　教職員

■ 授業の概要

新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の大きな変化と、就職活動の早期化により難しい進路選択の決断を短期間で下すのに必要な業界・企業研究手法と自身の強み・興味関心とのマッチングの知識とスキルが求められている。そこで、本セミナーでは、業界・企業の比較研究の強化と、夏季インターンシップへの参加を推進し、進路選択に必要な知識とスキル、ＳＰＩ、小論文、エントリーシート、面接、ビジネスマナー等就職試験を突破する力を身に付けることが出来るよう指導していく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・幅広い視野で自らの進路を選択決定する力を身に付ける	①
・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける	①
・就職試験を突破する力を身に付ける	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　就職活動準備スタートアップセミナー （授業ガイダンス・就職活動の流れ等）	これからやるべきことを理解すること
第２回　これからの生き方・働き方を考えるセミナー	積極的に行動することの大切さを理解すること
第３回　自己分析セミナー （ツールを用いた自己分析）	自分自身の強みや興味関心がどこにあるのかを理解すること
第４回　業界・企業基礎研究セミナー	業界・企業に関する情報収集と研究手法を身に付けること
第５回　業界・企業比較研究セミナー① （企業の比較と業績の差を考える）	業界・企業によって異なる業績の差とその原因を考える研究手法を身に付けること
第６回　業界・企業比較研究セミナー② （企業分析と自己理解のマッチング）	振返り並びに企業分析と自分自身の強みや興味関心とのマッチング手法の基礎を身に付けること
第７回　インターンシップセミナー	インターンシップの目的を理解し、積極的に参加すること
第８回　インターンシップ用エントリーシート対策セミナー	インターンシップ用エントリーシートの書き方の基本を身に付けること
第９回　採用する側の事情を知るセミナー	採用する側の組織上の課題と求める人物像を理解すること
第10回　プレゼンテーションセミナー	自分自身を上手にアピールするプレゼンの基本を身に付けること
第11回　ＳＰＩ非言語基礎セミナー（損益算・割合等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第12回　ＳＰＩ非言語基礎セミナー（速さ・確率等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第13回　ＳＰＩ非言語応用セミナー（集合等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第14回　ＳＰＩ非言語応用セミナー（推論・グラフの領域等） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第15回　ビジネスマナーセミナー （就職活動は第一印象で決まる）	相手に好印象を与えるビジネスマナーを繰り返し実践して身に付けること
第16回　ＳＰＩ模擬試験	弱点を把握しその克服に努めること
第17回　小論文対策セミナー① （論文、小論文、作文の違いとは）	論文、小論文、作文の違いを理解すること
第18回　小論文対策セミナー② （実際に小論文を書いてみる）	簡潔で分かり易い文章の書き方を理解すること
第19回　ＳＰＩ模擬試験返りセミナー （模試の結果の復習と復習）	確実に正解できる問題を増やすこと
第20回　就職活動準備中間振返りセミナー （自己分析の復習と自己ＰＲの土台作り）	エントリーシートや面接で必ず問われる自己PRを完成させること
第21回　就活本番用エントリーシート対策セミナー①	自分の知っている範囲でしか選択することが出来

（企業分析から始める自己理解）	ないことを理解したうえで、選択肢の幅を広げる手法を身に付けること
第22回　就活本番用エントリーシート対策セミナー② （選択肢の幅を広げる企業分析）	具体的な企業の商品分析から、自分自身の興味関心を広げていく分析手法をみにつけること
第23回　就活本番用エントリーシート対策セミナー③ （自分自身の強みや興味関心と企業とのマッチング）	エントリーシートに関する自分自身の課題を把握し、解決の糸口を掴むこと
第24回　面接対策セミナー① （対面式面接対策とロールプレイ）	対面式面接の特徴と自分自身の課題を把握し、解決の糸口を掴むこと
第25回　面接対策セミナー② （ＷＥＢ面接対策とロールプレイ）	ＷＥＢ面接の特徴と自分自身の課題を把握し、解決の糸口を掴むこと
第26回　人事採用担当者セミナー （B to B と B to C企業の組織・職種・仕事）	企業の組織、職種、その職種ごとの仕事の内容を理解し、今後の進路選択に役立てること
第27回　情報セキュリティセミナー	情報セキュリティの基本を学び、様々なアプリを安全快適に利用できるようにすること
第28回　労働法基礎セミナー （労働法の基礎と求人票の見方）	働く上で必要な労働法の基礎と求人票の見方を理解し、企業の見る目を養うこと
第29回　就職活動準備振返りセミナー （就職活動の流れの再確認と就職環境）	就職活動の流れの再確認と就職環境を理解し、就職活動本番に備えること
第30回　内定者報告会	就職内定者のリアルな体験を聴き、自分の就職活動に活かすこと

■ 履修上の注意
学んだことを繰り返し復習し身に付けること。また、ミニットペーパーを活用して文章力向上に努めること
良好な授業環境の実現とコロナウイルス対策のためこの授業は座席指定制とする。
課外で行うセミナーにも積極的に参加して実力向上に努めること

■ 成績評価方法・基準
ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）出席（40%）授業態度（10%）
※他授業の内職を禁止する

■ 教科書
授業の際に資料を配布する

■ 参考書
業界地図　東洋経済新報社　1，300円　　会社四季報　東洋経済新報社　2，091円
就職四季報総合版　東洋経済新報社　1，900円　就職四季報女子版　東洋経済新報社　1，900円　※税抜価格

■ 備考
オフィスアワー
原則として、毎週木曜日の午後3時から午後6時以外の時間

キャリアサポートセミナーⅡ

(30030)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：前期
生活文化学科共通教養科目
瀬　戸　典　彦　　教職員

■ 授業の概要
本セミナーでは、一人ひとりが抱える就職活動上の課題解決の糸口が掴むことが出来る授業展開を行い、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、第1回目の授業の中でアンケート調査を行い、一人ひとりが感じている就職活動に関する問題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、集計したアンケート調査結果を講師陣と共有し、学生一人ひとりの課題解決に資する授業を展開し、各自の希望する進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・現在の就職環境をよく理解すること	①
・一人ひとりが抱える課題解決に努めること	③
・会社説明会に積極的に参加し進路選択に活用すること	⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　就職活動復習セミナー	就職活動の流れを再確認するとともに、現在の就職環境を理解し企業の採用選考に臨むこと
第２回　エントリーシート復習セミナー① （一人ひとりのエントリーシートの課題に答える）	エントリーシートに関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第３回　エントリーシート復習セミナー② （模擬エントリーシートを書いてみる）	エントリーシートに関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第４回　小論文復習セミナー① （一人ひとりの小論文の課題に答える）	小論文に関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第５回　小論文復習セミナー② （模擬小論文を書いてみる）	各論文に関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第６回　面接復習セミナー① （一人ひとりの面接の課題に答える）	面接に関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第７回　面接復習セミナー② （模擬面接ロールプレイ）	各面接に関する課題解決の糸口を掴む。学んだことを実践して結果を出すこと
第８回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第９回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第10回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第11回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第12回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第13回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第14回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること
第15回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択に必要な情報を収集すること

■ 履修上の注意
学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路実現に向かって努力すること

■ 成績評価方法・基準
ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）出席（40%）授業態度（10%）※他授業の内職を禁止する

■ 教科書
授業の際に資料を配布する

■ 参考書
業界地図　東洋経済新報社　1，300円　　会社四季報　東洋経済新報社　2，091円
就職四季報総合版　東洋経済新報社　1，900円　就職四季報女子版　東洋経済新報社　1，900円　※税抜価格

■ 備考
オフィスアワー
原則として、毎週木曜日午後3時から午後6時以外の時間

生活文化学科基幹科目

生活文化概論

(30051)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科基幹科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性―思想や思考、技術等について紹介する。私たちにとって「生活文化とは何か」について、食との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生活文化の概念や考え方について理解する。	①②
・生活文化の諸相を把握する知識を身につける。	①②
・生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。	①②

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート	資料をよく読み、この授業で取り組む学習内容や評価方法について復習する。
第２回　生活文化とは	資料をよく読み、生活文化とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）	資料をよく読み、生活文化と家政学や生活学との関連について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）	資料をよく読み、生活と様々な文化の関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　生活史（江戸時代の生活、生活と職業）	資料をよく読み、江戸時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　生活史（明治、大正時代の生活）	資料をよく読み、明治・大正時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　生活史（昭和から現在までの生活）	資料をよく読み、昭和以降の生活史について内容をまとめておく（次回小テスト）。
第８回　生活文化とジェンダー、家族、小テスト	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、小テストに備える。
第９回　生活文化と保育、子育て	資料をよく読み、生活文化としての保育について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　生活文化と食の歴史	資料をよく読み、生活文化としての食の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　生活文化と食生活の課題	資料をよく読み、食生活の課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　生活文化と衣、ファッション	資料をよく読み、衣生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　生活文化と住環境	資料をよく読み、住生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　生活文化と芸術	資料をよく読み、生活文化と芸術との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、生活文化と情報との関わりについて内容をまとめておく（次回試験）。
第16回　試験	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、筆記試験に備える。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30%）。
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
・資料を準備するので事前に配布する。

■ 参考書
〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3024円〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

生活文化概論

(30052)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
生活文化学科基幹科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性―思想や思考、技術等について紹介する。私たちにとって「生活文化とは何か」について、保育との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生活文化の概念や考え方について理解する。	①②
・生活文化の諸相を把握する知識を身につける。	①②
・生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について理解する。	①②

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート	資料をよく読み、この授業で取り組む学習内容や評価方法について復習する。
第２回　生活文化とは	資料をよく読み、生活文化とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）	資料をよく読み、生活文化と家政学や生活学との関連について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）	資料をよく読み、生活と様々な文化の関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　生活史（江戸時代の生活、生活と職業）	資料をよく読み、江戸時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　生活史（明治、大正時代の生活）	資料をよく読み、明治・大正時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　生活史（昭和から現在までの生活）	資料をよく読み、昭和以降の生活史について内容をまとめておく（次回小テスト）。
第８回　生活文化とジェンダー、家族、小テスト	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、小テストに備える。
第９回　生活文化と保育の歴史	資料をよく読み、日本での保育の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　生活文化と子育ての課題	資料をよく読み、子育ての文化とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　生活文化と食、栄養	資料をよく読み、生活文化としての食について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　生活文化と衣、ファッション	資料をよく読み、衣生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　生活文化と住環境	資料をよく読み、住生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　生活文化と芸術	資料をよく読み、生活文化と芸術との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、生活文化と情報との関わりについて内容をまとめておく（次回試験）。
第16回　試験	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、筆記試験に備える。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30%）。
・試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
・資料を準備するので事前に配布する。

■ 参考書
〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3024円〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

生活文化各論

(30053)

単位：２単位
対象学科：子専１年・食専１年
授業形態：講義　学期：後期
生活文化学科基幹科目
生活文化学科教員全員

■ 授業の概要
生活文化学科では、食や保育の分野は人々の生活文化の重要な要素であり、その専門知識を活かすには生活文化を広く理解することが必要であると考えている。前期の生活文化概論では、歴史的な過程で、生活・文化が、伝統的な家政学からさまざまな分野に発展し広がっている様子が解説された。本講義では、短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野という視点から、多岐にわたる生活文化を考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。	①②
・多様な生活文化の知識を自分たちの生活に関係づけて考えることができるようになる。	①②
・生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになる。	①②

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（松尾）授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内）情報社会におけるセキュリティーについて（松尾）	配布プリントの復習。作文の提出。
第２回　生と性（土屋）	配布プリントの復習。作文の提出。
第３回　研究倫理と生活文化（池田）	配布プリントの復習し常に倫理に気をつける。作文の提出。
第４回　生活文化と社会福祉（大瀬戸）	配布プリントの復習。作文の提出。
第５回　栄養補給ルートとQOLの関係（益田）	配布プリントの復習。作文の提出。
第６回　音楽と生活文化　（佐藤和）	配布プリントの復習。作文の提出。
第７回　食べ物の情報と本当の食の安全（永沼）	配布プリントの復習。作文の提出。
第８回　生活文化と教育と、（山沢）	配布プリントの復習。作文の提出。
第９回　アジアの子どもたちの暮らしと文化（カンボジア・東ティモール）（木下）	配布プリントの復習。作文の提出。
第10回　言語文化と生活（佐藤深）	配布プリントの復習。作文の提出。
第11回　海と生活文化　（黒川）	配布プリントの復習。作文の提出。
第12回　子どもの生活と遊び（岡崎）	配布プリントの復習。作文の提出。
第13回　生活の中の美術　（横山）	配布プリントの復習。作文の提出。
第14回　箸の文化と生活（宮地）	配布プリントの復習。作文の提出。
第15回　振り返り・・・自分と生活文化（まとめの作文）（池田）	過去の配布プリントをファイルに整理する。作文の提出。

■ 履修上の注意
原則、生活文化概論を履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。講義の順番は変更されることがある。

■ 成績評価方法・基準
各回の作文内容（90%）とファイル提出（10%）。作文は添削して返却する。

■ 教科書
毎回資料を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

食物栄養学専攻専攻科目

有機化学

(30101)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
身の回りのあらゆる場面に存在する有機化合物を分子レベルで理解するため、物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合の仕組みを知ることに重点を置く。ここでは有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・有機化合物を分子式として理解出来るようになる。	①③⑥
・食品を有機化合物として理解出来るようになる。	①③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養学における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
第２回　元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
第３回　アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
第４回　分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
第５回　原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
第７回　分子式、組成式、次性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
第８回　中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
第９回　炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式	教科書指定ページの熟読。
第10回　飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	教科書指定ページの熟読。
第12回　非共有電子体、配位結合、金属結合、不対電子	課題を指定。
第13回　メタン分子、軌道電子昇位、混成軌道、σ結合、π結合	教科書指定ページの熟読。
第14回　直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
第15回　分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意
教科書の指定ページの熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。

■ 成績評価方法・基準
毎回行う小テスト30%・課題レポート30%、試験40%を総合的に評価する。小テストは毎回添削。

■ 教科書
〔著者名〕〔出版社名〕〔価格〕[有機化学基礎の基礎]［立屋敷哲］［丸善株式会社］[2，700円]

■ 参考書
必要に応じてプリントを配布する。

■ 備考
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける

統計学

(30102)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
前半では、集団の性質を大局的にとらえるための記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、推定や検定など推測統計の考え方ついて説明する。実際の統計処理にはコンピュータが欠かせないので、エクセル等を用いた実習も行う。知識を憶えるだけでなく自らの頭で考える努力を重視する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。	①
・パソコンで統計データを整理できるようになる。	①③
・就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。	①
・統計学で使われる確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。	①
・統計的検定の考え方を理解できる。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　序章：ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）	教科書のガイダンスの章を読むこと。
第２回　資料の整理（データと度数分布）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
第３回　資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）	教科書該当ページを読む。配布プリントの復習。
第４回　資料の整理（散布度、偏差、分散）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第５回　資料の整理（標準偏差、データの標準化）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第６回　資料の整理（散布図、共分散、相関係数）	教科書該当ページを読む。散布図、計算例の確認。
第７回　確率（統計的確率と数学的確率、コイン投げの例）	教科書該当ページを読む。エクセル課題を仕上げ印刷する。
第８回　確率（順列や組み合わせなどの場合の数と確率）	教科書該当ページを読む。計算例の確認。
第９回　確率（確率変数、確率分布）	該当ページを読む。
第10回　確率（確率変数の平均値の定義、確率分布の例）	全体復習。確率に関する提出課題に取り組む。
第11回　確率（分布表の使い方、%点）	教科書該当ページを読む。ノートの復習。
第12回　なぜ正規分布が必要か。	教科書該当ページを読む。確率分布表の使い方確認。
第13回　区間推定に関する演習	教科書該当ページを読む。ノートの復習。
第14回　検定の考え方	教科書該当ページを読む。プリントの復習。
第15回　クロス表集計と検定	教科書該当ページを読む。推定・検定の例題の復習。
第16回　試験	提出課題を復習して臨むこと。

■ 履修上の注意
電卓が必要な時があるので持参すること。

■ 成績評価方法・基準
期末テスト（50%）。問題レポート（35%）。エクセル演習レポート（15%）
レポートは後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。

■ 教科書
らくらく統計学　統計学教育研究会編　ムイスリ出版　2350円

■ 参考書
なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

数学基礎演習

(30103)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
本演習では、算数の概念や中学数学などの非常に基本的な考え方に立ち返りながら、日常生活や、栄養・調理、統計学に役に立つ計算能力が身につくよう演習を行う。具体的には次のような項目について演習を行い、それぞれ小テストで確認する。「数量感覚」「式と計算」「いろいろな単位」「方程式」「濃度」「場合の数・順列・組み合わせ」「図形」「グラフの意味と描画」「比例と一次関数」「数列」「指数関数」。これらを個別の問題としてだけでなく、共通する考え方に重点をおき授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・基本的な計算能力（図形も含む）を身につける。	①③
・比例の考え方を理解し、栄養価計算などに応用できる。	①③
・日常生活や理科実験に使う計算に数学を応用できる。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンスと栄養価計算の基本例題	配布プリントの復習。
第２回　式と計算（四則演算と計算規則、式の展開など）	配布プリントの復習。
第３回　数量感覚（数直線とたし算・かけ算・割り算）の演習	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第４回　分数と割合の計算	小テストの復習。配布プリントの復習。
第５回　基本的な単位	配布プリントの復習。
第６回　濃度、速度、エネルギーなど、いろいろな単位	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第７回　化学等への応用(密度)	配布プリントの復習。
第８回　化学等への応用(モル濃度)	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第９回　一次方程式、連立一次方程式	配布プリントの復習。
第10回　比例とグラフ	配布プリントの復習。
第11回　数列	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第12回　数列とグラフ（2次関数、指数関数などのいろいろな関数）	配布プリントの復習。
第13回　2次関数とグラフ図形（直角三角形と合同）	配布プリントの復習。
第14回　順列と組み合わせいろいろな場合の数	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第15回　総合問題	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意
問題プリントが多数あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。電卓を使う時があるので用意しておくこと。

■ 成績評価方法・基準
提出物の提出状況（40%）、小テスト（60%）。小テストはすべて後日添削して返却する。

■ 教科書
パワーポイントの資料を配布する。演習問題を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
小テストの日程は授業進度に合わせるので、その都度アナウンスします。提出課題の一部として入学前e-learningも活用する予定。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

栄養情報処理演習Ⅰ

(30104)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
本演習では、最初に食の分野で業務上必要となる各種文書（食品表示、チケット、商品シール、メニュー表、レシピ表など）の作成・印刷を行う。この際、「画像の活用」に注目して授業を行う。次に、食生活に関する調査を題材にして、アンケート用紙の作成と集計作業の演習を行う。この際、エクセルの各種関数を活用し、度数の集計などの単純集計から、散布図やクロス表集計を使った解析まで、データ処理の演習を行っていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・「word」の表の挿入を活用し、画像やレシピ表のレイアウトができる。	①③⑥
・専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。	①③⑥
・アンケート調査の一連の流れ（調査計画、用紙作成、結果集計、表・グラフの活用、統計処理）を理解する。	①③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の内容、進め方、画像情報入力の確認	配布プリントの復習。
第２回　表と画像を活用したレシピ表の作成	配布プリントの復習。
第３回　別メニューを同一レイアウトで作成	配布プリントの復習。レシピ表の提出。
第４回　シール・チケット作成ソフトの使い方と注意点	配布プリントの復習。
第５回　シールの作成と印刷	配布プリントの復習。シールの印刷と提出。
第６回　チケットの作成と印刷	配布プリントの復習。チケットの印刷と提出。
第７回　食品表示とメニュー表作成および注意点・印刷	配布プリントの復習。印刷。
第８回　統計調査の目的、方法。アンケート用紙の作成	配布プリントの復習。アンケート用紙案の提出。
第９回　アンケート結果の集計	配布プリントの復習。
第10回　アンケート結果の集計の続き	配布プリントの復習。集計を終わらせる。
第11回　統計調査のデータ解析（度数分布）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第12回　統計調査のデータ解析（散布図）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第13回　統計調査のデータ解析（クロス表集計）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第14回　統計調査のデータ解析（検定）	配布プリントの復習。調査のレポート作成。
第15回　提出物の総チェック	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意
配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。資料はグーグルクラスルームにも配布予定なので活用すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。

■ 成績評価方法・基準
提出物（100%）。印刷された提出物は後日添削して返却する。また、返却時に講評を行う。

■ 教科書
パワーポイントの資料（グーグルクラスルームを使った配布と併用）

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

栄養情報処理演習Ⅱ

(30105)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
前期の栄養情報処理演習Ⅰにひきつづき、PCを使った演習を行う。エクセルの演習では、ドロップダウンやvlookup関数の活用例（メニューのレパートリー忘備録、年齢・性別・活動レベルに合わせた摂取基準表示）について演習を行う。次に、エクセル栄養君の使い方について学習・演習し、栄養価成績表の見方について学習する。最後に、ウェブページの基本（HTML言語）について学び、給食便りを模したウェブページの作成を行う。業務上役に立つであろう「ピボットテーブル」や「差し込み印刷」の演習も行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・ドロップダウンやvlookup関数の意味を理解し、エクセルで活用できる。	①③⑥
・エクセルを活用し、栄養価計算の情報処理ができるようになる。	①③⑥
・ウェブページの基本を理解し、食のコンテンツが作れる。	①③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　エクセルを使った栄養価計算（単純版）	配布プリントの復習。
第２回　エクセル（ドロップダウン）の演習	配布プリントの復習。
第３回　エクセル（vlookup）の演習	配布プリントの復習。演習課題の提出。
第４回　レーダーチャートの基本	配布プリントの復習。演習課題の提出。
第５回　エクセル栄養君の使い方の学習	配布プリントの復習。
第６回　エクセル栄養君（メニューの入力と成績表の見方）	配布プリントの復習。チケットの印刷と提出。
第７回　エクセル栄養君（一日分のメニュー入力）	配布プリントの復習。
第８回　エクセル栄養君（対象者による成績表の結果の違い）	配布プリントの復習。栄養価成績表の解釈と印刷。
第９回　ウェブページの基本	配布プリントの復習。
第10回　ウェブページ（リンクや写真活用）	配布プリントの復習。
第11回　ウェブページ（表の活用）	配布プリントの復習。
第12回　ウェブページの仕上げに向けた作業	配布プリントの復習。給食便りの内容を考えておく。
第13回　給食便りとしてのコンテンツを考える	配布プリントの復習。ウェブページを仕上げ提出。
第14回　ピボットテーブルの演習	配布プリントの復習。
第15回　提出物の総チェックと差し込み印刷の応用	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意
原則、栄養情報処理演習Ⅰを履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。グーグルクラスルームを活用してもよい。

■ 成績評価方法・基準
提出物（100%）。印刷物は確認し、返却時に講評を行う。

■ 教科書
パワーポイントの資料を配布する。グーグルクラスルームの資料配布と併用。

■ 参考書
〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1，800円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

社会福祉論

(30106)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化社会を生きる社会人として、我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）と現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・社会福祉の理念や概念について理解する。	②③
・社会福祉に関連する法・制度を理解する。	②③
・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習する内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　諸外国における社会福祉の歴史と制度（イギリス等）	配布プリントをよく読み、イギリスにおける社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　諸外国における社会福祉の歴史と制度（アメリカ）	配布プリントをよく読み、アメリカにおける社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、社会福祉のニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障碍者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う（次回試験）。
第16回　試験	授業で学んだ社会福祉の歴史や諸制度等に関する内容及び用語を確認し、筆記試験に備える。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30%）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験は問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 参考書
〔新版 社会福祉概論〕〔金子光一編著〕〔建帛社〕〔2484円〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学

(30107)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状等も合わせて説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・公衆衛生の概念や歴史について理解する。	②③
・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動を理解する。	②③
・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等の現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態系との関係について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　学校保健	教科書をよく読み、学校保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　母子保健	教科書をよく読み、母子保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　産業保健	教科書をよく読み、産業保健の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　高齢者保健、まとめ、授業評価アンケート	教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに授業で取り上げた内容について振り返りを行う（次回試験）。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度・ミニットペーパー提出（30%）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。

・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学　2021年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

健康管理概論

(30108)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
日本は世界でも有数の長寿国となっているが、これまでに我が国の疾病構造は感染症から生活習慣病、そして老人性の退行疾患と大きく変化・推移してきた。この講義では、単に長寿ではなく、元気に長生きするためにはどのような健康管理が必要であるのか、現在と将来の健康維持に向けた健康管理のあり方とその重要性について解説する。特に健康づくりの柱とされている運動・栄養・休養を中心に心身の健康保持・増進に加え、社会的な健康も合わせて取り上げて説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・健康管理の目的や概念について理解する。	①③
・健康の保持・増進のための方法について理解する。	①③
・健康状態を把握する力を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　健康とは（定義・歴史）	資料をよく読み、健康とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　日本の人口構造と平均寿命の変遷	資料をよく読み、人口構造と平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　高齢化と少子化社会と健康	資料をよく読み、少子高齢化について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　現代の健康状態と疾病	資料をよく読み、健康のレベルと疾患との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　ライフスタイル、生活習慣の現状と課題	資料をよく読み、ライフスタイル等について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　体脂肪、BMI、基礎代謝と健康	資料をよく読み、BMIや基礎代謝の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　メタボリックシンドロームと予防、小テスト（前半分）	資料をよく読み、メタボリックシンドロームについて内容をまとめておく（次回小テスト）。
第９回　健康を支えるからだの仕組み	資料をよく読み、身体の構造について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　栄養と健康	資料をよく読み、栄養と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　運動・体力と健康	資料をよく読み、運動の概念と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　ストレス・休養と健康	資料をよく読み、ストレスの概念と心の健康について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　加齢・老化と健康	資料をよく読み、加齢の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　社会関係資本と健康	資料をよく読み、ソーシャルキャピタルの概念等について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、これまでの授業で学んだ内容から健康管理の重要性について内容をまとめておく（次回試験）。
第16回　試験	筆記試験に向けて復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。なお、遅刻3回で欠席1回とする。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点：授業参加状況及び積極性等の受講態度（30%）。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
・資料（プリント）を準備するので事前に配布する。

■ 参考書
〔衛生・公衆衛生学　2021年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

解剖生理学

(30109)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
曽　根　正　彦

■ 授業の概要
栄養にかかわる職業に就くためには、正常なからだの「しくみ」について学び理解しておく必要がある。
からだの「しくみ」を構造面からアプローチする学問が解剖学であり、機能面からアプローチする学問が生理学である。からだの構造と機能は密接にかかわっているので解剖学と生理学とを関連づけながら、健康と栄養の知識を修得することを目指す。この授業では、臨床医としての経験から医療現場での事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。またアクティブ・ラーニングとしての協同学習は、授業での知識をグループごとに学習し成果の発表を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	③
・・人体の「しくみ」を構造面と機能面から体系的に理解できる。	③
・・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、人体構造、協同学習グループ分け	第１章をよく読み、不明点は質問。
第２回　運動器、協同学習テーマ選択（第１回）	第３章をよく読み、不明点は質問。
第３回　呼吸器、協同学習	第４章をよく読み、不明点は質問。
第４回　循環器、協同学習	第５章をよく読み、不明点は質問。
第５回　消化器総論・消化管、協同学習	第６章をよく読み、不明点は質問。
第６回　消化器と栄養（肝臓と門脈）、協同学習	第６章をよく読み、不明点は質問。
第７回　腎・泌尿器、協同学習	第７章をよく読み、不明点は質問。
第８回　協同学習　1回目のプレゼンテーション	発表準備と発表後の評価。
第９回　神経系、協同学習テーマ選択（第２回）	第８章をよく読み、不明点は質問。
第10回　感覚器、協同学習	第９章をよく読み、不明点は質問。
第11回　内分泌、協同学習	第１０章をよく読み、不明点は質問。
第12回　血液など、協同学習	第１１章をよく読み、不明点は質問。
第13回　生殖器、協同学習	第１２章をよく読み、不明点は質問。
第14回　細胞の構造と機能、協同学習	第２章をよく読み、不明点は質問。
第15回　協同学習　2回目のプレゼンテーション	発表準備と発表後の評価。
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
解剖生理学の学習には生物学の知識が必要なので、事前に生物学を復習しておくことが望ましい。
授業は教科書に沿って進める。また協同学習はテーマ内容を各自よく学習すること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（60%程度）、協同学習発表（30%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。
レポート・試験等についてフィードバックを行う。

■ 教科書
〔解剖生理学〕〔林 洋 監修〕〔じほう〕〔2，000円（税別）〕

■ 参考書
「無し」

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

運動生理学

(30110)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する	③④
・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概論／暑熱環境①（気温・汗）	復習、及び次回の予習。ルーブリックを配付する。
第２回　暑熱環境②（水分補給）	同上
第３回　運動とエネルギー代謝	同上
第４回　呼吸循環器系と持久力①（理論）	同上
第５回　呼吸循環器系と持久力②（実際）	同上
第６回　骨格筋の種類と筋力①（理論）	同上
第７回　骨格筋の種類と筋力②（実際）	同上
第８回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第９回　健康づくりのための身体活動基準2013	復習、及び次回の予習
第10回　スポーツと栄養学①（理論）	同上
第11回　スポーツと栄養学②（実際）	同上
第12回　糖尿病の運動療法	同上
第13回　ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	同上
第14回　ライフステージ別の運動②（高齢期）	同上
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
ライフステージ栄養学、生化学、解剖生理学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
小テスト・・・70%　受講態度（ルーブリック）・・・30%（履修上の注意を参照）

■ 教科書
適宜プリントを配布する

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

生化学

(30111)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
生化学とは生命現象をタンパク質・脂質・核酸などといった生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生体を構成する各成分の種類と構造および化学的性質が説明できる	③⑥
・生体を構成する各成分の代謝および機能が説明できる	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生化学とは、細胞の構造、生体構成成分	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　糖質とは、糖質の分類、単糖・オリゴ糖の種類と性質	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　多糖類の種類と性質、脂質とは、脂質の分類	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　脂肪酸の特徴と種類、複合脂質の種類と性質	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　誘導脂質酵素の種類と性質、酵素とは・酵素の分類・性質	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　［中間試験］、糖質の代謝：解糖系	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、クエン酸回路	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　電子伝達系とエネルギー	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　トリアシルグルセロールの代謝、脂肪酸のβ－酸化	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　リン脂質・コレステロールの代謝	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回　体内でのアミノ酸の利用、尿素回路	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく

	理解する。
第14回　核酸の種類・構造と機能	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、タンパク質の生合成	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、個体の調節機能と恒常性	教科書の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
わかりやすい生化学、林　寛　他、三共出版、2，400円＋税

■ 参考書
無し

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(30112)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
曽　根　正　彦

■ 授業の概要
病理学は医学全般を理解するために基本となる学問であり、栄養系の現場では疾病の全体像を把握する事が必要である。授業では病因、循環障害、代謝異常、感染症、細胞の異常、免疫・アレルギー、炎症、腫瘍、先天異常、老化について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。
この授業では、臨床医としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。臨床環境の現状を含めて幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。
またアクティブ・ラーニングとして講義内容に関連した知識をグループで学習しその成果を学期中に２回発表する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・病理学の基本的知識を学び身につける。	③
・・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。	③
・・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　病気と病理学（内因、外因）　協同学習グループ分け	病理の定義、診断・治療との関連を理解
第２回　循環器系の働き、協同学習テーマ選択	第４章Aをよく読み、不明点は質問
第３回　循環障害と主な疾患、協同学習	第４章BCをよく読み、不明点は質問
第４回　代謝異常（糖尿病）、協同学習	第５章A～Cをよく読み、不明点は質問
第５回　代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）、協同学習	第５章D～Hをよく読み、不明点は質問
第６回　感染症の正体・原因、防御能など、協同学習	第７章をよく読み、不明点は質問
第７回　協同学習　1回目のグループ発表	グループで発表準備、発表後の評価
第８回　細胞の異常（構造と傷害、新陳代謝など）、協同学習	第２章をよく読み、不明点は質問
第９回　免疫（免疫の正体、免疫機構）、協同学習	第８章Aをよく読み、不明点は質問
第10回　アレルギー、自己免疫疾患など、協同学習	第８章B～Fをよく読み、不明点は質問
第11回　炎症（炎症の正体、原因、基本病変）、協同学習	第９章ABをよく読み、不明点は質問
第12回　炎症（分類、全身反応）など、協同学習	第９章CDをよく読み、不明点は質問
第13回　腫瘍（癌の正体、分類、特性、診断）、協同学習	第１０章A～Dをよく読み不明点は質問
第14回　協同学習　2回目のグループ発表	グループで発表準備、発表後の評価
第15回　腫瘍（治療など）、先天異常、老化など	第１０章Eと第３章・第６章をよく読む
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。
授業は教科書に沿って講義を進める。また協同学習はテーマ内容をよく学習すること

■ 成績評価方法・基準
期末試験（70%程度）、協同学習発表（20%程度）、ミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。
試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
〔なるほどなっとく！病理学　改訂２版〕〔小林正伸 著〕〔南山堂〕〔2，200円 + 税〕

■ 参考書
「無し」

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

食品学

(30113)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

栄養士としての実践に役立つ基礎を習得させることを目的として、本授業では、私たちの体を構成している様々な食品に含まれる栄養素の種類と組成について説明する。また食品を構成する各成分の化学的特性と相互作用、食品における役割についても解説する。併せて、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説し、食品学の分野が栄養学・調理学の分野とも関わっていることを理解できるように指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・食品を構成する栄養素の化学的性質を理解する。	③
・・食品成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得する。	③
・・おいしく栄養バランスのとれた食事内容を科学的に組み立てる力を身につける。	③⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書と資料を基にしてノートを整理する。
第２回　水分 I 水の構造と性質	教科書のほか、高校の教科書で原子・分子・物質の結合について復習しておく。
第３回　水分 II　水が食品中で果たす役割	教科書を読む。事後にノートを整理。
第４回　炭水化物 I 糖の種類と構造	教科書を読む。事後にノートを整理。
第５回　炭水化物 II糖の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第６回　脂質　I　脂肪酸の構造と性質	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第７回　脂質 II　油脂の酸化、脂質の栄養、小テスト(1)	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第８回　小テストの解説、タンパク質 Iタンパク質の構造と構成アミノ酸	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第９回　タンパク質 II タンパク質の性質と栄養価	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書の練習問題を解く。
第10回　脂溶性ビタミン	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第11回　水溶性ビタミン	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第12回　ミネラル　小テスト (2)	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書の練習問題を解く。
第13回　小テストの解説、食品の呈味成分、色素、香気成分	事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第14回　食品の機能性成分、食品の物性とおいしさ	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第15回　前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。
第16回　試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）20%、小テストの成績10%、 学期末の試験70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。

■ 教科書

［栄養・健康科学シリーズ　食品学I］［化学同人］［佐藤薫、中島肇 編］[2，300+税 円]

■ 参考書

特になし

■ 備考
都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

食品機能学

(30114)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

食品には、一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚応答機能・嗜好性成分）の他に三次機能（生体調節機能）をも併せ持つものがある。三次機能を持つ食品成分は機能性成分と呼ばれ、非栄養素とされるものも多い。本授業では、各種食品が持つ三次機能について、その成分・構造・体内での吸収や働きについて解説する。また、現代の生活習慣に深く関わる成分について、その活性の発現機構についても解説する。さらに、食品機能に関する表示制度についても言及する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・食品に含まれる種々の成分と生体内での生理機能を理解する。	③
・・食品の機能性成分が生体の働き（消化器系や免疫系など）におよぼす機能を理解する。	③
・・食品の機能性成分を上手に利用して健康増進に寄与できる力を身につける。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の機能とは何か。（概要説明）	配布された資料の復習とまとめ
第２回　現代における食生活と疾病 概論	配布された資料の復習と独自の調査
第３回　食品機能の表示制度の解説・それについての見解を作文	食品機能の表示制度について整理。
第４回　系統別生理機能 I　消化器系に機能する成分	配布された資料の復習とまとめ
第５回　系統別生理機能 II　循環器系に機能する成分	配布された資料の復習とまとめ
第６回　系統別生理機能 III 内分泌系・神経系に機能する成分	配布された資料の復習とまとめ
第７回　系統別生理機能 IV (1) 免疫系の生理機能	配布された資料の復習とまとめ。免疫系の作用機序についての説明図作成
第８回　系統別生理機能 IV(2)　免疫系に機能する食品成分	配布された資料の復習とまとめ
第９回　系統別生理機能 V　がん抑制に機能する成分	配布された資料の復習とまとめ
第10回　生体抗酸化物質と食品機能性成分	配布された資料の復習とまとめ
第11回　各自が興味を持った機能性を有する食品の紹介（映像を使ったプレゼンテーション）（アクィブラーンニング）	発表準備と各発表の理解とまとめ 配布された資料の復習とまとめ 独自調査による予習
第12回　おもな食品の機能性（植物性・動物性食品）	配布された資料の復習とまとめ
第13回　機能性食品の開発の現状についてのフリーディスカッション（アクティブラーンニング）	独自調査による予習
第14回　課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例I（アクティブラーンニング）	これまでの知識のまとめ。発表準備。
第15回　課題：機能性成分を含む食品を利用した機能的な食事例II 第14回で作成した献立の発表。映像を使ったプレゼンテーション（アクティブラーンニング）	媒体を含むプレゼンテーションの準備。 発表後、アドバイスに基づき改善点の確認。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。随時課題を出題するので、よく調べてレポートを作成し、締め切りに遅延のないように提出すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点(聴講する姿勢、ディスカッションにおける積極性、授業内容の記録)30%, 課題・作文の提出20%, 各授業の発表内容50%の割合で評価する。課題についてはその都度評価し、授業中に解説する。

■ 教科書

授業の開始時に独自作成の資料を配布する。

■ 参考書

特になし

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品学実験Ⅰ

(30115)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実験　学期：前期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

私たちの体は私たちが食べたものから成り立っている。その観点から、様々な食品に含まれる栄養成分の構成を知ることは非常に重要である。本授業では、食品に含まれる栄養素、特に三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質について「定性実験」を行い、その特性を解説する。また、これらを通して化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導し、今後の実験に関する学習の基礎構築を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得する。	③⑥
・・実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。	③⑥
・・「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実験の基礎I（実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方）	授業後に実験書を読み返し。実験に臨む準備を整える
第２回　実験の基礎I（数値の取り扱い、濃度計算法、実験器具の扱い方）	事前に実験書を読む。事後に復習
第３回　ジャガイモからデンプンの分離	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第４回　分離したデンプンのヨウ素反応、各食品のデンプンの検出 レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第５回　糖の定性反応（呈色反応、還元反応） レポート出題。	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第６回　タンパク質の定性反応 Ⅰ （ビウレット反応、ニンヒドリン反応、硫化鉛反応）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第７回　タンパク質の定性反応 II（薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第８回　脂質の定性反応(エステル、油脂の鮮度判定)	事前に実験書を読む。事後にノート整理・ 結果のまとめ
第９回　油脂の物理的変化（乳化反応、相転移） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第10回　食品の色に関する実験 Ⅰ （酵素的褐変、ポリフェノール類の色の変化）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第11回　食品の色に関する実験 II （非酵素的褐変） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第12回　容量分析 Ⅰ 中和滴定（1）中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習	事前に実験書を読む。事後にノート整理
第13回　容量分析 II 中和滴定（2）食酢中の酢酸の定量（実験講義、標準溶液の作製と評定）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第14回　容量分析III 中和滴定（3）食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第15回　これまでの実験のまとめと濃度計算の演習	実験の総括と演習問題の復習 ノート整理

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3

回で欠席１回とする。

■ 成績評価方法・基準
　平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて70%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。

■ 教科書
［食品学総論実験 -実験で学ぶ食品学］［江角彰彦著］［同文書院］［2，400円＋税］
＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）

■ 参考書
必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）

■ 備考
都合により授業計画の順番を変更することがある。
質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品学実験Ⅱ

(30116)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実験　学期：後期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

食品学実験Iで習得した化学実験における基本的手技を応用に用いる。本授業では、日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値がどのようにして算出されるのかを知る目的で、水分、脂質、たんぱく質、灰分、リンの各成分を食品から抽出して、定量分析を行う。これらを通じて、食品成分表の数値の意味、食品試料の扱い方、化学実験における実験の原理を理解させるとともに実験器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解する。	③⑥
・・食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。	③⑥
・・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品中の一般栄養成分分析の説明、 濃度計算小テスト	授業後に実験書を読み返す。計算問題の復習
第２回　食品中の水分の定量（常圧乾熱法）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ
第３回　食品中の脂質の定量 I（ソクスレー法による脂質の抽出） 水分定量のレポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ 水分定量のレポート作成
第４回　食品中の脂質の定量 II（ソクスレー法による脂質の抽出および乾燥、重量測定） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ ポート作成。
第５回　食品中のタンパク質の定量　I ケルダール法の理論解説と実験装置の説明 タンパク質の酸分解	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ 次回実験装置の確認
第６回　食品中のタンパク質の定量 II （ケルダール法による水蒸気蒸留のトレーニング）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 実験経過の記録 実験装置の使い方確認
第７回　食品中のタンパク質の定量 III（ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-1　２班合同）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ 実験装置の使い方確認
第８回　食品中のタンパク質の定量 IV （ケルダール法による水蒸気蒸留と中和滴定-2,　２班合同。前回と作業内容２班間で入れ替え 実験全体のまとめ レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第９回　食品中の灰分の定量（直接灰化法） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成
第10回　油脂に関する実験 I ケン価の測定と算出	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめと理論の復習
第11回　油脂に関する実験 II ヨウ素価の測定と算出レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめと理論の復習 レポート作成
第12回　比色分析　（分光光度計の説明、色素溶液を用いた定量実験）	事前に実験書を読む。事後にノート整理・結果のまとめ・レポート作成。
第13回　緑茶中のタンニンの定量 I　（標準溶液の調製と検量線の作製）	事前に実験書を読む。事後にノート整理 実験経過のまとめ
第14回　緑茶中のタンニンの定量 II　（緑茶中のタンニン量の測定と算出） レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 結果のまとめ レポート作成

第15回　味覚の変調実験・これまでの実験のまとめ　　実験の総括とノートの整理
　　レポート出題（授業時間内提出）

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のない様に事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席１回とする。

■ 成績評価方法・基準

平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて70%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。

■ 教科書

［食品学総論実験 -実験で学ぶ食品学-］［江角彰彦著］［同文書院］［2，400円＋税］
＋授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）（食品学実験Iに同じ）

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。
質問については、実験中随時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品衛生学

(30117)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品中に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。	③⑤⑥
・食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。	③⑤⑥
・身の回りの食品衛生に関する事象について理解を深める。	③⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品衛生とは、食品衛生と法規	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第２回　食品と微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　食中毒の定義と概要・食中毒の発生状況	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第４回　微生物性食中毒①　細菌性食中毒（サルモネラ、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌、その他の病原大腸菌、黄色ブドウ球菌）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第５回　微生物性食中毒②　細菌性食中毒（ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、セレウス菌、リステリア菌、赤痢菌）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第６回　微生物性食中毒③　ウイルス性食中毒・プリオン	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第７回　微生物性食中毒④　微生物性食中毒のまとめ	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第８回　自然毒食中毒・マイコトキシン食中毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第９回　寄生虫性食中毒①　野菜・飲料水・魚介類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第10回　寄生虫性食中毒②　食肉類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第11回　化学性食中毒①　有害元素	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第12回　化学性食中毒②　農薬・有機塩素化合物・アレルギー様食中毒・油脂の変敗・カビ毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第13回　食品添加物（基本的考え方、手続き、分類、規格基準、用途、種類、表示方法、違反食品添加物）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第14回　食品の器具・容器包装（材料、規格、包装技術、リサイクル法、	事前：教科書の該当ページを読む。

	識別表示）・食品衛生対策（食品の腐敗、食品の微生物制御）	事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第15回	食品の安全にかかわるその他の話題（エコチル調査、マイクロプラスチック問題　etc.）	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
第16回	試験	授業内容および栄養士実力認定試験の食品衛生に関連する過去問題を総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨むこと。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながる。

■ 成績評価方法・基準

・授業への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（30%）、課題への取り組み（30%）、試験（40%）
・提出された課題は、後日、添削して返却する。

■ 教科書

・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ8　食品衛生学〕〔一色賢司淳編〕〔東京化学同人〕〔2，500円〕
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書

・〔解いて学ぶ！食品安全・衛生　テキスト＆問題集〕〔藤井建夫・塩味一雄著〕〔講談社〕〔2，600円〕
・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品衛生学実験Ⅰ

(30118)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実験　学期：前期
食物栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

地球上のあらゆる生物は水なしに生きることはできない。私たち人間も飲料水はもとより、調理や加工に水は欠かせない。我が国及び世界の国々においてかけがえのない水資源の現状がどのようかをまず理解した上で、各家庭の水道水が、飲み水として適正かどうかについて、いくつかの水質項目を測定し、その安全性を確認する。また、空気中の細菌をはじめ、身の回りに多くの微生物が生息することを培地で培養して計数するとともに、細菌を染色し、顕微鏡観察する。さらに、細菌の培養法や成長曲線、簡易な細菌の鑑別法を学び、食中毒の原因となる細菌の検査法について基礎的な知識と技術を身につける。また、飲料水の水質調査、微生物の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。	③④⑥
・食品の安全性確保の重要性を理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　諸注意・概要説明・レポートの書き方 手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解① ハンドペタンチェック	事後：授業内容の復習。
第２回　手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解② ATP/AMPの測定（拭き取り調査）・手洗いチェッカー 世界の水事情について 水道水サンプルの採取における注意事項・	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第３回　水道水の水質試験①：味・臭気・全硬度・２価の鉄イオン	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第４回　水道水の水質試験②：硝酸性窒素および亜硝酸性窒素・塩素イオン	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第５回　水道水の水質試験③：有機物（過マンガン酸カリウム消費量）・pH値	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第６回　水道水の水質試験④：残留塩素・一般細菌数（検体の培地への接種と培養）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第７回　水道水の水質試験⑤：一般細菌数（結果判定） 滅菌法・消毒法	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第８回　水道水の水質試験⑥：結果検討会 家庭用調理器具・食器の洗浄度検査：デンプン・タンパク質・油脂	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第９回　細菌・真菌検査用培地の調製① 環境微生物の観察①：検体採取	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第10回　細菌数（生菌数）の測定法①：培地調製 環境微生物の観察②：検体の培地への接種と培養	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第11回　細菌数（生菌数）の測定法②：検体の培地への接種と培養 環境微生物の観察③：発育細菌の観察・性状観察	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第12回　細菌数（生菌数）の測定法③：結果判定 環境微生物の観察④：細菌の染色（グラム染色）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第13回　環境微生物の観察⑤：細菌の顕微鏡観察（奇数班） 食品中のアレルゲン検査①（偶数班）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第14回　環境微生物の観察⑥：細菌の顕微鏡観察（偶数班） 食品中のアレルゲン検査②（奇数班）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第15回　まとめ	実験の総括。

■ 履修上の注意

白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。

■ 成績評価方法・基準
・実験への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（60%）、レポート（40%）
・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

■ 教科書
〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2，500円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品衛生学実験Ⅱ

(30119)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実験　学期：後期
食物栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

食品衛生学実験Ⅰで学んだことを踏まえ、食中毒や食品事故の要因となり、食品衛生管理上で重要である食品添加物、油脂性食品の変質判定、食品の鮮度判定、アレルゲンの検査・検出、家庭用調理器具・食器の洗剤の残留性、熱および消毒薬による殺菌効果、食品素材の抗菌性などについて学び、その検査法に関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、栄養士として必要な食品の衛生・安全、品質管理に対する見識を深め、食品の危害要因に対して、科学的かつ客観的な知識を得る。また、熱、消毒薬、食品成分が細菌の増殖におよぼす影響、食器・実験器具類の洗浄方法と洗浄剤の残留性の関係等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。	③④⑥
・食品の安全性確保の重要性を理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概要説明・諸注意	事後：授業内容の復習。
第２回　試薬調製	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　食品添加物試験①：発色剤（亜硝酸塩）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第４回　油脂性食品の変質判定試験①：過酸化物価（POV） 油脂性食品の変質判定試験②：酸価（AV）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第５回　食品の鮮度測定試験①：魚介類の鮮度測定（K値）	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第６回　食品添加物試験②：酸化防止剤	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第７回　アレルギー様食中毒（ヒスタミン食中毒）：ヒスタミン試験	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第８回　食品の鮮度測定試験②：野菜類の鮮度測定 臭気テスト 培地調製	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第９回　熱による殺菌効果	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第10回　消毒薬による殺菌効果	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第11回　洗浄剤の残留試験	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第12回　食品素材の抗菌試験	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第13回　加工食品の殺菌	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第14回　食品の残留農薬試験	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第15回　五味識別テスト：甘味・塩味・酸味・苦味・旨味 まとめ	事前：実験書の該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。 実験の総括。

■ 履修上の注意

白衣を着用する。実験機材の取り扱いには十分注意を払う。実験後には手洗いを充分行う。実験結果、注意事項および実験中に気が付いたこと等を詳細に記録する。

■ 成績評価方法・基準

・実験への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（60%）、レポート（40%）
・提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

■ 教科書
〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2，500円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

微生物学

(30120)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・微生物の基礎的な特徴について理解する。	③⑤⑥
・微生物と人間との関わり方について把握する。	③⑤⑥
・身の回りの微生物について理解を深める。	③⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　微生物学の歴史①　新型コロナウイルスについて	事後：授業内容の復習。
第２回　微生物学の歴史②　人間と微生物の関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　微生物学の基礎①　微生物の種類と性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第４回　微生物学の基礎②　原虫・寄生虫	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第５回　微生物学の基礎③　原虫・寄生虫	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第６回　微生物学の基礎④　真菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第７回　微生物学の基礎⑤　細菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第８回　微生物学の基礎⑥　細菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第９回　微生物学の基礎⑦　ウイルス	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第10回　微生物学の基礎⑧　細菌の生理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第11回　微生物学の基礎⑨　細菌の生理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第12回　微生物学の基礎⑩　滅菌・消毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第13回　食品微生物学①　微生物と食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第14回　食品微生物学②　食品の腐敗・変敗・保存	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第15回　食品微生物学③　微生物を利用した食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第16回　試験	授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

・授業への取り組み（受講態度、予習・復習の状況など）（30%）、課題への取り組み（30%）、試験（40%）
・提出された課題は、後日、添削して返却する。

■ 教科書

・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ16　食品微生物学〕〔村田容常・渋井達郎編〕〔東京化学同人〕〔2，500円〕
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書
授業時間内に適宜、参考書を紹介する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養学Ⅰ

(30121)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

栄養学は、栄養士として社会で役立つために最も基本となる分野である。それを踏まえ、栄養学Iではヒトにとっての栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、ヒトが環境に適応するために備わっている生体調節の仕組みや、消化器系の構造と基本的な機能が栄養素とどう関わるかについて解説する。その基本知識に基づいて、三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の消化・吸収・代謝のしくみとそれらの生体内での機能について詳しく解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・ヒトが生きる上での栄養の意義について学ぶ。	③⑥
・・食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。	③⑥
・・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養の概念（栄養とは何か。栄養の意義と目的、食品の栄養機能）	事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書を見直してノートを整理する。
第２回　健康と栄養（食物の役割、病気の予防・治療と栄養）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第３回　摂食行動（食欲の調節、食事のタイミング）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第４回　消化器の構造と機能	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第５回　消化・吸収の機構（唾液腺、胃腺、膵臓、胆のう、小腸、膜消化、能動輸送、受動輸送）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第６回　糖質の栄養 Ⅰ （糖質の消化・吸収機構、血糖値の調節）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第７回　糖質の栄養 II（糖の代謝と肝臓・筋肉・脂肪組織の役割）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第８回　糖質の栄養 III（糖質の代謝経路、内呼吸の役割）、小テスト(1)	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第９回　小テストの解説、脂質の栄養 Ⅰ（脂質の種類と構造、消化と吸収）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と誤った箇所の復習。
第10回　脂質の栄養 II（脂肪酸・コレステロールの代謝、脂質の体内移動）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第11回　脂質の栄養 III（脂質の代謝）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第12回　たんぱく質の栄養 Ⅰ（たんぱく質の構造、消化・吸収）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第13回　たんぱく質の栄養 II（アミノ酸の体内利用、体たんぱく質の代謝）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第14回　たんぱく質の栄養 III（たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係）、小テスト(2)	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの復習。 教科書の練習問題を解く。
第15回　小テストの解説、前回までのまとめ	小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。 教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。
第16回　試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか））20%、小テストの成績10%，　学期末の試験70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。

■ 教科書

［栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第4版］［田地 陽一 編］［羊土社］[2，800+税円]

■ 参考書
特になし

■ 備考
都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学Ⅱ

(30122)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

栄養学Iに続いての講義となる。Iで学んだ三大栄養素の消化吸収・代謝に加え、ビタミン、ミネラルなどの性質と、吸収機構・生理機能について講義する。また、生体における水分の役割、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説し、生体が取り入れた栄養素、非栄養成分が果たす役割とそれらの相互作用について理解させる。最終的には栄養学I，IIで学んだことを通して生体と栄養の関係を理解させ、栄養士として社会に貢献するための基礎力を培うことを目標とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・各栄養素および非栄養素の性質と生体内での働きについて理解する。	③⑥
・・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する	③⑥
・・エネルギー代謝と栄養の関係を理解する。	③
・・生体を形づくる源となる遺伝子からたんぱく質への流れを理解する。	③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　三大栄養素についての小テスト(1)	前期で学んだ内容をよく復習しておく。
第２回　小テストの解説、ビタミンの栄養 I 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能	事前に教科書を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第３回　ビタミンの栄養 II 水溶性ビタミン（ビタミンB群）の構造と栄養機能	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第４回　ビタミンの栄養III 水溶性ビタミン（パントテン酸、葉酸、ビオチン、ビタミンC）の構造と栄養機能	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第５回　ミネラルの栄養 I 多量ミネラルの栄養機能	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第６回　ミネラルの栄養 II 微量ミネラルの栄養機能 小テスト(2)	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第７回　小テストの解説、水の栄養的意義 I 体内の水分の出納・脱水	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第８回　水の栄養的意義 II 浮腫、電解質の役割	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第９回　エネルギー代謝 I エネルギー代謝の定義、食物エネルギー	前に教科書を読む。事後にノート整理。
第10回　エネルギー代謝 II エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第11回　遺伝と栄養 I　遺伝子と遺伝の仕組み、発現	事前に資料を読む。事後にノート整理。
第12回　遺伝と栄養 II（遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧）、小テスト(3)	事前に資料を読む。事後にノート整理。 小テストの復習
第13回　小テストの解説、非栄養素の生理機能（食物繊維、難消化性オリゴ糖、アルコール）	事前に資料を読む。事後にノート整理。 小テストの解答確認と誤った箇所の復習。
第14回　運動と栄養	事前に資料を読む。事後にノート整理。
第15回　前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。
第16回　試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか））20%、小テストの成績10%，　学期末の試験70%の割合で評価する。小テストについては採点の後、授業中に解説する。

■ 教科書

栄養学Iと同じ

（［栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第3版］［田地 陽一 編］［羊土社］[2，800+税円］）

■ 参考書
特になし

■ 備考
都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学実験

(30123)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実験　学期：後期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

栄養学の分野においては、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、ヒトにおける生体成分の役割について解説し、測定法について実験する。また消化酵素の働き、栄養状態がヒトの健康に与える影響について理解を深めることを目的として、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方について理論と実際を理解させる。また、レポートの課題を通してデータのまとめ方、および報告書の書き方について指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・生体試料の扱い方と生体成分の定量分析の基礎理論と基本操作を理解し、食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。	③⑥
・・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているか実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。	③⑥
・・実験結果のまとめおよび報告書作成を通して文章力を身につける。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養学実験と生体試料の取り扱い方の解説	授業後に実験書を読み返し。 1年次で受講した食品学実験のテキストを読み直し、化学実験の基本操作について復習。
第２回　酵素消化実験 I(アミラーゼの活性測定I)糖標準溶液の調製と検量線の作製	事前に実験書を読む。事後にノート整理。 実験経過の記 検量線の意味の理解
第３回　酵素消化実験 II(アミラーゼの活性測定II) 膵アミラーゼによる消化反応と産生糖の定量 レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 実験結果のまとめ レポート作成。
第４回　酵素消化実験 III たんぱく質分解酵素の活性観察(1)食品中に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力　肉眼的観察	事前に実験書を読む。事後にノート整理。 実験結果のまとめ
第５回　酵素消化実験 IV（たんぱく質分解酵素の活性観察（2）食品中に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力　分解物の検出 レポート出題	事前に実験書を読む。事後にノート整理 実験結果のまとめ レポート作成
第６回　ヒト血中成分の定量（血中脂質の定量-I）血漿中トリアシルグリセリドの定量	事前に実験書を読む。事後にノート整理。
第７回　ヒト血中成分の定量（血漿中の脂質の定量-II)血漿中総コレステロールの定量 レポート出題	事前に実験書を読む。後にノート整理 実験結果のまとめ レポート作成
第８回　食品中のビタミンCの測定 I 検量線の作製	事前に実験書を読む。事後にノート整理。 検量線についての理解復習
第９回　食品中のビタミンCの測定II 大根，レモン果汁中のビタミンCの定量 レポート出題	事前に実験書を読む。後にノート整理 実験結果のまとめ レポート作成
第10回　食品中のリンの定量 I 検量線の作製	事前に実験書を読む。事後にノート整理。 検量線についての理解復習
第11回　食品中のリンの定量II 市販飲料中のリンの定量	事前に実験書を読む。後にノート整理 実験結果のまとめ レポート作成
第12回　施設見学（宮城県公衆衛生協会） レポート出題	事前に見学の目的を確認。事後に見学で知り得た内容をノートに整理。 レポート作成
第13回　エネルギー代謝 I（測定原理、測定練習）	事前に実験書を読む。後にノート整理 測定機器の使用目的と使用方法の記録 実験結果のまとめ
第14回　エネルギー代謝 II（測定、計算）	前回実験の復習 実験結果のまとめと計算

		レポート作成
第15回	唾液アミラーゼによるストレスチェック、 前回までのまとめと濃度計算演習	実験の総括、ノート整理。計算問題の復習

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険な薬品等も扱うので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。遅刻は3回で欠席１回とする。

■ 成績評価方法・基準

平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて70%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。レポートは必ず提出すること。未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を加える。

■ 教科書

授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）使用。初回の授業開始時に配布。

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する（実験時配布）

■ 備考

校外実習などの都合により、授業計画の順番を変更することがある。
質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

ライフステージ栄養学

(30124)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
永　沼　孝　子

■ 授業の概要

ヒトが生きる上で、一生における各段階（学童期、青年期、成人期などに）に適したライフスタイルがあるのと同様に、栄養面においても配慮が必要である。本授業では、各ライフステージにおける身体的・精神的特徴や、それに応じた栄養ケアについて詳しく解説する。また、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適応した栄養的配慮と食生活の在り方を概説する。講義で得た知識をもとに、栄養士として広い方面の現場に適応して貢献できる力を身につけることを目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・・ 各ライフステージにおける身体的・精神的特徴を理解する。	③④⑥
・・各ライフステージにおける栄養状態と問題点を把握する。	③⑥
・・運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を把握する。	③④⑥
・・ それぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要。	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第２回　日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第３回　妊娠期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第４回　新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第５回　授乳期・離乳期の栄養 I（生理的特徴、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第６回　授乳期・離乳期の栄養 II（離乳期の栄養、離乳支援）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第７回　幼児期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第８回　学童期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第９回　思春期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第10回　成人期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第11回　更年期の栄養　（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第12回　高齢期の栄養 I （生理的特徴、栄養アセスメント）	事前に教科書を読む。事後にノート整理。
第13回　高齢期の栄養II（病態・疾患、栄養ケア）、栄養ケア）	前に教科書を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第14回　ストレス、特殊環境と栄養	事前に教科書を読む。事後にノート整理 。教科書章末の練習問題を解く。
第15回　前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。
第16回　試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。なお、２回目以降、毎回授業の最初に前回の授業内容についての小テストを行い、次回の授業で解説を行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか））20%、小テストの成績10%,　学期末の試験70%の割合で評価する。小テストについては授業中に解説する。

■ 教科書

［栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学改訂第2班］

［栢下淳・上西一弘編］［羊土社］(2，800+税)円

■ 参考書

特になし

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別掲示する。

ライフステージ栄養学実習Ⅰ

(30125)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要

学生自身の身体状況や食物摂取状況の調査等を通して、自分の食生活状況をアセスメントし、「日本人の食事摂取基準」を活用して栄養ケアプランを作成する。また、各ライフステージの特徴を理解し、国民健康・栄養調査の結果も活用しながら、実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本授業では基礎を学び、その他のライフステージに対応できる力を身につけることを目標とする。教員の管理栄養士としとしての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際保健、食育・栄養指導）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける。	②④
・自分の身体・生活状況に適した食事・栄養管理法を総合的に理解する。	③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1-A-1 栄養マネジメント 日本人の栄養・食生活	事前:用語を調べる。 事後:教科書を読む。
第２回　1-A- 1栄養マネジメント 国民健康・栄養調査 身体活動量	事前:教科書を読む。 事後:プリントを記入する。
第３回　1-A-2 栄養アセスメント 1)日本人の食事摂取基準の活用	事前:プリント記入。 事後:プリントを完成させる。
第４回　1-A-2 栄養アセスメント 2)身体状況 3)食事診断（方法）	事前:自分の生活パターンを記入する。 事後:食事記録を記入する。
第５回　1-A-2 栄養アセスメント 4)生活習慣	事前:食事記録を記入する。 事後:栄養計算の準備をする。
第６回　1-A-2 栄養アセスメント 3)食事診断（実践）栄養価計算	事前:栄養計算の準備をする。 事後:栄養計算を仕上げて提出する。
第７回　1-B 発育・発達・加齢変化と栄養 3･1･2弁当箱法の活用	事前:自分用の教材準備とプリントの予習をする。 事後:学んだことを実践する。
第８回　1-B 発育・発達・加齢変化と栄養 食品選択の方法	事前:教科書1-Bを読む。 事後:学んだことを実践する。
第９回　1-A-2 栄養アセスメント 5)臨床診査 1-B 発育・発達・加齢変化と栄養 4特定健診・保健指導	事前:教科書1-A-2 1B を読む。 事後:栄養士実力試験過去問題を解く。
第10回　2-D 学童期の栄養ケア　食物アレルギー対応食の調理実習	事前:教科書2-Dを読む。 事後:栄養士実力試験過去問題を解く。
第11回　2-D 学童期の栄養ケア　事例検討 グループ討議・プレゼンテーション	事前:教科書2-Dを読む。 事後:レポートを完成させる。
第12回　2-E 思春期栄養・青年期の栄養ケア　事例検討（モデル：自分） グループ討議・プレゼンテーション	事前:教科書2-Eを読む。 事後:レポートを完成させる。
第13回　2-H 高齢期の栄養ケア　嚥下調整食の調理実習	事前:教科書2-Hを読む。 事後:レポートを完成をさせる。
第14回　2-H 高齢期の栄養ケア　事例検討 グループ討議・プレゼンテーション	事前:教科書2-Hを読む。 事後:レポートを完成をさせる。
第15回　ふりかえり・まとめ グループ討議・プレゼンテーション	事前:課題について調べる。 事後:レポートを完成をさせる。

■ 履修上の注意

指定した教科書に沿って進めていく。教科書・食品成分表・計算機・配布したプリントを綴じるファイルを毎回持参する。課題の提出期限を守る。30分以上の遅刻は3回で1回の欠席とする。

■ 成績評価方法・基準

プリント課題・レポート提出80%、取り組み20%（提出状況、予習・復習の状況）をもとに総合的に判断する。課題・レポートの採点基準は、授業の最初に明示し採点後に解説と共にあわせて返却する。

■ 教科書
〔新編 応用栄養学実習－健康なライフステージのために－〕〔宮澤節子他 編〕〔学建書院〕〔2，500円＋税〕

■ 参考書
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1，100円〕

■ 備考
欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（　曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

ライフステージ栄養学実習Ⅱ

(30126)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要
各ライフステージ（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、更年期、高齢期）における、対象者の身体・心理・環境などを理解し、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、調理・試食を行う。後半はアクティブラーニング型式（個人・グループで献立作成と料理教室の企画・運営）行う。実践を含む栄養ケア計画のPDCAを通して、各世代の健康・栄養問題への理解を深め、実践力を身に付ける。教員の管理栄養士としとしての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際保健、食育・栄養指導）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。	②④
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。	⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 乳児期・学童期献立の説明 学生献立の計画（グループ討議）	事前：教科書該当箇所を読み不明な点を調べる。 事後：担当する学生献立について計画を立てる。
第２回　乳児期栄養（調乳）　モデル献立【調理実習1回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第３回　乳児期栄養（離乳食）　モデル献立【調理実習2回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第４回　乳児期栄養の振返り 幼児期・学童期献立の説明 学生献立の準備（グループ討議）	事前：担当する学生献立について調べる。 事後：担当する学生献立の献立作成を行う。
第５回　幼児期・学童期栄養（食物アレルギー対応）　モデル献立【調理実習3回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第６回　幼児期・学童期栄養の振返り 思春期・成人期・更年期・高齢期献立の説明 学生献立の準備（グループ討議）	事前：担当する学生献立について話し合う。 事後：担当する学生献立の試作をする。
第７回　思春期・成人期・更年期栄養　モデル献立【調理実習4回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第８回　高齢期栄養　モデル献立【調理実習5回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。 レポート作成①
第９回　思春期・成人期・更年期・高齢期栄養の振返り 学生献立の準備・発注作業（グループ討議）	事前：担当する学生献立の栄養計算をする。 事後：担当する学生献立の発注作業を完了させる。
第10回　学生献立の準備・調理手順・進め方・配布用レシピ作成（グループ討議）	事前：担当する学生献立のレシピ案を作成する。 事後：担当する学生献立の進め方の練習をする。
第11回　乳児期・幼児期　学生献立（料理教室の実践・プレゼンテーション）【調理実習6回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第12回　学童期　学生献立（料理教室の実践・プレゼンテーション）【調理実習7回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第13回　妊娠期　学生献立（料理教室の実践・プレゼンテーション）【調理実習8回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第14回　思春期　学生献立（料理教室の実践・プレゼンテーション）【調理実習9回目】	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。
第15回　高齢期　学生献立（料理教室の実践・プレゼンテーション）【調理実習10回目】 ふりかえり	事前：予定献立の手順をノートにまとめる。 事後：調理実習の振り返りをノートにまとめる。 レポート作成②

■ 履修上の注意

グループで行う学生献立実施のための話し合い、献立作成、料理教室運営には、積極的に参加し協力し合うこと。30分以上の遅刻は3回で1回の欠席とする。調理実習用のノートに献立の予習と振返りを記入する。授業中に配布したプリントはファイルし、毎回の授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準
ノート・献立・レポート提出60%、学生献立発表20%、取り組み20%（提出状況、予習・復習の状況）をもとに総合的に判断する。献立・レポートの採点基準は、授業の最初に明示し、授業中の実践を通してフィードバックする。

■ 教科書
1年後期のライフステージ栄養学実習Ⅰで購入した教科書のため買わなくてよい
〔新編 応用栄養学実習－健康なライフステージのために－〕〔宮澤節子他 編〕〔学建書院〕〔2，500円＋税〕

■ 参考書
〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1，100円〕

■ 備考
欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業中や授業後、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

臨床栄養学概論

(30127)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

臨床栄養学は、様々な疾患および病態の原因、そしてそれらの治療、治癒に対して栄養学がどのように関わっているのかを学ぶ学問である。本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を活かし、臨床栄養学に関する基礎的な知識に加え、栄養管理の流れ、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための、栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・栄養管理の一連の流れについて理解できる。	③
・疾患および病態における基本的な栄養食事療法を理解できる。	③
・栄養管理法や多職種連携についての知識を修得できる。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、臨床栄養学の意義と目的	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第２回　医療・福祉・介護と臨床栄養	教科書第2・3章の範囲を予習・復習する
第３回　栄養スクリーニングとアセスメント（SGA・ODA）	教科書第4章の範囲を予習・復習する
第４回　栄養アセスメント（臨床診査）	教科書第4章の範囲を予習・復習する
第５回　栄養アセスメント（臨床検査）	教科書第4章の範囲を予習・復習する
第６回　栄養アセスメント（身体計測・栄養・食事摂取調査）	教科書第4章の範囲を予習・復習する
第７回　栄養アセスメント（栄養）	教科書第4章の範囲を予習・復習する
第８回　栄養ケア計画	教科書第5章の範囲を予習・復習する
第９回　食事療法栄養補給の方法	教科書第6章の範囲を予習・復習する
第10回　薬と栄養・食事の相互関係	教科書第7章の範囲を予習・復習する
第11回　栄養教育	教科書第9章の範囲を予習・復習する
第12回　モニタリングと評価、栄養ケア記録	教科書第8・10章の範囲を予習・復習する
第13回　代謝系疾患の栄養食事療法①（肥満症、るいそう）	疾患について予習・復習する
第14回　代謝系疾患の栄養食事療法②（糖尿病）	疾患について予習・復習する
第15回　講義のまとめ・試験	試験範囲をまとめておく

■ 履修上の注意

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験60%、小テスト30%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）を総合的に判断して評価する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。

■ 教科書

臨床栄養学（基礎編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2970円〕

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学各論

(30128)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学概論で学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、多様な疾患における病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。内容については、各疾患における治療ガイドラインに基づき、病態、症候、治療に対応した食事療法について学修し、実務経験時の事例を交えながら、臨床現場において適切な栄養食事療法の選択ができる知識を修得できるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各疾患における、病因・病態の基本的な知識を修得できる。	③
・各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。	③
・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。	④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　内分泌系疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第2章の範囲を予習・復習する
第２回　消化器疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第3章の範囲を予習・復習する
第３回　肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第2章の範囲を予習・復習する
第４回　循環器疾患の栄養食事療法①（高血圧・動脈硬化）	（疾患別編）第4章の範囲を予習・復習する
第５回　循環器疾患の栄養食事療法①（心疾患・脳疾患）	（疾患別編）第5章の範囲を予習・復習する
第６回　腎臓疾患の栄養食事療法①（慢性腎臓病）	（疾患別編）第6章の範囲を予習・復習する
第７回　腎臓疾患の栄養食事療法②（糖尿病性腎症、人工透析）	（疾患別編）第6章の範囲を予習・復習する
第８回　呼吸器疾患、血液疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第8・9章の範囲を予習・復習する
第９回　運動器系疾患、免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第10・11章の範囲を予習・復習する
第10回　癌、周術期の栄養食事療法	（疾患別編）第13・14章の範囲を予習・復習する
第11回　摂食・嚥下障害の栄養食事療法	（疾患別編）第16章の範囲を予習・復習する
第12回　小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄養食事療法	（疾患別編）第18・19章の範囲を予習・復習する
第13回　高齢者疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第20章の範囲を予習・復習する
第14回　グループディスカッション	事例の内容をまとめておく
第15回　講義のまとめ・試験	教科書・プリントの内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・20分以上の遅刻は欠席とみなす。
・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験60%、小テスト30%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識、遅刻）を総合的に判断して評価する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。

■ 教科書

臨床栄養学（疾患別編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔3080円〕

■ 参考書

適宜プリント配布

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習

(30129)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要

一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。

臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。授業では各治療食について朝食、昼食、夕食の献立の作成を実施し、連続した集団給食における治療食の作成を視野に入れて解説を行う。急性期、慢性期に則した治療食の捉え方と病院における実践的な治療食の作成を教員の実務経験を基に授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・疾患とそれに則した治療食の目的が理解できるようになる。	④⑤
・治療食の栄養基準に合った適切な献立作成ができるようになる。	④⑤
・治療食として適切な調理方法を理解し、実施できるようになる。	④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　病院での栄養士の仕事　治療食の特色について	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第２回　一般治療食　常食献立作成	常食の献立作成
第３回　一般治療食　常食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について	常食献立提出 糖尿病食献立作成
第４回　糖尿病食献立提出 一般治療食　常食　調理実習	糖尿病食献立提出
第５回　脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング	脂質異常症献立作成
第６回　脂質異常症食献立提出 糖尿病食　調理実習	脂質異常症献立提出
第７回　高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング	高血圧症・心臓病献立作成
第８回　高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食　調理実習	高血圧症・心臓病食献立提出
第９回　腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング	腎臓病食献立作成
第10回　腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食　調理実習	腎臓病食献立提出
第11回　胃・十二指腸潰瘍食について　腎臓病食実習ミーティング	胃・十二指腸潰瘍食献立作成
第12回　胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食　調理実習	胃・十二指腸潰瘍食献立提出
第13回　摂食・嚥下障害食について　胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング	摂食・嚥下障害食献立作成
第14回　摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食　調理実習	摂食・嚥下障害食献立提出
第15回　摂食・嚥下障害食　調理実習	実習のまとめ

■ 履修上の注意

毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。グループ作業となるため各班作業に支障がでないよう献立は期日内に仕上がること。遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点50%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート50%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

〔実践　臨床栄養学実習〕〔第一出版〕〔長浜幸子〕〔2，400+税〕

■ 参考書
〔食品交換表　第７版〕〔文光堂〕〔900+税〕

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養指導論Ⅰ

(30130)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要
世界と日本の食をめぐる社会状況と食生活の変遷を踏まえた上で、栄養士に求められている役割と意義、栄養教育（栄養指導）のあり方について考える。具体的には、様々な対象者に対して適切で効果的な栄養教育を行うために必要な基礎知識と技術を解説する。関連法規・ガイドライン・教材に関する知識の到達目標は、栄養士実力認定試験とする。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育・栄養教育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・栄養指導に関連する歴史・法律・ガイドライン・調査・教材を理解する。	②③
・栄養指導を実施するために必要な基本的な知識を身につける。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 世界と日本の暮らしと食文化 等	事前:教科書予習 事後:実力試験過去問を解く
第２回　第１章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 食生活の変遷・歴史 等	事前:教科書予習 事後:実力試験過去問を解く
第３回　第６章 栄養士の活躍できる職域 栄養士制度・栄養士養成 等	事前:教科書予習 事後:栄養士養成カリキュラムのレポート作成①
第４回　第１章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 栄養教育にかかわる法律（栄養士法 健康増進法 食育基本法 等）	事前:実力試験過去問を解く 事後:実力試験過去問を解く
第５回　第１章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 栄養教育にかかわる法律・施策・指針（健康日本21 運動指針 休養指針 等）	事前:実力試験過去問を解く 事後:運動指針を実践し記録する
第６回　第２章 栄養教育に活用する情報収集 情報へのアクセスとメディアリテラシーの向上（国民健康・栄養調査の活用）※アクティブラーニング（グループ討議）	事前:教科書第２章をよく読んでおく 事後:国民健康・栄養調査に関するレポート作成②
第７回　第２章 栄養教育に活用する情報収集 栄養教育にかかわる指針・ガイドライン（日本人の食事摂取基準 食生活指針）	事前:教科書第２章をよく読んでおく 事後:食生活指針を実践して記録する
第８回　第２章 栄養教育に活用する情報収集 栄養教育教材・フードガイドを理解し活用する③（3色食品群 6つの基礎食品 四群点数法）	事前:教科書第２章をよく読んでおく 事後:教材を実践して記録する
第９回　第２章 栄養教育に活用する情報収集 栄養教育教材・フードガイドを理解し活用する③（料理カード）	事前:実力試験過去問を解く 事後:教材を実践して記録する
第10回　第２章 栄養教育に活用する情報収集 栄養教育教材・フードガイドを理解し活用する③（食事バランスガイド）	事前:実力試験過去問を解く 事後:フードガイドについてレポート作成③
第11回　第７章 実践してみよう あなたの栄養教育 課題の発見・分析・計画作成　※アクティブラーニング（グループ討議）	事前:教科書第７章をよく読んでおく 事後:課題の調査と計画書の作成
第12回　第７章 実践してみよう あなたの栄養教育 準備・練習　※アクティブラーニング（グループ討議）	事前:課題の調査と計画書の作成 事後:各自で教材作成とリハーサルを行う
第13回　第７章 実践してみよう あなたの栄養教育 発表・評価　※アクティブラーニング（グループ討議　プレゼンテーション）	事前:各自で教材作成とリハーサルを行う 事後:栄養教育の実践に関するレポート作成④
第14回　第７章 実践してみよう あなたの栄養教育 どこからくるの？私たちの食べ物（食料需給率とフードマイレージ）	事前:実力試験過去問を解く 事後:教材を実践して記録する
第15回　先進諸国と開発途上国における栄養問題 まとめ	事前:実力試験過去問を解く 事後:小テストの正誤と解説を復習する

■ 履修上の注意
教科書に沿って進めていく。授業中に配布するプリントは、ファイルに綴じて、毎回授業に持ってくること。30分以上の遅刻は3回で1回の欠席とする。

■ 成績評価方法・基準
レポート20%、発表20%、小テスト40%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）20%をもとに、総合的に判断する。レポートはあらかじめ採点基準を示し、小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書
〔栄養教育論 第２版 健康と食を支えるために〕〔今中美栄 木下ゆり 他 著〕〔化学同人〕〔2，100円＋税〕　2021年3月31日発行

■ 参考書
栄養士実力試験過去問題は教員が提供する。

■ 備考
欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論Ⅱ

(30131)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要
栄養指導論Ⅰ及び各授業で学んだ内容を統合・発展させる授業である。具体的には、保育所、学校、福祉施設、事業所、医療機関、地域で対象者のニーズ合わせて行う栄養指導の計画・実施・評価の方法について解説する。ライフステージ、ライフスタイルの事例について、課題の発見と指導の要点を学ぶ。栄養士実力試験と管理栄養士国家試験の基礎的な問題を活用する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・個別・集団の栄養指導の方法を理解する。	②③
・各ライフステージの栄養課題を発見し、適切な指導計画が立てられる。	②③
・各ライフスタイルの栄養課題を発見し、適切な指導計画が立てられる。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　5章 1.栄養指導の一般原則（p.47-49）　小テスト	事前：教科書(p.47-49)を読んでおく 事後：実力試験過去問題を解く・小テストの復習
第２回　5章 3.栄養指導の方法（p.60-64）　小テスト	事前：教科書(p.60-64)を読んでおく 事後：実力試験過去問題を解く・小テストの復習
第３回　6章 栄養指導の実際 1.2.3.（p.65-75）　小テスト	事前：教科書(p.65-75)を読んでおく 事後：実力試験過去問題を解く・小テストの復習
第４回　6章 栄養指導の実際 4.5.6.（p.71-75）　小テスト	事前：教科書(p.71-75)を読んでおく 事後：実力試験過去問題を解く・小テストの復習
第５回　8章 1.妊娠期・授乳期（p.96-101）　小テスト	事前：教科書(p.96-101)を読んでおく 事後：レポート①を作成に向けて調べる
第６回　8章 2.乳児期（p.102-105）	事前：教科書(p.102-105)を読んでおく 事後：レポート①の続きを作成する
第７回　8章 3.幼児期（p.105-108） 11章 3.児童福祉施設給食（p.139-140）	事前：教科書(p.105-108)を読んでおく 事後：レポート②を作成に向けて調べる
第８回　8章 4.学童期・思春期（p.109-115） 11章 3.学校給食（p.136-139）	事前：教科書(p.109-115 136-139)を読んでおく 事後：レポート②の続きを作成する
第９回　8章 5.成人期（p.115-117） 11章 5.事業所給食（p.142-143）	事前：教科書(p.115-117 142-143)を読んでおく 事後：レポート③を作成に向けて調べる
第10回　8章 6.高齢期（p.117-119） 11章 4.社会福祉施設給食（p.140-142）	事前：教科書(p.117-119 140-142)を読んでおく 事後：レポート③の続きを作成する
第11回　第9章 ライフスタイル別栄養指導(p.120-124)	事前：スポーツ選手の栄養管理について調べる 事後：実力試験過去問題を解く・小テストの復習
第12回　栄養士・管理栄養士の活動事例①（医療機関・在宅医療）	事前：在宅医療について調べる 事後：レポート④の作成に向けて調べる
第13回　栄養士・管理栄養士の活動事例②（フードバンク・開発途上国）	事前：世界の健康・栄養問題について調べる 事後：レポート④の作成に向けて調べる
第14回　災害時の健康・栄養問題と栄養士の役割①（被災時・避難所）	事前：災害時の健康・栄養問題について調べる 事後：レポート④の作成に向けて調べる
第15回　災害時の健康・栄養問題と栄養士の役割②（仮設住宅・生活再建）	事前：仮設住宅の健康・栄養問題について調べる 事後：実力試験過去問題と小テスト問題を復習し、正解できるまで復習する
第16回　期末試験	事前：小テストと実力試験過去問題を復習しておく 事後：期末試験問題を復習し、正解できるまで復習する

■ 履修上の注意
授業中に配布したプリント、小テスト、実力試験過去問題はファイルし、教科書と一緒に毎回の授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準

小テスト20%、レポート20%、期末試験50%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。レポートはあらかじめ採点基準を示し、小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書
栄養指導論Ⅰで使用した教科書（既に持っているため買わなくてよい）：〔Nブックス 栄養指導論〕〔相川りゑ子〕〔建帛社〕〔2，376円〕

■ 参考書
〔2021年度栄養士実力認定試験過去問題集〕〔(社)全国栄養士養成施設協会編〕〔建帛社〕〔1，120円＋税〕

■ 備考
欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論実習

(30132)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要
栄養指導論Ⅰ・Ⅱで学修した知識・理解をもとに、個人と集団を対象とした栄養指導を実践的に学ぶ授業である。個人指導では共感や傾聴などコミュニケーション能力を身に付ける。集団指導では、課題の発見、計画書・教材作成、発表、評価を行う。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。アクティブラーニング型式（グループ討議、プレゼンテーション、地域と連携した実践・評価、ロールプレイング）で行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・栄養指導の知識と技術を活用し、指導計画・実施・評価することができる。	②④⑥
・個人栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。	②④⑥
・集団栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。	②④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　地域課題と栄養教育①　課題の発見・分析・ニーズ把握（グループ討議）	事前：シラバスを読んでわからない言葉を調べる 事後：地域課題について調べる
第２回　地域課題と栄養教育②　教材開発・献立作成（グループ討議）	事前：対象者の嗜好・状況について調べる 事後：献立の栄養計算をして修正する
第３回　地域課題と栄養教育③　教材開発・試作（グループ討議）	事前：各自で試作して献立を修正する 事後：最終献立の栄養計算をする
第４回　地域課題と栄養教育④　プレゼンテーション準備	事前：プレゼンテーションの素材を集める 事後：発表資料の修正と練習
第５回　地域課題と栄養教育⑤　プレゼンテーション・評価	事前：プレゼンテーションのリハーサル 事後：評価を参考に献立・資料を修正する
第６回　集団指導① ライフステージの決定・情報収集（グループ討議）	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：対象者の状況・課題について詳しく調べる
第７回　集団指導② 栄養教育計画書作成（グループ討議）	事前：対象者に適した教材・方法を調べる 事後：計画書を仕上げる
第８回　集団指導③ 教材（媒体）作成（グループ討議）	事前：教材作成に必要な材料・方法を調べる 事後：教材を仕上げる
第９回　集団指導④ 教材（媒体）練習	事前：教材を使って練習する 事後：教材とシナリオの修正し練習する
第10回　集団指導⑤ 教材（媒体）リハーサル	事前：最終の計画書・教材・シナリオを準備する 事後：プレゼンテーションの練習を繰り返し行う
第11回　集団指導⑥ プレゼンテーション・評価 1回目	事前：評価基準を確認し準備する 事後：他の人の発表を参考に自分の発表を修正する
第12回　集団指導⑦ プレゼンテーション・評価 2回目	事前：他の人の発表を参考に繰り返し練習する 事後：評価を参考に自分の教材等を修正する
第13回　個人指導① 栄養相談の環境づくり・導入（グループ討議）	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：症例ワークシートを記入する
第14回　個人指導② 栄養相談ロールプレイング：基本症例	事前：基本症例のわからない点を調べる 事後：ワークシートを完成させて提出する
第15回　個人指導③ 栄養相談ロールプレイング：応用症例	事前：応用症例のわからない点を調べる 事後：ワークシートを完成させて提出する

■ 履修上の注意
グループ討議やロールプレイングには積極的に参加すること。30分以上の遅刻は3回で1回の欠席とする。授業中に配布したプリントはファイルし、毎回の授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準
地域課題への取り組みの成果物・プレゼンテーション20%、集団指導教材・プレゼンテーション20%、個人指導レポート20%、小テスト20%、取り組み20%（提出状況、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。プレゼンテーションの

評価は学生全員や学内外の専門分野関係者を交えて行い、発表者にフィードバックする。レポートの採点基準は予め示す。

■ 教科書
栄養指導論Ⅰ・Ⅱの教科書（既に持っているため買わなくてよい）：〔Nブックス 栄養指導論〕〔相川りゑ子〕〔建帛社〕〔2，376円〕

■ 参考書

■ 備考
欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆栄養学

(30133)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本の食生活や食環境の変化を理解する。	③⑤⑥
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	③⑤⑥
・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。	③⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　公衆栄養の概念	公衆衛生学で学習した内容を復習したうえで、受講する。
第２回　公衆栄養活動	公衆栄養活動の歴史、ポイントとなる用語について確認し、理解する。
第３回　日本の食事の変化	日本人の栄養摂取状況の推移と現状を確認する。
第４回　日本の食生活の変化	日本人の食行動を交えて学習する。
第５回　日本の食環境の変化	日本の経済状況等も交えて学習する。
第６回　日本の栄養政策	栄養行政、特に保健所や市町村の役割について理解する。
第７回　公衆栄養関連法規	授業でとりあげる法律について、ポイントとなる点を復習する。
第８回　国民健康・栄養調査	調査の目的、実施に関する点について、ポイントを理解する。
第９回　ミニテスト１ 公衆栄養マネジメント・アセスメント	第1回～第8回の授業内容の修得状況を点検する。 公衆栄養活動の進め方について確認する。
第10回　公衆栄養活動における調査方法	調査方法の特徴を理解する。
第11回　公衆栄養活動における目標設定	目標設定、優先順位の決め方について確認する。
第12回　公衆栄養活動の評価	評価の具体例を交え、理解を深める。
第13回　栄養疫学の指標	公衆衛生学で学習した疫学を復習したうえで、受講する。
第14回　健康・食生活の危機管理と食支援	震災発生時の食支援について理解する。
第15回　ミニテスト２ 公衆栄養活動の展開	第9回～第14回の授業内容の修得状況を点検する。 公衆栄養活動の展開について理解する。

■ 履修上の注意
・遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
・本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準
・ミニテスト１（35%）、ミニテスト２（35%）、提出物（20%）、受講態度（10%）で評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）で受付ける。

調理科学論

(30134)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要

授業の概要

栄養学の学問領域において調理を科学的にとらえて学修する。すなわち食事計画から，調理操作を経て，食事を提供するまでの一連の調理工程を科学的な裏付けをもとに解説する。植物性食品・動物性食品，調味料等の調理性を学修し，調理に活用できるようにする。さらに，食事設計の方法，食べ物のおいしさを評価するための要因，すなわち食べ物の味，におい，色，テクスチャー，食べる人の心理的・環境的・生理的等要因および官能評価について学修する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・調理の意義，目的，役割を説明できる。	②③⑤
・加熱・非加熱の調理操作と使用機器の原理と特徴等の知識を習得する。	②③⑤
・食品や調味料の特性と調理による栄養変化及び科学変化が理解できる。	②③⑤
・食事設計を理解し対象者に適切な食事を提供する知識を習得する。	②③⑤

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	1.　調理の意義，目的，役割について	調理の意義・目的等を読んでおくこと
第２回	2.　食べ物のおいしさ；におい・味を感じるメカニズム・味の相互作用	食べ物のおいしさを読んでおくこと
第３回	3.　おいしさの評価；おいしさの要因，機器測定，官能評価の方法	おいしさの評価を読んでおくこと
第４回	4.　調理操作①非加熱調理操作	非加熱調理操作を読み、予習・復習をする。
第５回	5.　調理操作②加熱調理操作	加熱調理操作を読んでおくこと
第６回	6.　調理機器，新しい調理法	調理機器，新しい調理法を読んでおくこと
第７回	7.　食事設計①各国の料理様式の特徴と献立構成	各国の食事構成，供食形式を読んでおくこと
第８回	8.　食事設計②食設計の意義，献立立案の条件，手順，評価	食事設計について復習プリント記入
第９回	9.　植物性食品の調理科学①米，小麦，いも類，豆類	米，小麦，いも類、豆類を読んでおくこと
第10回	10.　植物性食品の調理科学②野菜，果実，藻類	野菜，果実，藻類を読んでおくこと
第11回	11.　動物性食品の調理科学①食肉，魚介類	食肉，魚介類を読んでおくこと
第12回	12　動物性食品の調理科学②卵類，牛乳，乳製品	卵類，牛乳，乳製品を読んでおくこと
第13回	13.　油脂類の調理科学　油脂の脂肪酸組成，調理性	油脂の脂肪酸組成，調理性を読んでおくこと
第14回	14.　ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	ゲル化剤・とろみ剤を読んでおくこと
第15回	15.　まとめ	

■ 履修上の注意

調理に関する広範な分野を短期間で学修するので，予め教科書を熟読して授業に臨むこと。
小テストは授業の終わりに行い、添削して次回に返却します。

■ 成績評価方法・基準

小テスト10回各4%（40%），筆記試験（50%），受講態度（10%）等総合的に評価する。小テストについては，毎回添削して返却します。

■ 教科書

教科書〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ？調理学〕〔久木久美子他〕〔化学同人〕〔2，100円〕

■ 参考書

〔食材図典〕〔小学館〕，〔NEW調理と理論〕〔山崎清子他〕〔同文書院〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

調理学実習 Ⅰ

(30135)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要
調理科学論」の調理理論、その他の授業で学んだことをもとにして、基本的調理を学び、給食管理、ライフステージ栄養管理等に展開できるようにする。日本料理・西洋料理・中国料理の日常食の献立実習を通して、基本的な知識や調理技術、すなわち計量、切り方、だしの取り方、加熱操作、盛り付け、配膳、料理の組み合わせ等を習得する。また、これらの食事様式をふまえた日常食の食事計画を理解し、栄養バランスや嗜好を考慮した献立および調理ができるよう学ぶ。さらに食材や料理の調理による変化を調理科学の視点から考察する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・基礎的技術および通年・春・夏季節の各種食材の適切な扱い方ができる。	③④⑥
・非加熱及び各加熱法の原理を理解し、食材・料理等にあった適切な調理操作ができる。	③④⑥
・調味料の調味パーセントを活用して、標準的な調味の説明ができる。	③④⑥
・日本料理・西洋料理・中国料理の様式をふまえ、日常食の食事計画と調理ができる。	③④⑥

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	１.講義：授業の進め方、実習の基本事項、安全と衛生対策、調味料の塩分・糖分計算、実習ノートの書き方	教科書253～254pを読んでおくこと。
第２回	２.講義：日常食の食事計画；日常食（主食・主菜・副菜、栄養バランスが適正）の献立作成、実技確認について	教科書245～248pを読み献立作成の準備しておくこと。
第３回	３．調理操作の基礎①計量、切り方、廃棄率、調味料の重量・容量換算など	科書8p、 85～92pを読んでおくこと。
第４回	４.日本料理①：調理操作（炊飯の基礎、煮だし汁の取り方、塩分濃度の調整、即席漬け、煎茶の入れ方など）	日本料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第５回	５.西洋料理①：調理操作（バターライスの炊き方、牛肉ブイヨンの取り方、紅茶の入れ方など）	西洋料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第６回	６.中国料理①：調理操作（焼飯の作り方、魚介すり身団子の成形、寒天の溶解・凝固）	中国料理①の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第７回	７.日本料理②：調理操作（豚肉の下処理・焼き方、青菜の茹で方・浸し物など）	日本料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を確認しておくこと。
第８回	８.西洋料理②：調理操作（牛バラ肉の煮込み料理、小麦粉ルーの加熱温度、ゼラチンの溶解・凝固）	西洋料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。実習ノートの提出①
第９回	９.中国料理②：調理操作（軟炸の衣と油の温度・鶏肉の下処理、卵の気泡性による蒸し菓子、烏龍茶の入れ方など）	中国料理②の実習プリントを読み、調理操作手順を考える。
第10回	10.日本料理③：調理操作（炊き込み飯の炊き方、魚の下処理・煮付け、薄くず汁のでんぷん濃度、三杯酢の調製など）	日本料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。
第11回	11. 西洋料理③：調理操作（魚の下処理、バター焼きの作り方、小麦粉中濃ソースの調製、砂糖の加熱・カラメルソースの調製）	西洋料理③実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。
第12回	12. 中国料理③：調理操作(鶏肉の下処理・鶏湯の取り方、米粉麺の戻し方・炒めものなど)	中国料理③の実習プリントを読み、調理操作手順を考えておくこと。
第13回	13. 各班が作成した日常食の献立（8回目）の実習および評価	作成した献立に必要な食材や調味料の購入・実習の準備を各班で行うこと。
第14回	14. 実技確認と評価、使用食材を用いた調理実習	課題について各自が準備しておくこと。実習ノートの提出②
第15回	15.まとめ、調理器具の整理	

■ 履修上の注意
計量器と電卓は各自で準備してください。
材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。
実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

試験40%、実習ノート30%（ルーブリック評価）、実技評価20%、受講態度10%等総合的に評価します。
試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。実習ノートは後日添削して返却します。

■ 教科書
〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3，300円〕〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1，500円〕

■ 参考書
七訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，400円〕、〔調理のためのベーシックデータ第５版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

調理学実習Ⅱ

(30136)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要
「調理科学論」及び「調理学実習Ⅰ」で学んだことをもとにして、日本料理・西洋料理・中国料理の応用した調理ができることを目的とする。また、日常食の他、季節および地域の食材を取り入れた供応食、行事食、郷土料理等について実習献立を通して学修し、行事食等の献立構成，食事の整え方，食事の提供の仕方，食事作法について日本料理を中心に修得する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・秋・冬の季節を旬とする魚介類や野菜類の種類・調理特性を理解し、適切な扱い方ができる。	③④⑤⑥
・日本料理・西洋料理・中国料理の応用的な調理技術・調理方法を習得する。	③④⑤⑥
・各行事の意味をふまえ、彼岸、正月料理等の行事食、郷土料理等の献立構成を理解し調理ができる。	③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　１.講義：授業の進め方、切り方の復習、郷土料理の調査および献立作成、実技確認について	教科書8p、33p、139～150pを読んでおくこと。献立の提出
第２回　２.日本料理①：秋彼岸の献立；米の湯炊き法によるおはぎ作り（小豆あん、ずんだあん）、吸い物	日本料理①の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第３回　３．日本料理②：秋の献立；しょう油味炊き込み飯、魚（幽庵焼き）・野菜の料理	日本料理②の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第４回　４．西洋料理①：朝食メニュー；ヨーロッパスタイルの献立、ジャムの調製（糖度計）	西洋料理①の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第５回　５.中国料理①：飲茶献立；甜点心と鹹点心（発酵生地）中国料理①の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理	中国料理①の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第６回　６.西洋料理②：秋の献立；肉および根菜の料理、りんごの焼き菓子	西洋料理②の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第７回　７.講義：日本料理の特徴、献立構成、食卓作法、行事食の献立構成、地域の食文化について	教科書3～7pを読んでおくこと。 実習ノートの提出①
第８回　8..中国料理②：秋の献立；拌菜、湯菜、点心の献立構成による調理	中国料理②実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第９回　9.日本料理③：各自が作成した郷土料理の献立（１回目）の実習	作成した献立に必要な食材・調味料の購入・準備を各班で行うこと。献立発表の準備
第10回　10.西洋料理③：クリスマスディナーメニュー	西洋料理③の実習プリントを読み操作手順の/実習ノートの整理
第11回　11.日本料理④：正月料理；重詰め料理の献立	日本料理④の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第12回　12.日本料理⑤：祝い膳；ひな祭りの献立	日本料理⑤の実習プリントを読み操作手順の確認/実習ノートの整理
第13回　13.会席料理のテーブルマナー講習（学外）	実習ノートの整理
第14回　14.実技確認と評価、使用食材を用いた調理実習	課題について各自が準備しておくこと。 実習ノートの提出②
第15回　15.まとめ、調理器具の整理	

■ 履修上の注意
計量器と電卓は各自で準備してください。
材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。
実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。評価はルーブリックで行います。
実習献立のプリントを配布するので、よく読み操作手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準
試験30%、実習ノート30%（ルーブリック評価）、実技評価15%、課題（郷土料理献立）15%、受講態度10%等総合的に評価します。試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックすします。実習ノートは後日添削して返却します。

■ 教科書
〔改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3，300円〕
〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1，500円〕

■ 参考書
〔七訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，400円〕、〔調理のためのベーシックデータ第５版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

調理学実習Ⅲ

(30137)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要
調理学」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」で学んだ知識・技術をもとに，栄養士として調理現場で求められる実践的な能力を総合的に身につけることを目的とする。献立作成から調理に至るまで，材料購入計画やテーブルコーディネートも含めて，学生自身が主体的に計画・実習し評価を行う。さらに，官能評価方法や調理による食材の変化などを理論的に理解し，調理技術と調理理論との統合を図，実際の調理に応用できる力を養えるように指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・献立作成に必要な知識・技術を習得する。	③⑤
・食事基準や食品構成に基づいた献立の作成，調理，テーブルコーディネートができる。	④⑤⑥
・官能評価法や調理理論を理解し、実際の調理に活用できる。	③⑤

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	1. 講義：授業の進め方，献立作成のための解説，実技確認のための解説，災害食のためのDVD鑑賞	レポートの整理。
第２回	2.切り方の確認，スチームコンベクションを使用した献立	基本的な切り方を練習しておくこと。
第３回	3. ①昼食の献立作成，　２０才代女子食事摂取基準量および食品構成に基づき作成する	各班で献立（案）を考えてくる。
第４回	4. 目測・官能評価の実際について，順位法とその解析方法	レポートの整理。
第５回	5. ①で作成した献立の調理実習および評価	栄養価計算、食材の準備をする。
第６回	6. 煮出し汁の種類と混合だしの相乗効果について，汁物（混合だし）の献立作成	レポートの整理。
第７回	7.②夕食の献立作成，２０才代女子食事摂取基準量および食品構成に基づき作成する	各班で献立（案）を考えてくる。
第８回	8.ハンバーグの調製，副材料の役割を理解する	レポートの整理。
第９回	9.②で作成した献立の調理実習および評価	栄養価計算、食材の準備をする。
第10回	10 ③災害食の献立作成，④アフタヌーンティー焼き菓子の献立作成	各班で献立（案）を考えてくる。
第11回	11.味覚について、学外講師による授業	官能評価表、レポートの整理
第12回	12.③災害食の調理実習および評価	栄養価計算、食材の準備をする。
第13回	13.④ティーサンドイッチ，焼き菓子の調理実習，テーブルコーディネートおよび評価	栄養価計算、食材の準備をする。
第14回	14. 実技確認，使用食材を用いた調理実習	課題の準備をしておく。実習ノートの提出。
第15回	15 まとめ，　調理器具の整理	

■ 履修上の注意
計量器と電卓は各自で準備してください。
材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。
実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準
試験40%、実習ノート・レポート30%（ルーブリック評価）、実技評価20%、受講態度10%等総合的に評価します。
試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。実習ノート・レポートは後日添削して返却します。

■ 教科書
改訂新版「調理学実習　おいしさと健康」早坂千枝子監修（アイ・ケイコーポレーション）
「調理のためのベーシックデータ」第４版（女子栄養大学出版部）

■ 参考書
「七訂食品成分表2020」香川芳子監修（女子栄養大学出版部）

「食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編（建帛社）

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理学

(30138)

単位：２単位
対象学科：食専１年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要

給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を食事摂取基準、給与栄養目標量の算出、献立作成に必要な食品構成、食事計画および、安全衛生管理について順序だてて解説する。また、特定給食施設においての大量調理を想定した集団給食の献立作成、作業工程、作業の標準化について教員の現場経験を取り入れた視点から解説を行う。更に代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識を身につける。	③
・食事摂取基準を用いた給与栄養目標量の算出ができるようになる。	③
・給食計画に基づいた安全かつ衛生的な献立を作成できるようになる。	③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食管理の概念	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第２回　安全衛生管理　食中毒の予防	衛生管理についてテキストを復習する
第３回　栄養計算の基礎知識（食品成分表、廃棄率など）	栄養方法を復習し理解を高める
第４回　給食の計画　食事摂取基準	食事摂取基準と特徴を理解する
第５回　栄養・食事管理の計画①　給与栄養目標量・食事計画	給与栄養目標量を算出できるようにする
第６回　栄養・食事管理の計画②　食品構成　献立作成の基礎知識	食品構成と献立作成の関連性を理解する
第７回　施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）	施設環境についてテキストを参照する
第８回　作業管理（大量調理における調理の工夫・作業工程・作業の標準化）	大量調理の特徴を理解する
第９回　危機管理・ヒヤリハット	危機管理の重要性を理解する
第10回　特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割	特定給食施設の特徴を理解する
第11回　保育所・学校・事業所給食	施設での役割についてテキストを復習する
第12回　高齢者福祉施設給食	施設での役割についてテキストを復習する
第13回　病院給食	施設での役割についてテキストを復習する
第14回　災害時の備蓄について	給食施設の非常時対応を理解する
第15回　まとめ　給食における評価と改善	これまでの講義を振り返りまとめる
第16回　試験	これまでの講義を振り返り理解する

■ 履修上の注意

栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。　遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準

試験50%　平常点30%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）　提出物20%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2，800+税〕
〔五訂「大量調理施設衛生管理のﾎﾟｲﾝﾄ」〕〔中央法規〕〔2，400+税〕

■ 参考書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2，100+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅰ

(30139)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要

2年次の校外実習に向けた心構えや実務について概説する。また2年生による校外実習報告会に参加する。更に本授業では保育園・給食センター・病院などの給食施設を赴き、施設見学を通して該当する給食施設の特性を直接学びとる。給食展示会の見学では、給食施設で実際に使用されている加工食品の利用法について、栄養まつりの見学では、栄養士として地域社会への貢献やその活動状況等を知ることができる。これらの見学を通して、栄養士の多様性を学び、実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解を深められるよう教員の現場経験を取り入れた視点で講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各施設で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。	③④⑤
・安全で衛生的な食事の提供に必要な環境を理解できるようになる。	③④⑤
・地域社会との連携の重要性が理解できるようになる。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　施設見学の意義・目的	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第２回　校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて	実習先で学べる内容を理解しておく
第３回　挨拶の練習　身だしなみチェック　報告書・お礼状について	実習に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第４回　各施設への見学事前準備（施設の特徴や学習に必要な着眼点など）	施設の特徴を理解し、目的をもって見学する
第５回　保育園見学	見学後レポートを提出する
第６回　セントラルキッチン見学	見学後レポートを提出する
第７回　病院見学	見学後レポートを提出する
第８回　給食展示会見学	見学後レポートを提出する
第９回　栄養まつり見学（日本栄養士会主催）	見学後レポートを提出する
第10回　施設見学後指導　校外実習に向けた対策と準備	見学時に配布された資料等を復習する
第11回　給食施設献立の要点確認	献立作成に必要な情報を確認する
第12回　給食施設献立の作成（基礎）	栄養基準に沿った献立の作成
第13回　給食施設献立の展開方法（応用）	連続した献立の作成練習
第14回　校外実習報告会①（２年生前半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。
第15回　校外実習報告会②（２年生後半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。

■ 履修上の注意

本科目への取り組み状況（提出物・遅刻・欠席・受講態度（積極性）など）によっては２年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。また見学では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1，800+税〕

■ 参考書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2，800+税〕

■ 備考

見学等の時期に関しては施設や行事の都合上、変動があります。
新型コロナウイルスの感染状況により対象施設の見学が行えない場合もあります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅱ

(30140)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要
「栄養士」資格取得のために必須な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、給食の目的、実習先の業務内容について教員の現場経験を基に解説し、それぞれが自分の学習テーマをもって実習に臨めるようにする。実習期間中に作成する実習ノート（日誌）への記述法、要点のまとめかた等について学習する。更に、年度末に報告会を行い、各自実習で得た成果や反省点、今後の課題を整理して発表する。実習先それぞれの報告内容を共有し、自分の実習先だけでなく幅広い給食管理業務を理解できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・実習で何を学びとるか心構えや目的を明確化できるようになる。	③④
・自分の学習テーマ（自主研究）を考える力を身につける。	③④⑤
・実習先で体験できる栄養業務からその要点を学びとる。	③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食管理校外実習の意義・目的の明確化	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第２回　実習の心構えについての確認　身だしなみチェック	心構えの確認、実習前の整理
第３回　実習先の情報収集および確認　校外実習オリエンテーションについて	実習先の情報から学ぶべきテーマを検討する
第４回　実習内容について　実習計画立案（小学校）	実習で学ぶべき内容の整理
第５回　実習日誌等記録の書き方について　①様式の説明・注意点	記録方法の演習実施
第６回　実習日誌等記録の書き方について　②報告書の目的とポイント	要点のまとめ方を理解する
第７回　実習日誌等記録の書き方について　③表現法・言葉使い	記録する際に使用する表現を理解する
第８回　施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について	実習先の職員や給食対象者への接し方を理解する
第９回　実習前課題についての準備と対策	施設ごと課題への取り組みについて
第10回　自主研究のテーマについて	自ら関心がもてる研究テーマを検討する
第11回　実習内容について　実習計画案作成（自衛隊駐屯地・保育所）	実習で学ぶべき内容の整理
第12回　実習内容について　実習計画案作成（高齢者施設・その他）	実習で学ぶべき内容の整理
第13回　校外実習終了後のまとめ、反省点について	校外実習ノートに記録を残す
第14回　校外実習報告会①（前半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する
第15回　校外実習報告会②（後半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する

■ 履修上の注意
本科目への取り組み状況（遅刻、欠席、受講態度（積極性）、提出物）によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準
平常点50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1，800+税〕

■ 参考書
〔臨地・校外実習書〕〔建帛社〕〔2，000+税〕

■ 備考
校外実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅰ

(30141)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要
栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や教員が集団給食施設で得た経験と技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者に必要な食事摂取基準に基づいた栄養量および嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、大量調理施設衛生管理マニュアルに則した衛生的かつ安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識と実務を身につける。	③
・計画に基づいた集団給食の調理提供が行なえるようになる。	③④⑤
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理ができるようになる。	③④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食管理実習の概論	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第２回　HACCP　大量調理衛生管理マニュアル	大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を覚える
第３回　大量調理器具機材の使い方と特徴について	器具機材の名称を復習して覚える
第４回　既定献立による大量調理の実施①（前半グループ）	大量調理の調理法と献立を復習する
第５回　既定献立による大量調理の実施②（後半グループ）	大量調理の調理法と献立を復習する
第６回　給与栄養目標量　献立組み合わせ検討	栄養計算、献立の作成、作業計画立案
第７回　試作①　予定献立提示	試作調理の計画立案
第８回　試作②　予定献立提示　発注書作成	試作後の献立見直しと発注書の作成
第９回　アンケート作成　検食簿	実施献立の作成と喫食評価の準備
第10回　予定献立による調理実習①（4ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第11回　予定献立による調理実習②（4ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第12回　予定献立による調理実習③（4ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第13回　予定献立による調理実習④（4ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第14回　アンケート結果集計・報告の準備　調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第15回　実習後の報告と反省・まとめ	次年度に向けた実習の振り返り

■ 履修上の注意
実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準
ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書
〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2，100+税〕
〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2，500+税〕

■ 参考書
〔食品解説つき　八訂準拠　ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1，400+税〕

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅱ

(30142)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要
給食管理の実務について更に理解を深め給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画（衛生管理を含む）を立てられるよう教員が持つ実務経験を基に実習を通して説明を行う。1年次の「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、復習を行いながら主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画が立てられるようになる。	③
・定められた調理時間内に計画通りの給食調理ができるようになる。	③④⑤
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理を自ら指示し実践できるようになる。	③④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　班編成　献立計画	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第２回　献立作成・検討　調理室清掃	食材、器具類の殺菌食毒法を確認する
第３回　大量調理機器を使った調理法の確認（前半ｸﾞﾙｰﾌﾟ）試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第４回　大量調理機器を使った調理法の確認（後半ｸﾞﾙｰﾌﾟ）試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第５回　試作　献立再検討	試作後の献立見直し
第６回　対象者に向けた栄養媒体作り　書籍の利用　アンケート作成　発注書作成	献立説明、アンケート内容の検討
第７回　実習準備　作業工程表作成　衛生関連の書類確認	作業工程、衛生管理の点検
第８回　調理実習①（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第９回　調理実習②（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第10回　調理実習③（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第11回　調理実習④（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第12回　調理実習⑤（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第13回　調理実習⑥（6ｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第14回　アンケート結果集計・報告の準備　調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第15回　実習後の報告と反省・まとめ	実習の成果と課題を情報共有する

■ 履修上の注意
応用力が必要となるため、担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。　遅刻3回で欠席1回とする。

■ 成績評価方法・基準
ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、授業への参加状況および実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書
〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2，100+税〕
〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2，500+税〕

■ 参考書

〔食品解説つき　八訂準拠　ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1，400+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外実習）

(30143)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：実習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要
給食管理についてこれまで学んできたことの総まとめとして、一週間、給食管理校外実習として特定給食施設において施設の管理栄養士を中心に給食管理業務の指導を受ける。実習施設は原則として保育所、小中学校、自衛隊、病院、福祉施設のいずれかとなる。一週間の校外実習を通して、給食業務を行うために必要な技術を習得し、食事の計画や調理など、社会に通用する栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。実習後は教員が給食施設で得た実務経験を基に事後指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・実習の目的を明確にし、実習先で栄養士に必要な視点を身につける。	③④
・自ら学習テーマ（自主研究）整理し報告できるようになる。	③④⑤⑥
・社会人、栄養士として通用するコミュニケーション能力を身につける。	④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　給食業務に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収業務、食数管理、調理作業、配膳など基本的業務に加え、実習施設ごとの対象者に対する栄養食事管理についても学ぶ。	施設ごとの給食の目的を理解し、対象者に則した食事の要点を把握しておく。
第２回　実習前に施設を事前訪問し、実習計画や施設の概要を知る。	実習施設の特徴を理解した上で訪問する。
第３回　実習期間中に必要な課題や自主研究に取り組む。	今までの学習成果を生かし課題に着手する。
第４回　実習期間中は毎日校外実習ノートに記録を残す。	実習先で受けた指導内容を理解し、実習ノートにその記録を残す。
第５回　実習終了後は、反省点等の振り返りを事後指導として行う。	学内で事後指導を受け、実習での学びをまとめ、成果と反省、課題を見出す。

■ 履修上の注意
この科目は学内で定期的に行われる授業ではなく、指定された期間（5日間）、学外で学ぶものです。
校外実習期間中、遅刻や欠席により定められた時間数で実習ができない場合、評価の対象からはずれる場合もある。実習に支障がないよう体調管理にも十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準
実習前の評価（50%）積極性、準備や課題への取り組み状況（計画性）。実習中の評価（30%）勤務状況（遅刻・欠席）、実習態度（積極性）、課題達成度。実習後の評価（20%）実習後の報告、事後指導、校外実習ノートの評価。校外実習ノートは評価して返却する。

■ 教科書
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書林〕〔1，800+税〕

■ 参考書
〔大量調理施設衛生管理のポイント〕〔中央法規〕〔2，400+税〕

■ 備考
校外実習については、実習先との都合上、夏季休暇中や後期に実施することがあります。
質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養士基礎演習

(30144)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
益　田　裕　司

■ 授業の概要
2年次の校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて教員の現場経験を取り入れた視点から解説する。また、校外実習をより効果的に行なえるよう、実際の給食施設で勤務実績のある管理栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。更に校外実習対策として事前課題に必要な知識について演習を通して学習する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・社会で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。	③④⑤
・施設ごとに求められる栄養士の技能を理解することができる。	③④⑤
・多職種と連携およびコミュニケーションの重要性を知る。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　栄養士の職場環境について	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第２回　保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について	栄養士の活躍の場を理解する
第３回　聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について	聴講に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第４回　栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第５回　栄養士の職務内容と実習②学校（講演）	聴講後レポートを提出する。
第６回　栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第７回　栄養士の職務内容と実習④病院（講演）	聴講後レポートを提出する。
第８回　栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）	聴講後レポートを提出する。
第９回　円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所	聴講時に配布された資料を復習する
第10回　円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設	聴講時に配布された資料を復習する
第11回　対象者との接し方、コミュニ―ションについて	多職種との連携の重要性を理解する
第12回　校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）	給食の対象者との特性を理解する
第13回　校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）	演習内容を復習し理解する
第14回　校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）	実務と連携できるよう復習する
第15回　まとめ　栄養士に求められるスキルについて	校外実習に向け自分の課題を検討する

■ 履修上の注意
各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識を明確にもつこと。また、聴講においては身だしなみにも注意すること。遅刻3回で欠席1回とする。また聴講授業では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準
平常点50%（平常点は、授業への参加状況および受講態度（積極性）で総合的に判断する。）レポート50%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書
〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2，800+税〕

■ 参考書
〔各施設における講演時の配布資料〕

■ 備考
各講演の時期に関しては講師の都合により変動します。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食文化論

(30145)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
木　下　ゆ　り

■ 授業の概要
人類が暮らしてきた土地の風土と歴史のなかで培われ、伝承されてきた食べ物、食の嗜好性、食文化について、古代から現代までの変遷を学修する。2013年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食；日本人の伝統的な食文化」を継承する実践者はすべての日本人であるとされている。日本のみならず世界の食文化・食生活の特徴や課題について理解し発信することを目標とする。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育・栄養指導）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食べ物と人との関わりを歴史的変遷、食の嗜好性、食文化の観点から説明できる。	①③
・現在の食生活と健康の問題点を提起し、解決方法を見出し栄養士としての役割を認識できる。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　序章　「和食」：日本人の伝統的な食文化 1章　食文化の領域（食事作法・禁欲・健康食の思想、宗教と食習慣:イスラム教・キリスト教・仏教 等）	事前：教科書の序章と1章を読む 事後：ビーガン・ハラール対応の食品販売店・飲食店を調べて提出する
第２回　2章　世界の食文化形成（中国・インド・ヨーロッパ・ペルシャアラブ料理文化圏、その他の地域・国の料理）	事前：教科書の2章を読む 事後：レポート①(担当の外国料理)を作成する
第３回　3章　日本の食文化の形成と展開 4章　異文化接触と受容（大陸・南蛮・欧米文化、多国籍）	事前：教科書の3・4章を読む 事後：レポート①(担当の外国料理)を完成させて提出する
第４回　5章　主食の文化(木の実、いも類、コメ、大麦、小麦、雑穀) 6章　副食の文化(魚介類、豆類、肉、乳、卵 等)	事前：教科書の5・6章を読む 事後：授業の課題プリントに取り組む
第５回　7章　だし、うま味（鰹節削り体験、だしの試飲）	事前：教科書の7章を読む 事後：小テスト①の範囲を勉強する
第６回　7章　塩、砂糖、発酵調味料、香辛料　油脂　小テスト①	事前：教科書の7章を読む 事後：小テスト①の範囲を勉強する
第７回　8章　日本茶文化・和菓子（茶道体験） アジア・アフリカ・南米の茶	事前：教科書の8章を読む 事後：レポート②(担当の郷土料理)を作成する
第８回　8章　紅茶文化・珈琲文化・洋菓子（英国式アフタヌーンティー体験、珈琲豆挽き体験）	事前：教科書の8章を読む 事後：レポート②(担当の郷土料理)を完成させて提出する
第９回　9章　日本料理の形成と発展（本膳料理、懐石料理、会席料理）	事前：教科書の9章を読む 事後：小テスト②の範囲を勉強する
第10回　10章　台所・食器・食卓の文化（台所、燃料、調理道具、食器、食卓）　小テスト②	事前：教科書の10章を読む 事後：小テスト②で間違えた箇所を復習する
第11回　11章　日常の食生活 12章　非常の食生活（飢饉、戦争、災害）　未来の食料不足	事前：教科書の11・12章を読む 事後：授業の課題プリント取り組む
第12回　13章　外食文化の成立と変化 14章　行事と地域の食文化	事前：教科書の13・14章を読む 事後：レポート③(担当の年中行事)を作成する
第13回　15章　家庭・地域、学校、社会における食育 食文化の継承のための計画・実践・評価①　アクティブラーニング（グループ討議、情報収集）	事前：課題について調べて準備する 事後：発表の準備をする
第14回　15章　家庭・地域、学校、社会における食育 食文化の継承のための計画・実践・評価②　アクティブラーニング（プレゼンテーション・評価）	事前：発表の練習をする 事後：評価を参考に振り返りをする
第15回　まとめ　小テスト③　振り返り	事前：小テスト①②と教科書を復習する 事後：小テスト③で間違えた点を復習、レポート③(担当の年中行事)を完成させて提出する

■ 履修上の注意
教科書に沿って進めていく。遅刻は30分までとし、遅刻3回で1回の欠席とする。出欠に関わらず、レポート3回提出と小テ

スト3回受けることを、単位取得の条件とする。

■ 成績評価方法・基準
小テスト30%、レポート30%、発表30%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。レポートはあらかじめ採点基準を示し、小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書
・〔日本の食文化 新版 「和食」の継承と食育〕〔江原 絢子 編著〕〔ケイ・アイ・コーポレーション〕〔2，500円＋税〕
・必要に応じて教員がプリントを配布する。

■ 参考書

■ 備考
授業内容は教科書の章立てに合わせているため、欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食生活支援論

(30146)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
松尾　広　池田展敏　黒川優子　木下ゆり

■ 授業の概要
食生活を消費者・生活者の視点から概観し、食生活のアドバイスができるようになるために、食生活アドバイザー検定試験の内容について学ぶ授業である。栄養や食生活、ダイエット、健康、食文化、行事食、調理方法、食事におけるマナー、食品の分類や表示、保存・加工食品の目的、食品添加物、食品衛生、食マーケット、流通システム、税金や法律、経済など、「食」を取り巻く消費生活と社会の仕組みなどについて説明し、演習問題を解いていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食生活や健康管理のアドバイスができるようになること。	①③
・食生活や健康管理のアドバイスができるようになること。 食文化や食品表示に関する知識を身につける。	①③
・食マーケットの概要について理解すること。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンスと1章前半:栄養に関する知識（池田・木下）	配布プリント、教科書1章を復習。
第２回　1章後半：健康に関する知識（木下）	配布プリント、教科書1章を復習
第３回　2章前半：食文化（木下）	配布プリント、教科書2章を復習
第４回　2章後半：調理・食材・マナー（木下）	配布プリント、教科書2章を復習
第５回　3章前半：食品の分類（池田）	配布プリント、教科書3章を復習
第６回　3章後半：食品表示（池田）	配布プリント、教科書3章を復習
第７回　4章前半：食中毒の予防（黒川）	配布プリント、教科書4章を復習
第８回　4章後半：食品の安全（黒川）	配布プリント、教科書4章を復習
第９回　5章前半：食マーケット（池田）	配布プリント、教科書5章を復習
第10回　5章後半：流通システム（池田）	配布プリント、教科書5章を復習
第11回　6章前半：暮らしと経済（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第12回　6章後半：食品に関する法律（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第13回　食生活アドバイザーの模擬試験と復習（池田）	模擬試験の復習（提出課題あり）

■ 履修上の注意
食生活アドバイザー検定試験の日程に合わせ講義日程（時間帯）を調整することがあるので、注意すること。

■ 成績評価方法・基準
各回の提出物等の受講態度（60%）、模擬試験（40%）。提出物はコメント等をして返却する。

■ 教科書
食生活アドバイザー2級公式テキスト＆問題集　FLAネットワーク協会/編　2100円

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

特別演習

(30147)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
永沼孝子　曽根正彦　鈴木裕行　黒川優子　益田裕司　宮地洋子
木下ゆり

■ 授業の概要

本演習では、栄養士実力認定試験の試験範囲について総合的に復習を行い、栄養士の資質向上を目指し授業を行う。栄養士に必要な知識は「授業計画」にあるように大変多岐にわたるが、その内容を集中的に復習することで、ばらばらになっている知識を再統合する。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去問題を解くことにより、知識が不足している個所を再確認させるとともに、卒業までおよび卒業後の復習につなげる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・栄養士実力認定試験のメリット、試験範囲、出題形式が理解できる。	①③
・栄養士に必要な知識を、総合的に身につける。	①③
・選択式の問題を解くための読解力と思考力を身につける。	①③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、模擬試験I	模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。
第２回　食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第３回　食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第４回　栄養指導論（木下）重要ポイントおよび演習問題	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第５回　栄養指導論（木下）重要ポイントおよび演習問題	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第６回　生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第７回　生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第８回　生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第９回　食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第10回　食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第11回　食品衛生学（黒川）重要ポイントの解説と過去問題の解説	配布資料の復習。
第12回　食品衛生学（黒川）重要ポイントの解説と過去問題・演習問題の解説	配布資料の復習。
第13回　栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第14回　栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第15回　栄養学総論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第16回　栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第17回　栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第18回　栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第19回　模擬試験 II	自己採点、誤った問題についての再学習
第20回　臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第21回　臨床栄養学概論（益田）問題の傾向と対策	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第22回　調理学（宮地）要点の復習と演習問題の解説	配布資料・教科書．練習問題の復習。
第23回　調理学（宮地）要点の復習と演習問題の解説	配布資料・教科書．練習問題の復習。
第24回　解剖生理学（曽根）重要ポイントの解説	配布資料の復習。
第25回　解剖生理学（曽根）重要ポイントの解説	配布資料の復習。
第26回　解剖生理学（曽根）重要ポイントの解説	配布資料の復習。
第27回　給食管理論（益田）問題の傾向と対策	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第28回　給食管理論（益田）問題の傾向と対策	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第29回　給食管理論（益田）問題の傾向と対策	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第30回　模擬試験 III	模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。

■ 履修上の注意

授業は、原則各の授業の担当教員によるオムニバス形式。毎回配布資料があるので、ファイルに綴じて整理すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）30%、提出物及び模擬試験の成績70%。試験答案などの提出物は後日添削して返却するか、解答などを配布する。また必要に応じ返却時に解説を行う。各科目の授業で使用した教科書を持参すること。

■ 教科書
授業毎に資料を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいは担当教員オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。集中講義の日程などの連絡に注意すること。授業の順番には変更がある。

テーブルコーディネートⅠ（ﾃｰﾌﾞﾙﾏﾅｰを含む）

(30148)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：演習　学期：前期
食物栄養学専攻科目
小　林　知恵子

■ 授業の概要
基本理論、アイテム・セッティング・カラー・テーブルマナーの基礎知識に加え、和・洋・中、各国の食文化に対応した正しいアイテム選び、食卓の表現方法が習得出来るよう指導。食空間コーディネーター・卓育インストラクターとし、作り手、企業、各種協会、子育て支援に関わる担当講師が、時代に即したより深い知識を積極的に授業に展開。社会で自信を持って主体的に行動出来る、教養を身に付けた人材を育成する。また、授業は食空間コーディネーター3級試験にも対応しており、任意で外部受験も可能。（WEB受験可）

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食空間演出の必要性と効果を理解する事が出来る様になる	①②⑤
・ﾃｰﾌﾞﾙｳｪｱの基礎知識を習得し和・洋・中の基本的ﾃｰﾌﾞﾙｾｯﾃｨﾝｸﾞが出来る様になる	①②③④⑥
・カラーの特性を生かし、テーブルコーディネートに活用できる様になる	①③④⑥
・旬な知識・マナーを習得し、社会人となる上での自信を持つ事が出来る。	①②③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　導入:講義の目的と授業展開。フードコーディネーターとは？	テキストをよく読んでおく
第２回　食空間のあり方～テーブルコーディネートの基礎倫理～	テキストをよく読んでおく
第３回　テーブルウェアの知識　①リネンについて	テキストをよく読んでおく
第４回　テーブルウェアの知識　②陶磁器の基礎知識	テキストをよく読んでおく
第５回　テーブルウェアの知識　③洋陶磁器について	テキストをよく読んでおく
第６回　テーブルウェアの知識　④ガラス、カトラリーについて	テキストをよく読んでおく
第７回　食空間におけるカラーコーディネート	テキストをよく読んでおく
第８回　テーブルウェアの知識　⑤ｾﾝﾀｰﾋﾟｰｽ、ﾌｨｷﾞｭｱについて	テキストをよく読んでおく
第９回　食空間構成①洋食の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第10回　テーブルウェアの知識　⑥和陶磁器について	テキストをよく読んでおく
第11回　テーブルウェアの知識　⑦漆器･箸について	テキストをよく読んでおく
第12回　食空間構成②和食の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第13回　食空間構成③中国料理の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第14回　プランニングシートの作成について（テーマ自由）	自由テーマのプランを練っておく
第15回　プレゼンテーション	自由テーマのプランニングシート提出
第16回　試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意
グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準
学期末の試験（50%）、提出課題（20%）、受講態度（30%）
・提出されたプランニングシートは、後日添削して返却。

■ 教科書
〔フードコーディネーター　教本３級〕〔柴田書店〕〔3，300円〕

■ 参考書
〔食空間コーディネーターテキスト３級〕〔NPO法人食空間コーディネート協会〕〔2，381円＋税〕

■ 備考
質問等については、授業終了時に受け付けます。

テーブルコーディネートⅡ

(30149)

単位：１単位
対象学科：食専１年
授業形態：実習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
小　林　知恵子

■ 授業の概要

各国のテーブル・サービスマナー、プロトコールの基礎知識、空間デザインについて講義。校外学習ではプロの作品・仕事を垣間見、実社会で要求される到達目標を認識。

各自がテーマのプランニングとプレゼンテーションを重ねる事で、相互理解を深めながら、主体的に行動できる能力を養う。

講師は、コンテスト全国1位。2021年出版の経験を持ち、業界最大の東京ドームＴＷＦではアリーナ出演・講座講師を務めるなど全国区で活躍。実習では学生の作品を基に、時代に即した表現方法・芸術的創造性を披露するなど、実社会に繋がる様指導。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・テーブルマナー、サービスマナー、プロトコールの基礎知識を習得。	①②⑤⑥
・料理の特性、季節や祭事に合わせたコーディネートが出来る様になる。	①②③④⑥
・ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝで相互理解を深めると共に、実践力を身に付ける。	①②⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理）	テキストをよく読んでおく
第２回　テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）	テキストをよく読んでおく
第３回　テーブルマナーとサービスマナー（中国料理）	テキストをよく読んでおく
第４回　テーブル展見学（校外学習）	感想レポートをまとめ次回提出
第５回　プロトコール（国際儀礼）の基礎知識	テキストをよく読んでおく。ﾊﾛｳｨﾝﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第６回　食空間演出：ハロウィン（実習）	端午の節句ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第７回　食空間演出：端午の節句（実習）	母の日ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第８回　食空間演出：母の日（実習）	七五三ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第９回　食空間演出：七五三（実習）	クリスマスﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第10回　食空間演出：クリスマス（実習）	お正月ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第11回　食空間演出：お正月（実習）	ﾊﾞﾚﾝﾀｲﾝﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第12回　食空間演出：バレンタイン（実習）	上巳の節句ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第13回　食空間演出：上巳の節句（実習）	ｳｴﾃﾞｨﾝｸﾞﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｼｰﾄの提出
第14回　食空間演出：ウエディング（実習）	テキストをよく読んでおく
第15回　フードサービスにおける空間デザイン	テキストをよく読んでおく
第16回　試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意

行事の慣習の知識を深め、実習の際には創意工夫をもって、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

学年末の試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（30%）
提出されたプランニングシートは、次回授業内でフィードバックし、後日添削して返却。

■ 教科書

〔フードコーディネーター　教本３級〕〔柴田書店〕〔3，300円〕

■ 参考書

〔食空間コーディネーターテキスト３級〕〔NPO法人食空間コーディネート協会〕〔2，381円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

フードマネジメント

(30150)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：前期
食物栄養学専攻科目
堀　田　宗　徳

■ 授業の概要

我々の食生活の中で、食の外部化が進展し、外食･中食が欠かせないもので身近なものとなっており、外食産業の市場規模も26兆円を超え、中食を含めると30兆円を超える大きなマーケットを形成している。しかし、外食・中食の実態を知ることや体系的に学ぶことはほとんど無い状況にある。そこで、この講義では、外食・中食のマネジメントを習得するため外食･中食の定義、業種･業態論、産業構造、食材調達とメニュー戦略、出店政策など外食･中食の基本理論を具体的事例を織り交ぜながら体系的に講義を行う。また、新型コロナウイルスが外食、中食に与えた影響等についても解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食全体の仕組み（フードシステム）を理解できるようにする。	③⑤
・外食・中食（なかしょく）の基本理論を習得する。	③⑤
・外食・中食をマネジメントできる能力を習得する。	③⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：これから行う講義の目的・内容、進め方、参考文献等について説明	
第２回　フードシステムの考え方と外食・中食のポジショニング	事前学修：食の流れについて考えてくる。 事後学修：授業の最後に話すキーワードについて自分なりの考え方をまとめる。
第３回　外食・中食の定義、飲食店の機能と業種業態論	事前学修：外食の定義を考えてくること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第４回　外食産業の産業構造、市場規模、大手外食企業の売上高占有率	事前学修：大手外食企業とはどのようなものなのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第５回　外食産業の出店政策１：事業展開の仕組み	事前学修：出店とはどういうことか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第６回　外食産業の出店政策２：既存店の現状と最近の出店政策	事前学修：既存店とは何か考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第７回　外食産業の競争構造：売上高ランキング	事前学修：外食企業の売上高１位はどこか調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第８回　外食産業の食材調達：食材調達の原則、国産・輸入割合等	事前学修：外食企業の食材仕入で大切だと思うことを調べる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第９回　外食産業のメニュープランニングとメニュー戦略	事前学修：売筋メニューは１日何品売れているか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第10回　外食産業の経営指標：貸借対照表と損益計算書、中間テスト実施	事前学修：第９回までの中間テストに備えること。
第11回　中食産業の構造と経営戦略	事前学修：中食とは何か調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第12回　外食・中食産業史：外食・中食企業の発展過程	事前学修：外食はいつ頃からあったのか調べること。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。

第13回　消費者の外食・中食行動	事前学修：消費者が外食や中食をする時、何を重視するのか考えてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第14回　食の安全・安心と企業のコンプライアンス、将来の外食・中食の姿	事前学修：コンプライアンスについて調べてくる。 事後学修：授業の最後のキーワードについて考えをまとめる。
第15回　まとめ	試験の準備
第16回　試験	試験の準備

■ 履修上の注意
他の学生に迷惑をかけないよう私語は厳禁、携帯電話をマナーモードにすること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（50%）、中間テスト（30%）、受講態度（コメントや質問が出席カード裏面に記されているか等）（20%）　中間テストに関しては終了時に模範解答を配布する。

■ 教科書
毎回、授業前にプリント資料を配付

■ 参考書
〔新版ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ教本〕〔日本ﾌｰﾄﾞｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ協会〕〔柴田書店〕〔3，240円〕

■ 備考
オフィスアワーは授業終了後教室で行う。

フードエンタテイメント演習

(30151)

単位：１単位
対象学科：食専２年
授業形態：演習　学期：後期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏　　堀　江　志　穂

■ 授業の概要
あらゆる食の分野を複合的にコーディネートするのがフードコーディネータの仕事です。この授業の前半では、フラワーアレンジメントの演習とホテルレストランにおける研修によって食空間の演出技法や考え方、ホスピタリティーを学びます(堀江講師や担当講師の実務経験を反映した内容)。また、食品工場等の見学を通じ、「生産」「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」など、多様な食の世界を理解することで、フードコーディネータとしての資質向上を目指す授業を行います。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・フラワーアレンジメントの基礎事項を修得し作品を作ることができる。	③
・食空間に大切な要素を理解し、テーブルマナーを身につける。	③
・食の広がり（「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」）を理解する。	③
・以上のことがらを文章や口頭で説明できる。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の進め方、フードコーディネーターとは（池田）	配布プリントの復習。
第２回　テーブルフラワーアレンジメント①：基本のオールラウンド（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第３回　テーブルフラワーアレンジメント②：和食用アレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第４回　テーブルフラワーアレンジメント③：ハロウィンのアレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第５回　テーブルフラワーアレンジメント④：クリスマスのアレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第６回　産学連携講座①：シティーホテルの構成（会場見学）と厨房見学（以下、池田）	配布プリント。講義メモを復習。
第７回　産学連携講座②：ホテルのレストランにおける各演出	配布プリント。講義メモを復習。
第８回　産学連携講座③：テーブルマナー講座	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第９回　ブライダル会場の見学①：パーティー会場の見学と接客について	配布プリント。講義メモを復習。
第10回　ブライダル会場の見学①：結婚式場における食事提供の考え方	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第11回　食品工場の見学①：商品開発やブランド戦略	配布プリント。講義メモを復習。
第12回　食品工場の見学②：食品衛生の実際について	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第13回　グループ学習：パーティー企画立案に関する調査	必要な調査を行うこと。
第14回　グループ学習：パーティー企画立案に関して発表準備	発表に備えた準備を完了させること。
第15回　まとめの授業（グループ学習の発表）	発表の準備と復習。

■ 履修上の注意
テーブルマナー講座や花代、交通費等の実費を徴収する（16000円程度の予定）。夏休み中に最初の見学を行うので日程発表に注意すること。校外の見学では、身だしなみやあいさつ、礼儀に気をつけること。コロナ禍のため見学は中止の可能性もある。提出物が学修の記録となるため、必ずひとつのファイルに綴じ整理すること。

■ 成績評価方法・基準
フラワーアレンジメントの作品（35%）、レポートの内容（45%）。発表の準備と評価（20%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書
各回に必要な資料を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考

都合により、訪問先の変更があります。日程調整のため、シラバス通りの順番で進行しないので注意すること。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

コンピュータサイエンス概論

(30152)

単位：２単位
対象学科：食専２年
授業形態：講義　学期：後期
食物栄養学専攻科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
情報社会を生きる私たちにとって、コンピュータやネットワークの仕組み・危険性に関する基礎知識は不可欠なものである。本講義では、情報がどのようにデジタル化されコンピュータや記録媒体等で扱われるのか、ハードとソフトの両面から学習したのち、情報社会で生活するための情報倫理やセキュリティーについて学べるように授業を行う。授業の方法としては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・デジタルデータとコンピュータの仕組み（ハードウェア）を理解する。	①
・インターネットやLANなどのネットワークの仕組みを理解する。	①
・ネットワーク社会で必要となるセキュリティーの知識とモラルを習得する。	①⑤
・チームで協力して情報収集と発表ができる。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ネットワーク社会と情報。アクティブラーニングの手法について	配布プリントの復習。
第２回　「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第３回　「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第４回　「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第５回　「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第６回　「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第７回　「コンピュータの5大機能とハードウェア」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第８回　「インターネットの仕組み」に関する調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第９回　「インターネットの仕組み」に関する発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第10回　「インターネットの仕組み」に関する発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第11回　「インターネットを安全に使うために」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第12回　「インターネットを安全に使うために」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第13回　「インターネットを安全に使うために」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第14回　1コンピュータのハードとソフトの発展（補足事項）	課題プリントの学習。
第15回　情報モラルに関する学習および小テスト	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。

■ 履修上の注意
各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないと、チーム学習が成り立たない。よって、十分な予習を心がけること。

■ 成績評価方法・基準
発表の準備と内容（12%×4 = 48%）、テスト（48%）、提出物(4%)。グループ発表の資料後日はプリントして配布する。小テストは添削して返却する。

■ 教科書
〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1，800円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
グループ学習におけるルーブリックを初回に配布します。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

子ども生活専攻専攻科目

保育原理

(30201)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
山　沢　智　樹

■ 授業の概要

保育士養成課程の必修科目「保育の本質･目的に関する科目」として位置づけられている。保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史的変遷、保育の現状と課題について概説し、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育の意義及び目的について理解する。	③⑤
・保育所保育指針における保育の基本について理解する。	③⑤
・保育の思想と歴史的変遷について理解する。	③
・保育の現状と課題について理解する。	②③⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	シラバスの確認、学習内容を見通す。
第２回　保育の意義及び目的：保育の理念と概念	辞書で「保育」を調べる／復習
第３回　保育における子ども理解：発達	辞書で「発達」を調べる／復習
第４回　保育の歴史と思想	配布資料を読んでくる／復習
第５回　保育の内容・方法①：なぜ、保育が重要なのか	保育所・幼稚園の経験を振り返る／復習
第６回　保育の内容・方法②：保育の果たす役割とは何か	保育所・幼稚園の経験を振り返る／復習
第７回　保育の計画	配布資料を読んでくる／復習
第８回　保育に関する法令および制度①：幼稚園とは	幼稚園の制度に関して調べる／復習
第９回　保育に関する法令及び制度②：保育所とは	保育所の制度に関して調べる／復習
第10回　保育に関する法令及び制度③：幼保連携に関する制度	幼保連携の動向について調べる／復習
第11回　子育て支援の役割と保育の専門性	配布資料を読んでくる／復習
第12回　諸外国における保育の現状	配布資料を読んでくる／復習
第13回　日本における保育の現状と課題①保育と教育	関心のある保育問題を調べ、まとめておく。
第14回　日本における保育の現状と課題②保育者の処遇	関心のある保育問題を調べ、まとめておく。
第15回　まとめ及び試験	学んだことを振り返り、総まとめをする。

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかり行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点40%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験60%
・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・試験については、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔保育白書2020年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなかま社〕〔2，700円〕
〔子ども白書2020〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省編〕〔フレーベル館〕〔320円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育原理

(30202)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義ではまず乳幼児に対する教育の本質を理解するために、教育の目的や教育の意味を講義する。その際にヒト、保育、人間形成などの基礎理念を整理したい。次に教育観や保育観、子ども観の変遷とともに、日本と諸外国でどのように教育や保育という営みが起こり広がっていったのかを解説する。また、乳幼児に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。講義中には自らの考えを発表し他の学生と討論する時間を設けることで、学生自身が自らの教育観や保育観、子ども観を捉え直し、保育実践の基盤として据えられるようにしたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。	③
・教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。	①③⑤⑥
・日本と諸外国の教育思想について理解する。	③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：教育原理で何を学ぶか	シラバスの確認、学習内容を見通す。
第２回　教育とは何か	配布資料を読んでくる／復習
第３回　権利としての学習、教育（１）子どもの権利条約	配布資料を読んでくる／復習
第４回　権利としての学習、教育（２）日本国憲法	配布資料を読んでくる／復習
第５回　権利としての学習、教育（３）学習権宣言	配布資料を読んでくる／復習
第６回　教育の歴史（１）共同体のための教育、子どもの発見	配布資料を読んでくる／復習
第７回　教育の歴史（２）近代教育制度の成立	配布資料を読んでくる／復習
第８回　教育の歴史（３）日本における教育制度の成立	配布資料を読んでくる／復習
第９回　教育の思想（１）生涯にわたる教育、学習の機会	配布資料を読んでくる／復習
第10回　教育の思想（２）教育と子育て	配布資料を読んでくる／復習
第11回　教育の思想（３）教育と保育	配布資料を読んでくる／復習
第12回　現代の社会問題と教育（１）学力競争の過熱	配布資料を読んでくる／復習
第13回　現代の社会問題と教育（２）職業と教育	配布資料を読んでくる／復習
第14回　現代の社会問題と教育（３）子どもの貧困	配布資料を読んでくる／復習
第15回　まとめ及び試験	学んだことを振り返り、総まとめをする。

■ 履修上の注意

授業中の課題にしっかり取り組むこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点40％（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末試験60％
・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・試験については、問題解説の資料を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔よくわかる教育原理〕〔汐見稔幸ほか編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2，800円〕
〔教育学をつかむ【改訂版】〕〔木村元・小玉重夫・船橋一男著〕〔有斐閣〕〔2，200円〕
〔アクティベート教育学①教育原理〕〔木村元・汐見稔幸編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2，000円〕
〔子ども白書2020〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子ども家庭福祉論

(30203)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
米　川　純　子

■ 授業の概要

子ども家庭福祉はすべての子どもが安心し、安全な環境のもとで成長していけるように様々な仕組みを整え、子どもと家庭を支援している為、保育士資格取得の必須科目となっている。地方自治体での実務を活かし、具体的な事例をあげながら、必要となる法律や身近な支援サービスの学びを深めていく。

さらに子ども家庭福祉の重要課題でもある「虐待」や「貧困」など要保護児童対策地域協議会での経験を基に、現代社会に求められる子ども家庭福祉の在り方や今後の課題について講義する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。	②③
・子どもの人権擁護について理解する。	③
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。	③⑤
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。	②③
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（子ども家庭福祉とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　現代社会と子ども家庭福祉	子ども家庭福祉を学ぶ意義について考える。
第３回　子ども家庭福祉の概念と理念	子どもの最善の利益について理解する。
第４回　子どもの人権・権利条約と人権擁護	親の所有物・従属物としての子どもをめぐる現状や事件について調べる。
第５回　子ども家庭福祉の制度①（法体系：児童福祉法など）	自治体の機能や役割について調べる。
第６回　子ども家庭福祉の制度②（児童福祉施設）	12種類の児童福祉施設について理解する。
第７回　母子保健と子どもの健全育成	妊婦検診について調べる。
第８回　障害のある子どもへの支援	障害児入所・通所施設の違いについて調べる。
第９回　子ども虐待・DVとその防止	児童虐待に関する事件を調べる。
第10回　社会的養護	4種類の里親区分について調べる。
第11回　少年非行等への対応	非行少年3種の区分について調べる。
第12回　ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の支援サービスについて調べる。
第13回　貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への支援	子ども子育て新制度について理解する。
第14回　子ども家庭福祉の動向①（少子化問題・子ども子育て新制度）	少子化問題について考える。
第15回　子ども家庭福祉の動向②（児童虐待・不登校など）	不登校に関する資料を収集する。
第16回　期末テスト	

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。
欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。遅刻2回で1回の欠席とします。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（60%）、期末試験（40%）により総合評価します。課題や期末テストの結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

[子ども家庭福祉][最新保育士養成講座第3巻][全国社会福祉協議会][1，900円]

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

社会福祉論

(30204)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題を解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培うことができる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・①社会福祉に関する基礎的知識を身に付けることができる	①②③⑥
・②社会資源を活用して子どもを守るための具体的な手法を身に付けることができる	①⑤
・③保育士に期待される社会的役割を考え、自主的に援助ができるようになる	①②③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第２回　社会福祉の理念	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第３回　人権とは何か	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第４回　社会福祉の史的展開	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第５回　欧米における社会福祉の成り立ち	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第６回　社会福祉の制度体系	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第７回　社会福祉関係各法（1）－「児童福祉法」を中心として－	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第８回　社会福祉関係各法（2）－「社会福祉法」を中心として－	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第９回　社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第10回　子ども家庭福祉の法体系の基盤	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第11回　子ども家庭福祉の制度・行政・機関	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第12回　社会福祉における保育士の役割について	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回　社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回　社会福祉制度の現状と課題	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第15回　まとめと試験	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める

■ 履修上の注意
社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などについて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい

■ 成績評価方法・基準
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書
〔生活事例から見る社会福祉〕〔吉田眞理　著〕〔青踏者〕1900円

■ 参考書
授業の中で指示する

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

地域福祉論

(30205)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
米　川　純　子

■ 授業の概要

地域福祉論は、高齢、障がい、児童、低所得という分野別の福祉対策・制度を地域において横断的に統合し、まちづくりをつなぐ位置にある。保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目でもあるため、実践にも生かせるよう具体的な身近な社会的資源の制度や利用の仕組み、施設やサービスの種類・内容等について概観する。

また、授業の中で「地域福祉に関するアンケート」を作成し、調査を行い、結果を考察するという体験を通して地域福祉を深く学ぶ機会を持つ。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・地域福祉に関する基礎的な知識を身に付ける。	①
・地域福祉の理念とその展開について学ぶ。	②
・地域福祉の社会的資源に関する理解を深める。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　地域福祉とは	地域福祉を学ぶ意義について理解する。
第３回　地域福祉の理念と概念	近年の地域福祉の課題について考える。
第４回　地域福祉実践紹介と事例検討	事例検討に関するミニレポート。
第５回　地域福祉の政策展開	身近な自治体の生活困窮者自立支援を調べる。
第６回　地域福祉の方法①（地域福祉に関するアンケート作成）	アンケート内容の仮説を立てる。
第７回　地域福祉の方法②（地域福祉に関するアンケート作成）	Googlefoamを活用しアンケート作成。
第８回　地域福祉の推進主体①地域福祉を推進する人々	身近なNPO・ボランティア活動を調べる。
第９回　地域福祉の推進主体②地域福祉を推進する団体	アンケート結果をまとめ、考察する。
第10回　子育て支援と地域福祉	身近な子育て支援センターについて調べる。
第11回　社会的養護と子どもたち	児童虐待・子どもの貧困に関する情報を収集。
第12回　子どもの居場所	子ども食堂の取り組みについて調べる。
第13回　地域における子育て相談	事例検討に関するミニレポート。
第14回　災害と地域福祉	災害ボランティアに関する情報を収集する。
第15回　まとめ	地域福祉に関するアンケート結果を発表。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。
欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。遅刻2回で1回の欠席とします。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（50%）、課題レポート（50%）により総合評価します。課題レポートの結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

［よくわかる地域福祉］［上野谷加代子・松端克文・永田祐　著］［ミネルヴァ書房］［2，400円］

■ 参考書

適宜授業中に紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子ども家庭支援論

(30206)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
浅　野　咲　子

■ 授業の概要

保育所における子育て支援は、全ての子どもの健やかな育ちを実現できるよう「保育所を利用している保護者」と「地域で子育てをしている保護者」の両方を対象に行っていかなければならない。講義では保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。さらに仙台市の公立保育所職員として４０年間勤務し、入所児童の家庭支援や地域子育て支援事業の実践を行ってきた経験を活かして、現代の保護者のニーズを具体的に伝える。それを理解したうえで、これからの保育所による家庭支援のありかたや社会資源、関係機関との連携について学ぶ。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・家庭の意義と役割について理解し自分の家庭にあてはめて説明できる。	③
・子育て家庭を取り巻く社会状況を理解し具体例をあげることができる。	③
・子育て家庭の支援体制について理解し実践と結びつけることができる。	③④
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解することができる。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（授業の目指すところ、進め方など）	
第２回　子ども家庭支援の意義と必要性（家族・家庭の動向）	事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。
第３回　現代の子育て困難について	事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。
第４回　子ども家庭支援の目的と内容	事前に第1章をよく読み授業終了後まとめをする。
第５回　保育士に求められる基本的態度①（相談支援の方向性等）	事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。
第６回　保育士に求められる基本的態度②（相談支援の配慮等）	事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。
第７回　保育士に求められる基本的態度③（育児モデル等）	事前に第2章をよく読み授業終了後まとめをする。
第８回　多様な支援の展開と関係機関との連携（主な関係機関）	事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。
第９回　保育所利用家庭への支援	事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。
第10回　地域の子育て家庭への支援	事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。
第11回　要保護児童家庭への支援	事前に第3章をよく読み授業終了後まとめをする。
第12回　子育て家庭に対する支援の体制（家庭支援の政策動向）	事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。
第13回　子育て家庭支援の制度と課題（子ども子育て新制度等）	事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。
第14回　子育て家庭支援の制度と課題（ワークライフバランス等）	事前に第4章をよく読み授業終了後まとめをする。
第15回　まとめ	授業を振り返っての質問を事前に準備する。
第16回　テスト	

■ 履修上の注意

①教科書を事前に読んでいることを前提に授業を進めます。②分からないところや質問したいことを把握しておくこと。③毎回授業内容の復習しまとめること。④遅刻・欠席は平常点に影響します。

■ 成績評価方法・基準

試験（60%）ノート持ち込み可・平常点(40%)　授業の復習のミニレポート提出を中心に評価する。
提出されたミニレポートは、後日添削して返却する。

■ 教科書
〔実践　子ども家庭支援論〕〔松本園子・永田陽子・福川須美・森和子著〕〔ななみ書房〕〔2，100円+税〕

■ 参考書
〔児童の福祉を支える　子ども家庭支援論〕〔吉田眞理〕〔萌文書林〕〔2，000円＋税〕
〔保育所保育指針　平成29年度告示〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔149円〕

■ 備考
質問等は、授業終了後時に受け付ける。

社会的養護Ⅰ

(30207)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
社会的養護Ⅰは、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、社会的養護を必要とする子どもたちの保育の場として、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知る。また、小学校教諭としての経験を生かして、問題を抱えた子どもたちの生活環境を整えるための具体的方法を考察する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・社会的養護に関する基礎的な知識を身に付けることができる。	①②④⑥
・社会的養護に必要な社会資源について理解することができる。	①③⑤
・社会的養護における具体的な援助等の方法を知ることができる。	①②⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第２回　児童養護の意味	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第３回　児童養護が目指すもの	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第４回　保育士が児童養護を学ぶ視点	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第５回　児童養護の史的展開	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第６回　社会的養護の最近の動向	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第７回　児童養護の基本的な考え方	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第８回　児童養護の種類と内容（１）：乳児院	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第９回　児童養護の種類と内容（２）：母子生活支援施設	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第10回　児童養護の種類と内容（３）：児童養護施設	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第11回　児童養護の種類と内容（４）：障害児入所施設	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第12回　児童養護の種類と内容（５）：児童自立支援施設	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回　家庭的養護の種類と内容	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回　施設養護における保育士の援助・支援の在り方について	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第15回　まとめと試験	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める

■ 履修上の注意
身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい

■ 成績評価方法・基準
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書

教科書〔保育と社会的養護Ⅰ〕〔みらい〕　2300円

■ 参考書
授業の中で指示する

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育者論

(30208)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
岡　崎　善　治

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：教職の意義及び教員の役割・職務内容）及び保育士養成課程（保育の本質･目的に関する科目）の必修科目である。教職・保育職の意義、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、保育者としてのキャリア形成についても様々な事例を下に考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教職（幼稚園教諭）及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。	②③⑤
・保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性や役割、資質能力を理解する。	③⑤
・保育者の職務内容について理解する。	③⑤
・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。	③⑤
・保育現場の内外での連携・協働について理解する。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第２回　保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私 プレ保育者アイデンティティ	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第３回　保育者の役割・資質能力と責務・倫理	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第４回　保育者の制度的位置づけ 資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第５回　幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第６回　保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第７回　幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第８回　子ども理解・保育の計画・実践・省察	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第９回　保育者の協働①：保護者支援	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回　保育者の協働②：幼・保・認定こども園と小学校の接続	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回　保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第12回　保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第13回　保育者の専門職的成長①：生涯発達とキャリア形成	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第14回　保育者の専門職的成長②：自分たちが目指す保育者像	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第15回　まとめ	これまでの課題を振り返り、事後のまとめをする。

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（30%）、提出課題（70%）により総合的に評価します。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※1/3以上欠席すると単位認定は致しません。
※遅刻・早退はそれぞれ２回につき、１回の欠席とします。
提出課題等については、随時フィードバックします。

■ 教科書
教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料を配布します。

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔264円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育・保育制度論

(30209)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義の内容は、まず①日本の教育および保育の制度を法律、理念、歴史、体系などの視点から解説し、その現状と課題を明らかにする。そのうえで②日本の教育・保育を取り巻く社会的状況や、最新の政策動向を講義する。その後、諸外国の子育て支援政策や幼児教育・保育の政策、特徴を取り上げ、日本との制度的・政策的違いを紹介し、学生同士の話し合いや発表の時間を設けながら良い点・悪い点を考察する。最後に③園の安全のために求められることを、法律や実際の事例、政府から出されているガイダンスなどを用いて解説し、安全教育の在り方についても議論する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教育・保育に関する制度の基礎知識を習得する。	①③
・社会と教育・保育の関連を理解し、日本と諸外国の政策動向を理解する。	②⑥
・園の安全を守るために必要な具体的な取り組みを理解する。	③④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：制度の意味と学ぶ意義	シラバスを確認し、学習内容を見通す。
第２回　教育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系	配布資料を読んでくる／復習
第３回　保育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系	配布資料を読んでくる／復習
第４回　教育・保育を取り巻く社会的状況①子どもの貧困と支援制度	配布資料を読んでくる／復習
第５回　教育・保育を取り巻く社会的状況②学童保育の制度	配布資料を読んでくる／復習
第６回　教育・保育を取り巻く社会的状況③近年の政策動向	配布資料を読んでくる／復習
第７回　日本の子育て支援制度の現状と課題	配布資料を読んでくる／復習
第８回　諸外国における子育て支援制度の現状	配布資料を読んでくる／復習
第９回　園の安全を守るために	配布資料を読んでくる／復習
第10回　レポート作成	レポートに書くテーマを考えてくる／レポート内容を振り返る

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかり行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート50%
・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・レポートについては、課題におけるポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔未来を創る教育制度論［改訂版］〕〔川口洋誉・中山弘之編著〕〔北樹出版〕〔2，200円〕
〔だれのための保育制度改革〕〔中山徹〕〔自治体研究社〕〔1，300円〕
〔保育白書2020年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなかま社〕〔2，700円〕
〔子ども白書2020〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

発達心理学

(30210)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
三　浦　主　博

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：幼児の心身の発達及び学習の過程）及び保育士養成課程（「保育の対象の理解に関する科目（保育の心理学）」）の必修科目である。乳幼児の心身の発達の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育の基礎となる考え方を理解する。「発達」とは何か？ということを考えることから始め、乳児期及び幼児期を中心に心身の発達特性、及び発達過程について様々な観点から概説し、話し合いや発表等を通して、子どもの発達と保育について理解を深めていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。	③
・子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。	③
・子どもが人との相互的かかわりを通して発達いくことを具体的に理解する。	②③
・生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験重要性について理解し、保育との関連を考察する。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　発達とは？①：発達心理学における発達／発達と成長の違い	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第３回　発達とは？②：発達を規定する要因（遺伝と環境）／発達の捉え方（発達曲線と発達段階）	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第４回　身体・運動機能の発達①：身体発育	教科書1章5を読み、予習・復習をする。
第５回　身体・運動機能の発達②：乳幼児期の運動機能の発達	教科書1章6を読み、予習・復習をする。
第６回　社会的能力の発達①：微笑の発達	教科書1章4を読み、予習・復習をする。
第７回　社会的能力の発達②：社会的相互交渉／社会的参照	教科書1章10を読み、予習・復習をする。
第８回　社会的能力の発達③：愛着の成立	教科書1章11を読み、予習・復習をする。
第９回　感情の発達①：感情の発達	教科書2章1を読み、予習・復習をする。
第10回　感情の発達②：自己主張と自己抑制／道徳性と思いやり	教科書2章3・4を読み、予習・復習をする。
第11回　認知機能の発達①：ピアジェの発達論	教科書2章10を読み、予習・復習をする。
第12回　認知機能の発達②：ピアジェの発達段階	教科書1章7を読み、予習・復習をする。
第13回　変わる発達観（ピアジェとヴィゴツキー）	教科書3章1・6を読み、予習・復習をする。
第14回　パーソナリティの発達①：エリクソンの発達論	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第15回　パーソナリティの発達②：エリクソンの発達段階	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第16回　期末試験	

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。
授業内容をしっかりとノートに取ること。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（20%）、及び期末試験（80%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書
〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2，200円〕

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説(2018年)〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説(2018年)〕〔厚生労働省〕
／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018年)〕〔内閣府・文科省・厚労省〕

■ 備考
質問等については、授業終了時に受け付けます。

子ども理解の理論と方法

(30211)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
三　浦　主　博

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の必修科目である。乳幼児期の著しい発達について学び、その発達の原動力となる子どもと子どもを取り巻く環境との相互作用について理解を深める。そのために必要な観察法についても学び、一人一人の子どもの発達に応じた支援の方法について、さらに、発達の遅れや偏りなどの問題への対処法や、保護者との連携・子育て支援の方法についても学ぶ。また子どもの発達と保育の理解を深めるために、「保育所実習」と関連させて、グループ討議や発表も行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・子どもの心身発達と保育実践について理解を深める。	③④
・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程を理解する。	②③④
・保育における発達援助について学ぶ。	③④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：子ども理解の意義	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　乳幼児期の発達①（認知、人間関係、情動）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第３回　乳幼児期の発達②（言葉とコミュニケーション、遊びの発達と仲間関係）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第４回　保育者の援助と役割	教科書3章1～7を読み、予習・復習をする。
第５回　子どもの発達障害、気になる癖	教科書4章1～6を読み、予習・復習をする。
第６回　保育に生かす観察法・発達の診断と発達検査	教科書3章8～10を読み、予習・復習をする。
第７回　保護者理解と家庭との連携	教科書4章7～11、5章を読み、予習・復習をする。
第８回　まとめと期末試験	

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。
積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（40%）、及び期末試験（60%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書
〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2，200円〕
（1年次「発達心理学」で使用した教科書です。）

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説(2018年)〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説(2018年)〕〔厚生労働省〕／
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(2018年)〕〔内閣府・文科省・厚労省〕

■ 備考
質問等については、授業終了時に受け付けます。

教育心理学

(30212)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
人間は独力で何かが可能になるためには，その前に他者からの援助によって可能になっている必要があり，発達は他者からの援助によって促進されることについて解説する。また，学習の転移と記憶を高めるための教授法や有意味学習の効果について，教授者が実際に模擬授業をしながら理解の促進を図る。学ぶとは，教科書や教授者からの情報を受け身的に受け取ることではなく，学習者が自らの過去経験，知識と教授者からの情報を統合，共存させながら主体的，能動的に新しい知識構造を構成することであることを説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・①教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き，子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。	②③④⑤
・②学習の転移と記憶を高めるためにはルールと事例をどのように学ぶのがよいかを理解する。	③④
・③有意味学習を実際に体験し，機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。	③④

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（授業内容と教育目標）	あらかじめシラバスを熟読すること
第２回　ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」	意味を理解し，具体例を考えること
第３回　ルール（法則）学習の長所について	意味を理解し，具体例を考えること
第４回　ルール学習に関する授業記録－小学３年「金属ならば電気を通す」の授業－	子どもたちがどのようにルール（法則）と事例を学んでいるかを考えること
第５回　ルール学習における「験証法」が学習の転移と記憶に及ぼす効果	応用と記憶を高める学習方法について考えること
第６回　機械的暗記学習の問題点と有意味学習	オーズベルの考えを理解すること
第７回　有意味学習の事例－「砂漠は世界のどこにあるか」の模擬授業－	実際にルールによって意味を理解できるように授業に積極的に参加すること
第８回　機械的暗記学習の学習観・知識観を有意味学習の観点から批判する	学習や知識に関する今までの見方・考え方を転換できるように考えること
第９回　定期試験	よくノートや資料を見直した上で全体の要点を論述すること

■ 履修上の注意
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題（20%），定期試験（80%）。レポート課題についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
授業の前にプリントを配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜，紹介する。

■ 備考
質問等についてはミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

子ども家庭支援の心理学

(30213)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
米　川　純　子

■ 授業の概要

子ども家庭支援の心理学では、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえて、生涯発達の観点から乳幼児期だけにとどまらず、生涯の発達課題を学ぶ。さらに、乳幼児期から高齢期に至るまでの心身の発達と、それを支える家庭、児童福祉施設等、地域や社会という環境の在り方について学ぶ。

また、保育・要保護対応などの実務経験を基に、保育現場での実体験などの講話を多く取り入れ、子どもと家庭を包括的に捉える視点の習得を図れるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題について理解する。	③⑤
・家族・家庭の意義や機能を理解する。	②③
・発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	②⑤
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。	②③
・子どもの精神保健とその課題について理解する。	③⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（子ども家庭支援の心理学とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　乳児期の発達とその特徴	愛着形成について深く理解する。
第３回　幼児期の発達とその特徴	ピアジェの発達理論について理解する。
第４回　学童期の発達とその特徴	小1プロブレム・中1ギャップについて考える。
第５回　思春期から青年期の発達の特徴	エリクソンの発達課題について理解する。
第６回　成人期から高齢期の発達の特徴	サクセスフル・エイジングについて考える。
第７回　家族システムと家族発達	生態学的システム理論について理解する。
第８回　親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達	虐待の世代連鎖について考える。
第９回　子育て環境の社会状況的変化	ワーク・ライフ・バランスについて考える。
第10回　多様な子育て家庭への支援	ワンオペ育児が与える影響について理解する。
第11回　特別な配慮を必要とする家庭への支援	外国籍の子どもの事例検討。
第12回　子どもを取り巻く生活環境と心身の健康	レジリエンスについて深く理解する。
第13回　子どもの心と健康	まばたきが多い子の事例検討。
第14回　障害のある子どもの理解と対応	発達障害を抱える子どもの事例検討。
第15回　災害と子ども	自分にかけてあげたい言葉ミニレポート。
第16回　期末テスト	

■ 履修上の注意

出欠の指標として課題の提出があります。提出物の期限は厳守します。
欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。遅刻2回で1回の欠席とします。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（30%）、期末試験(70%）により総合評価します。課題プリントや期末試験の結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

［子どもの家庭支援の心理学］［本郷一夫・神谷哲司　著］［建帛社］［1，800円］

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育・保育相談

(30214)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
米　川　純　子

■ 授業の概要

現代では、子どもや保護者・地域などからの相談に応じることができる資質が求められている。保護者からの相談、子どもの問いかけ、保護者同士の相談に対応できる教育・保育相談の基本的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることができるようにする。

保育園・放課後児童クラブ・要保護児童・子育て支援等、行政での実務経験を基に、具体的な事例を通してグループ討議やロールプレイを多く取り入れ、実際の相談業務について理解できるように配慮する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育現場（幼稚園等）における教育・保育相談の意義と理論を理解する。	①⑤
・教育・保育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。	①⑤
・教育・保育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。	①④⑤
・教育・保育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。	①④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	
第２回　保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）における教育・保育相談の意義と課題	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第３回　教育・保育相談に関わる心理学の理論	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第４回　子ども理解の方法（観察法、面接法、心理テスト等）	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第５回　「カウンセリングと相談」について	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第６回　「ナラティブ」と「オープンダイアローグ」について	保育所保育指針における「環境」を予習。
第７回　保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）での相談体制について	自治体における参考資料を収集。
第８回　「子ども」を取り巻く社会環境Ⅰ（乳幼児について）	参考資料を基に事例対応レポート。
第９回　「子ども」を取り巻く社会環境Ⅱ（児童・少年少女について）	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第10回　「相談」の事例紹介	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第11回　地域の専門機関（児童相談所など）の相談機関の紹介	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第12回　保育現場（幼稚園・認定こども園・保育所等）での相談事例	事例におけるフェイスシート作成。
第13回　子どもからの問いかけ事例	事例におけるアセスメントシート作成。
第14回　「オープンダイアローグ」	身近な自治体の社会資源を調べる。
第15回　課題レポートの確認、まとめ	教科書・配布資料を読み、予習復習を行う。
第16回　期末テスト	

■ 履修上の注意

出欠の指標として課題の提出があります。提出物の期限は厳守します。
欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。遅刻2回で1回の欠席とします。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（40%）、期末試験(60%）により総合評価します。課題プリントや期末試験の結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

授業前に資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもの保健

(30215)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
千　葉　明　子

■ 授業の概要
「子どもの保健」では子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など 保育における保健的対応に必要な 基礎的事項を解説する。
大人のミニチュアではない様々な可能性を持つ子ども、身体的・精神的に未熟な存在 一人ひとりを把握しつつ同時に集団全体とどうかかわればよいか 総合的な理解ができるよう説明する。小児科医としての日々の診療のなかで感じる実践活動に必要十分な知識を身につけられるようお伝えする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・子どもの心身の健康と保健の意義を理解する	①④⑤⑥
・子どもの身体的発育・発達と保健について理解する	①④⑤⑥
・心身の健康状態と把握方法，　疾病と予防，　保護者・関連機関を含む適切な対応	①④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　子どもの保健（総論、理想の保育者）	各自の理想とする保育者像を考える
第２回　子どもの心と体の健康と保健の意義	教科書(p. 1-14) を熟読し問題意識を持つ
第３回　地域における保健活動と子どもの虐待防止	〃(p. 15-23)、授業・小テストの復習
第４回　子どもの発育・発達と保健	〃(p. 24-39)、授業・小テストの復習
第５回　生理機能・感覚器・精神機能の発達	〃(p. 39-55)、授業・小テストの復習
第６回　発育・発達の把握と健康診断，　保護者との情報共有	〃(p. 56-75)、授業・小テストの復習
第７回　子どもの健康状態の観察と体調のよくない子どもへの対応	〃(p. 76-90)、授業・小テストの復習
第８回　子どものかかりやすい感染症	〃(p. 91-111)、授業・小テストの復習
第９回　感染症の予防と対応，　予防接種	〃(p. 111-121)、授業・小テストの復習
第10回　学校感染症，　アレルギー総論	〃(p. 121-128)、授業・小テストの復習
第11回　アレルギー疾患と適切な対応	〃(p. 129-145)、授業・小テストの復習
第12回　その他の病気	〃(p. 146-153)、授業・小テストの復習
第13回　先天異常	〃(p. 153-157)、授業・小テストの復習
第14回　保育における保健	〃(p. 158-164)、授業・小テストの復習
第15回　まとめ、ワークシート	〃(p. 171-182)、授業・小テストの復習
第16回　期末試験	持ち込み不可

■ 履修上の注意
体調管理に留意し講義に出席、やむを得ない場合早期に遅刻･欠課届を提出すること。受講態度重視します。

■ 成績評価方法・基準
平常点60%　（平常点は出席率、欠課・遅刻届の提出、授業への参加、毎回行う小テストの成績　（カンニング不可)、等で総合的に判断）　学期末試験40%

■ 教科書
〔これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健〕〔創成社〕〔2，200円〕

■ 参考書
使用しない（授業でプリントを配布）

■ 備考
小テストは採点し翌週返却、解答は当日配布するプリントに記載、 誤答が多かった問題は解説する。
必要な知識の定着に向け繰り返し学習すること。質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅰ

(30216)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
菊　地　香保里

■ 授業の概要
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期は味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、「保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・栄養バランスのとれた食事摂取方法が身につく。	①③⑤
・生涯発達をふまえ、胎児期、乳児期の子どもの食を理解できる。	①③⑤
・調乳ができる。	①③⑤
・発達に応じた離乳食を提供できる。	①③⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：子どもの食生活と栄養	教科書を読み、理解しておく。（序章、第1、２章）
第２回　栄養に関する基本的知識①栄養の基本概念	教科書を読み、理解しておく。（第３章）
第３回　栄養に関する基本的知識②栄養素の種類と機能	教科書読み、理解しておく。（第３章）
第４回　栄養に関する基本的知識③食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書を読み、理解しておく。（第３章）
第５回　学齢期・思春期の食生活、生涯発達（妊娠（胎児）期、産婦（授乳）期）と食生活	教科書を読み、理解しておく。（第６、７章）
第６回　実習①乳児期の食生活　／調乳実習	教科書を読み、理解しておく。（第４章、第２部実践編乳汁栄養）
第７回　離乳の意義とその実践	教科書を読み、理解しておく。（第４章第２部実践編乳児期）
第８回　実習②　離乳食　主食	レポート次回提出
第９回　実習③　離乳食　副食	レポート次回提出
第10回　期末試験、まとめ	

■ 履修上の注意
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は２回で欠席１回とする。

■ 成績評価方法・基準
平常点30%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート20%、試験50%の総合評価課題について授業中にフィードバックする。

■ 教科書
〔子どもの食生活―栄養・食育・保育―　第４版〕〔上田玲子編者〕〔ななみ書房〕〔2400円（税別）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
調理実習では基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗いなど衛生面をしっかり認識して取り組むこと。）
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅱ

(30217)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
菊　地　香保里

■ 授業の概要
子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期は味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験を生かし、「保育者は、生涯を通じた健康の維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきなのか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・食育の意義を理解できる。	①③⑤
・家庭、保育所、児童福祉施設の食事と栄養を理解できる。	①③⑤
・幼児期の栄養バランスのとれた食事、間食を作ることができる。	①③⑤
・幼児期の行事食を作ることができる。	①③⑤
・特別な配慮を要する子どもの食事と栄養を理解できる。	①③⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：食育―食を通して、子育ちと子育てを支援する	教科書を読み、理解しておく。（第10章、第２部実践編保育場面）
第２回　幼児期の心身の発達と食生活、家庭や施設における食生活	教科書を読み、理解しておく。（第5、９章、第２部実践編幼児期）
第３回　幼児食　バランスの良い食事の実際　3・1・2弁当箱法	レポート次回提出
第４回　実習④　幼児期の日常食　主食	レポート次回提出
第５回　実習⑤　幼児期の日常食　副食	レポート次回提出
第６回　実習⑥　幼児期の和のおやつ	レポート次回提出
第７回　実習⑦　幼児期の洋のおやつ	レポート次回提出
第８回　実習⑧　幼児期の行事食	レポート次回提出
第９回　実習⑨　幼児期の行事食　副食	レポート次回提出
第10回　特別な配慮を要する子どもの食と栄養、まとめ	教科書を読み、理解しておく。（第８章）

■ 履修上の注意
私語は慎む。質問は積極的に行う。遅刻は２回で欠席１回とする。

■ 成績評価方法・基準
平常点　50%（授業態度、課題などの取り組み、出席など）、レポート50%の総合評価
課題について授業中にフィードバックする。

■ 教科書
〔子どもの食生活―栄養・食育・保育―　第４版〕〔上田玲子編者〕〔ななみ書房〕〔2400円（税別）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
調理実習では基本的事項（服装、頭髪、爪、手洗いなど衛生面をしっかり認識して取り組むこと。）
質問等については、授業終了時、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

教育課程論

(30218)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義では、教育課程に関する基礎的知識を教授し、幼児教育・保育における指導計画の意義と必要性を解説する。また、幼稚園教育要領の変遷、改訂ポイントを取り上げ、社会との関連を議論する。さらに教育課程の編成方法や、評価を反映させるカリキュラム・マネジメントの視点を教育課程経営の視点から解説する。また小学校との連携方法など、現代の教育課程の抱える課題と展望を踏まえつつ、グループ学習や発表等などの時間を設け学生同士で議論し合う中で、より望ましい教育課程とはどのようなものかを考えていきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教育課程に関する基礎的な知識や考え方を習得する。	②③
・幼稚園教育要領の変遷と内容を理解する。	①③⑤
・教育課程の編成方法と評価の意義を理解する。	③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	シラバスを確認し、学習内容を見通す。
第２回　教育課程・全体的な計画の役割と構成要素	配布資料を読んでくる／復習
第３回　カリキュラム理論と種類	配布資料を読んでくる／復習
第４回　教育課程・全体的な計画を編成するには	配布資料を読んでくる／復習
第５回　幼稚園における長期の指導計画作成の実際	配布資料を読んでくる／復習
第６回　保育所における長期指導計画作成の実際	配布資料を読んでくる／復習
第７回　行事活動・プロジェクト活動の指導方法・援助	配布資料を読んでくる／復習
第８回　領域横断的に取り組む道徳性の育成	配布資料を読んでくる／復習
第９回　カリキュラム・マネジメントの意義と実際	配布資料を読んでくる／復習
第10回　レポートの作成	レポートに書くテーマを考えてくる／レポート内容を振り返る。

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかり行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート50%
・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・レポートについては、課題におけるポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔保育白書2020年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなかま社〕〔2，700円〕
〔子ども白書2020〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔350円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省編〕〔フレーベル館〕〔320円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の計画と評価

(30219)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要
子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉えると共に、長期及び短期の指導計画を作成する意義を理解することができるよう概説する。また、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、子どもの姿、年齢ごとのねらいと内容の書き方を説明し、様々な場面(登園、好きな遊び、給食、排泄等)に応じた保育者の援助・配慮の書き方を学べるようにする。さらに、実際に指導計画(部分案、日案)を作成し、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育の計画及び評価について理解する。	③④⑤
・指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。	③⑤⑥
・子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。	③④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション・保育用語の漢字テスト	保育用語を習得する(漢字・内容の理解)
第２回　指導計画（教育課程・全体的な計画）の理解	保育用語を習得する(漢字・内容の理解)
第３回　長期・短期の指導計画の実際とその意義	保育用語を習得する(漢字・内容の理解)
第４回　デイリープログラムについて	デイリープログラムを書き写す(課題)
第５回　指導計画の実際①：子どもの姿・ねらい・内容の書き方	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第６回　指導計画の実際②：環境の構成の書き方	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第７回　指導計画の実際③：予想される子どもの姿を考える	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第８回　指導計画の実際④：保育者の援助・配慮について	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第９回　指導計画の実際⑤：幼児(3・4・5歳児)の姿(登園・遊び)	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第10回　指導計画の実際⑥：幼児(3・4・5歳児)の姿(集まり・給食)	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第11回　指導計画の実際⑦：乳児(0・1・2歳児)の姿(登園・遊び)	指導案(部分)を作成する(課題)
第12回　指導計画の実際⑧：乳児(0・1・2歳児)の姿(授乳・食事)	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第13回　指導計画の実際⑨：指導案(課題)の解説 幼児(3・4・5歳児)の姿の振り返り	指導案についての解説を基に正しい 書き方を復習する
第14回　指導計画の実際⑩：乳児(0・1・2歳児)の姿(排泄・睡眠)	指導案(部分)を作成する(課題)
第15回　指導計画の実際⑪：降園 ／保育の実践と評価	指導案(全日)を作成する(課題)
第16回　期末試験	

■ 履修上の注意
保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業の出席及び提出課題を重視する。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組み(30%)　提出課題(30%)　期末試験(40%)　により総合的に評価する。
欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。
課題提出については、添削後返却し、授業の中で解説をする。

■ 教科書
〔教育・保育課程論〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔1，900円〕

■ 参考書
無し

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容総論

(30220)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要

保育の全体構造と保育内容（5領域）について理解すると共に、子どもの主体性を尊重する保育、環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして概説する。また、0歳児から5歳児までの各発達段階における子どもの姿や特徴（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣等）をまとめ、それぞれの実態に即した具体的な保育の展開について、実際の遊びを通して理解を深められるようにしていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育（幼稚園・保育所・認定こども園）の全体的な構造を理解する。	③⑤
・保育内容の基本的な考え方（5領域）について理解する。	③⑤
・子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開について理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。
第２回　保育内容とは何か①：幼稚園教育要領と保育内容 5領域について	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第３回　保育内容とは何か②：保育所保育指針と保育内容	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第４回　保育内容とは何か③：認定こども園教育・保育要領と保育内容	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第５回　現代社会における保育の課題（少子化、子育て支援、小学校との連携）	現代社会における様々な保育の課題についてノートを見直し、理解する。
第６回　保育内容の歴史的変遷	教科書13章の範囲を予習・復習する
第７回　０歳児の生活と保育内容	教科書6章の範囲を予習・復習する
第８回　１歳児の生活と保育内容	教科書7章の範囲を予習・復習する
第９回　２歳児の生活と保育内容	教科書8章の範囲を予習・復習する
第10回　３歳児の生活と保育内容	教科書9章の範囲を予習・復習する
第11回　４歳児の生活と保育内容	教科書10章の範囲を予習・復習する
第12回　５歳児の生活と保育内容	教科書11章の範囲を予習・復習する
第13回　遊びを通して5領域を考える①：計画	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第14回　遊びを通して5領域を考える②：実践	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第15回　遊びを通して5領域を考える②：発表・まとめ	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第16回　期末試験	

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み（40%）提出課題（20%）期末試験（40%）により総合的に評価する。
提出課題は添削し、後日返却する。
欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。

■ 教科書

〔子どもと共に学び合う演習・保育内容総論〕〔井上孝之・奥山優佳・山﨑敦子〕〔みらい〕〔2，000円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（健康）

(30221)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

現在、子どもの心身に関する問題が多く存在し、保育園・幼稚園での役割は大変重要なものになっている。

本講義では、まず、学生に自らの「健康」への関心をもってもらい、同時に子どもの健康の保持増進の知識を学んでいく。また、保育者として必要な、子どもの身体機能の発育や、安全指導についての基礎的知識を習得するとともに、安全教育の3つの領域（生活安全・交通安全・避難訓練）を考えていく。また、運動遊びに関する保育者の支援の仕方についても学んでいく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・幼児の発育・発達を理解する。	②③④⑤⑥
・幼児に対する具体的な対応力を身に付ける。	②③④⑤⑥
・自然の良さを体感し、その中で遊ぶことのできる実践力を身に付ける。	②③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：保育内容「健康」とは	今後の学習内容について確認する。
第２回　保育内容「健康」の意義	テキストの「健康」のページを読んでおく。
第３回　保育内容「健康」のねらいと内容	テキストの「健康」のページを読んでおく。
第４回　子どもの発育と発達	配布プリントを確認する。
第５回　健康な生活習慣の形成①（食事・睡眠）	配布プリントを確認する。
第６回　健康な生活習慣の形成②（排泄・清潔・身の回りの始末）	配布プリントを確認する。
第７回　自然を生かす遊びと保育者の支援	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第８回　園外保育散歩マップ作り①（学外での下見）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第９回　園外保育散歩マップ作り②（マップの作成）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第10回　領域「健康」に関する教材研究及び情報機器の操作と活用	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第11回　子どもの安全指導①（危険な遊び方）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第12回　子どもの安全指導②（交通安全・災害時）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第13回　室内遊びと保育者の援助①（指導案作成）	遊びの種類について情報収集する（タブレット使用）。
第14回　室内遊びと保育者の援助②（発表）	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第15回　室内遊びと保育者の援助③（実践）	学習内容を振り返り、今後の課題を見つける。

■ 履修上の注意

初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する。
提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕(240円+税)

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕(320円+税)
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕(350円+税)

■ 備考

質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

保育内容（健康Ⅱ）

(30222)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

本講義では、健康Ⅰの内容をふまえ、子どもを取りまく状況の様々な変化の中で、健康な子どもを育てるために、生活への理解を深め、その中で求められる保育者の役割について、指導計画や指導上の問題点を考え、解説する。また、家庭と地域との連携についてもふれながら、社会全体で子どもを育てることについても考えていくとともに、子どもが健康で充実した毎日を過ごすために、自ら危険を意識し、安全に気を付けて行動することができるよう、保育者として何をするべきかをともに考えていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育における子どもの健康に関する諸課題を理解する。	②③④⑤⑥
・子どもに対する保育者としての支援の仕方を理解する。	②③④⑤⑥
・健康的な子どもを育てるために必要な知識を習得する。	②③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	今後の学習内容について確認する。
第２回　子どもの健康と環境構成（遊具の配慮）	配布プリントを確認する。
第３回　遊びの中で育む生活習慣	配布プリントを確認する。
第４回　自然を生かす遊びと保育者の支援	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第５回　アスレティック遊具の構成を考える。	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第６回　安全配慮と指導・援助	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第７回　園での事故と安全への配慮・家庭との連携	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第８回　子どもの疾病と保育者の援助	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第９回　日常の健康観察のあり方、疾病予防	学習内容を確認し、予習・復習を行う。
第10回　まとめ	学習内容を振り返り、今後の課題を見つける。

■ 履修上の注意

初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（70%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価する（課題は、授業内でタブレットで調べ、発表する場合もある）。　提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕（320円+税）
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕（240円+税）
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕（350円+税）

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは、オフィスアワーで受け付ける。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

保育内容（人間関係）

(30223)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて、具体的な子どもの姿から、年齢ごとの発達の特徴を理解し、周囲の人たちとの関係を深めながら人間関係が広がっていくことを理解できるようにする。また、子どもの心身の発達と人とのかかわりの発達について具体的事例を見つめながら学習を深め、様々な場面を想定して保育を展開できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できる	①③⑥
・幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解できる	①④
・乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達的視点から理解できる	①②④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　１．　オリエンテーション・5領域のなかの「人間関係」の位置づけについて	前期学修の見通しを立てる
第２回　２．領域「人間関係」とは？：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」から	それぞれの解説書にあらかじめ目を通しておく
第３回　誕生から6歳までの人とのかかわり発達（1）：0歳児の人とのかかわり	0歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第４回　４．誕生から6歳までの人とのかかわり発達（2）：1～2歳児の人とのかかわり	0歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第５回　５．誕生から6歳までの人とのかかわり発達（3）：3～6歳児の人とのかかわり	0歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第６回　６．遊びの中で育つ人とのかかわり：保育における遊びの大切さ・遊びと仲間関係・トラブルの場面から	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第７回　７．友だちとの関わり（１）：仲間関係の芽生え	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第８回　８．友だちとの関わり（２）：子ども集団の育ち	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第９回　９　気になる子どもとのかかわり	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第10回　10．小学校・地域とのかかわり	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第11回　11．保護者とのかかわり	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第12回　12．領域「人間関係」に関する教材研究と情報機器の活用	事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。
第13回　13．領域「人間関係」に関する模擬保育①	事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。
第14回　14．領域「人間関係」に関する模擬保育①	事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。
第15回　15．まとめ	ノートやプリントを整理して振り返る

■ 履修上の注意
保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組み（６０％）、レポートや提出物（４０％）により総合的に評価する。提出課題については、添削して返却する。

■ 教科書
［人間関係ワークブック］［田村美由紀・室井佑美　著］［萌文書林］［1，800円］

■ 参考書
「保育所保育指針解説書」厚生労働省　320円／「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文科省・厚労省　350円

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育内容（人間関係Ⅱ）

(30224)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
保育内容（人間関係Ⅱ）は、保育の内容・方法に関する科目である。近年、子どものコミュニケーションや自制心・規範意識の不足が指摘されている。これについて、家庭と地域での関係性の希薄化が大きな原因の１つだとされている。このような状況の下で幼稚園や保育所のような集団生活を過ごす場所の役割は大きなものとなっている。保育者や友達との関わりを通して、様々な感情体験を重ねながら、子どもの人と関わる力を培っていくこととが期待されている。そこで、子どもの人間関係を豊かで広がりのあるものにするための適切な環境づくりや専門性を備えた保育者の援助について、主にケーススタディをする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・領域「人間関係」の基礎的知識・技術を身に付けられる	①④⑤
・子どもの人間関係を豊かに広げる実践について理解できる	①③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第２回　保育内容「人間関係」とは：「幼稚園教育要領」から	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第３回　幼稚園や保育所、こども園で保育者に求められるもの	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第４回　子どもの発達と人間関係	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第５回　子どもの発達と人間関係：保護者と共に育てる	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第６回　子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援①	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第７回　子どもの発達と人間関係：親が繋がる子育て支援②	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第８回　0～2歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第９回　3～5歳児とのかかわり・集団をつくる教材とその取り上げ方	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第10回　まとめと試験	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める

■ 履修上の注意
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

■ 成績評価方法・基準
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書
［保育内容「人間関係」］[菊地篤子　著][みらい]　2100円

■ 参考書
授業の中で指示する

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育内容（環境）

(30225)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要
領域「環境」について、乳幼児の環境とのかかわりの実際について概説し、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助の在り方について概説する。また、五感を使って体感することを重視し、秋の自然物を使って製作したり、バッタやコオロギ等の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設ける。さらに、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、具体的な環境構成の仕方について説明し、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・領域「環境」のねらいと内容を理解する。	③⑤
・乳幼児の環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。	③⑤⑥
・環境構成や保育実践の展開の仕方を理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：保育内容「環境」とは	指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく
第２回　保育の基本と保育内容「環境」	指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく
第３回　領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1)（秋の虫飼育・観察①）情報機器の活用	秋の虫について調べたことをまとめる
第４回　領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2)（秋の虫飼育・観察②）情報機器の活用	情報機器を活用し、レポートを作成する
第５回　領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり（お散歩バッグ製作）	配布資料を読み予習・復習をする
第６回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1)（散歩）	配布資料を読み予習・復習をする
第７回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2)（自然物を使った製作）　情報機器の活用	配布資料を読み予習・復習をする
第８回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3)（製作発表）	自然物を使った作品を準備する
第９回　環境構成について(1)：魅力的な環境構成とは	環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する
第10回　環境構成について(2)：保育室内の環境構成	環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する
第11回　環境構成について(3)：指導計画の環境構成・準備物の書き方・人的環境について	指導案に環境構成を記入し、提出する
第12回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4)（クリスマスカード作り）	クリスマスカードを各自仕上げる
第13回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5)（すごろく①）	冬の遊びについて調べたことをまとめる
第14回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(6)（すごろく②）	すごろくを各自仕上げる
第15回　領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(7)（豆まき）	環境構成のポイントを整理する

■ 履修上の注意
教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（50%）レポートや提出物（50%）により総合的に評価する。
提出課題については、添削して返却する。
欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。

■ 教科書
プリントを授業前に配布する。

■ 参考書
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考
天候等により、授業計画の順番を変更することがあります。
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（環境Ⅱ）

(30226)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美　　岡　崎　善　治

■ 授業の概要
子どもを取り巻く望ましい環境を踏まえ、発達の基礎を養うために必要な環境作りについて理論的に学び、領域「環境」のねらいと内容を様々な体験を通して理解できるようにする。幼稚園教諭としての経験を生かし春と夏の草花調べ、泥だんごづくり、花と夏野菜の栽培等、季節感を意識した活動を取り入れ、その時期ならではの自然に触れる。また、春と夏の壁面製作をすることで保育室内を季節感をもった環境を作り、それを「体感する」ことによって、保育者に必要な豊かな感性を育む。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・領域「環境」のねらいと内容について体験を通して理解する。	③⑤
・保育実践における保育内容「環境」の指導のあり方を理解する。	③④
・自然に触れ、五感を使うことで豊かな感性を養う。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 身近な自然物を取り入れた保育①：春の花調べ［岡崎］	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第２回　身近な自然物を取り入れた保育②：春の雑草調べ［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第３回　身近な自然物を取り入れた保育③：夏の花調べ［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第４回　身近な自然物を取り入れた保育④：夏の雑草調べ［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第５回　身近な自然物を取り入れた保育⑤：夏野菜と花の栽培・観察①［岡崎・高橋］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第６回　身近な自然物を取り入れた保育⑥：夏野菜と花の栽培・観察②［岡崎・高橋］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第７回　春の壁面製作①：製作活動［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第８回　夏の壁面製作②：製作活動［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第９回　身近な自然物を取り入れた保育⑦：泥だんごづくり①［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回　身近な自然物を取り入れた保育⑧：泥だんごづくり②［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回　身近な自然物を取り入れた保育⑨：夏野菜と花の栽培・観察③[岡崎・高橋]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第12回　授業のまとめ・後始末［岡崎］	学んだことを振り返る。提出物（課題）を仕上げる。

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（50%）、提出課題（50%）により総合的に評価します。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※1/3以上欠席すると単位認定は致しません。
※遅刻・早退はそれぞれ２回につき、１回の欠席とします。
提出課題等については、随時フィードバックします。

■ 教科書
教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料を配布します。

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔264円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔352円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔385円〕

■ 備考
天候により、授業計画の順番を変更することがあります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（言葉）

(30227)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程及び、保育士養成課程の必修科目である。幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また、担当者の小学校教諭の経験を活かして、グループワークや発表を通して授業を行っていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。	③④⑤⑥
・保育内容「言葉」の領域に関する理論（言葉の意義、発達など）を理解する	③④
・領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法（絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方）を身につける	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション・言葉の意義	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　幼稚園教育要領・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」	教育要領を読み、授業内容の予習復習を行う。
第３回　保育所保育指針・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」	保育指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第４回　乳幼児の言葉の発達①（3歳未満児）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第５回　乳幼児の言葉の発達②（3歳以上児）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第６回　乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第７回　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続	要領・指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第８回　言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第９回　言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用	模擬保育の準備をし、振り返りを行う。
第10回　児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（紙芝居①）	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第11回　児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居②）	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第12回　児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（絵本①）	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第13回　児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本②）	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第14回　保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮（言葉の障がいや異文化理解）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第15回　まとめ	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第16回　期末試験	

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。
演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（20%）、期末試験（50%）、及び提出課題（30%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布

■ 参考書
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2，200円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（言葉Ⅱ）

(30228)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
佐　藤　深　雪

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程（領域及び保育内容の指導法に関する科目）及び保育士養成課程（「保育の内容・方法に関する科目）」の必修科目である。「保育内容（言葉）」で学習した内容をもとに、教育・保育実習と関連させながら、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。子どもの言葉と学びの関係について、担当者の小学校教諭の経験を活かして、絵本や紙芝居などの教材研究を中心にグループワークや発表を通して授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教育要領・保育指針等に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」に関する保育教材の扱い方などを理解する。	③④⑥
・保育内容「言葉」の領域に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。	③④⑤⑥
・領域「言葉」に関して子供が経験し獲得する内容と小学校の教科とのつながりを理解する。	③④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション・領域「言葉」の確認	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　言葉の指導と教材研究：「春の課題」発表	「春の課題」を作成する。
第３回　言葉の指導と教材研究：事例に学ぶ養育者の関わりと言葉	事前配布プリントを読む
第４回　言葉の指導と教材研究：事例に学ぶ養育者の関わりと言葉の発達	事前配布プリントを読む
第５回　言葉の指導と教材研究：「絵本」の読み聞かせ活動案	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第６回　言葉の指導と教材研究：「実習中の課題」発表	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第７回　言葉の指導と教材研究：教材作成「ひらがな遊び」	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第８回　言葉の指導と教材研究：保育者の言葉「言葉がけ」	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第９回　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校の接続	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第10回　言葉の指導と教材研究：「夏の課題」発表	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第11回　まとめ	

■ 履修上の注意
　授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。
演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（50%）、及び提出課題（50%）により総合的に評価します。なお、欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。提出課題等については、授業中にフィードバックします。

■ 教科書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕／〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕／授業前にプリント配布

■ 参考書
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕
〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2，200円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（表現Ⅰ）

(30229)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
横　山　美喜子

■ 授業の概要

各要領及び指針の解説を読み、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。特に造形表現において、幼児が表現した作品や具体的な表現の様子の映像などから、発達の過程における特徴的な表現の形やその理論を理解する。領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、製作したパネルシアターを使った模擬授業に取り組み、保育者としての実践力を身に付ける。

この授業においては、小学校教諭としての経験を活かし、幼児教育と小学校教育との接続をより密接なものにするためのアプローチについても指導していく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各要領及び指針に示された幼児教育の基本をふまえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。	③
・領域「表現」に関する理論を理解する。	④
・領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	⑤
・領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を実践する力を身に付ける。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　シラバスに基づき、授業の概要やその流れ、留意点などについてのオリエンテーションを行う。表現とは何かについて考える。	これまでの表現活動について振り返る。ミニットペーパーを見直す。
第２回　各要領及び指針における領域「表現」のねらい及び内容を理解する。	領域「表現」に関する理論を他領域と関連付けて確認する。ミニットペーパーを見直す。
第３回　乳幼児期の発達と表現①（３歳未満児）	３歳未満児の造形表現における発達の過程を知る。ミニットペーパーを見直す。
第４回　乳幼児期の発達と表現①（３歳以上児）	３歳以上児の造形表現における発達の過程を知る。ミニットペーパーを見直す。
第５回　幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿のうちの「豊かな感性と表現」と小学校教育とのつながり	小学校教育と幼児教育の接続の重要性について確認する。ミニットペーパーを見直す。
第６回　表現に至るプロセス・幼児のイメージを豊かにする環境構成や言葉がけについて	表現を意欲付けるための手立てを確認する。ミニットペーパーを見直す。
第７回　意欲的な表現活動・幼児の表現の豊かさや深まりを促す環境構成や言葉がけについて	表現を深めるための手立てを確認する。ミニットペーパーを見直す。
第８回　表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用①	表現に関する教材及び学習効果を高める方法としての情報機器の活用について知る。ミニットペーパーを見直す。
第９回　表現に関する教材研究と指導計画及び情報機器の活用②	表現に関する教材及び学習効果を高める方法としての情報機器の活用について知る。ミニットペーパーを見直す。
第10回　表現に関する教材研究と模擬保育①（パネルシアター製作）	パネルシアターを使う場面を想定し内容を確認する。製作カードを見直す。
第11回　表現に関する教材研究と模擬保育②（パネルシアター製作）	表現方法を振り返る。製作カードを見直す。
第12回　表現に関する教材研究と模擬保育③（パネルシアター製作）	パネルシアターの製作に習熟する。製作カードを見直す。
第13回　表現に関する教材研究と模擬保育④（パネルシアター製作）	パネルシアターの製作に習熟する。製作カードを見直す。
第14回　表現に関する教材研究と模擬保育④（パネルシアター発表）	模擬保育としての発表会を行う。製作カードを見直す。
第15回　共同的かつ創造的な表現を育むための様々な取組。まとめ	学習内容を振り返る。レポートを振り返る。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許２級取得のための必修科目である。授業への取組を重視する。

■ 成績評価方法・基準

受講状況を含む平常点６０％、模擬保育・作品としてのパネルシアター及びレポート４０％、ルーブリック評価については１回目の授業で説明する。提出課題などについては、添削後授業中にフィードバックする。

■ 教科書
授業前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書
保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

■ 備考
都合により授業計画を変更する場合があります。質問などについては、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（表現Ⅱ）

(30230)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
佐　藤　和　貴

■ 授業の概要
保育者として必要な基本的な音楽理論を理解し，ピアノ演奏や子どものうたの読譜に必要な知識と技術を身に付けるようにする。特に，音高読譜の仕方について学び，ピアノの授業との連携を計り実践的に読譜力を高める。また，広く幼稚園や保育所で行われている，春，夏の季節のうたや生活のうた等「子どものうた」を取り上げ歌唱方法と指導のあり方を身に付け，更に「弾き歌い」の歌唱法の基礎が身に付くようにする。高等学校教諭としての経験を生かし，総合的な音楽表現の能力を高めていく授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・音高読譜や基本的な音楽理論を理解する。	③⑤
・春，夏などの季節や日常の歌を正しく歌おうとする。	③④⑤⑥
・自分に合った弾き歌いを身に付けようとする。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、保育現場での音楽表現活動について	学習の見通しを立てる。
第２回　読譜に必要な基礎知識１「五線譜」／歌唱法・歌唱指導１（４月の歌）	授業で指示された4月の歌の曲目を予習する。
第３回　読譜に必要な基礎知識２「音名」／歌唱法・歌唱指導２（５月の歌）	授業で指示された5月の歌の曲目を予習する。
第４回　読譜に必要な基礎知識３「音符と休符」／歌唱法・歌唱指導３（６月の歌）	授業で指示された6月の歌の曲目を予習する。
第５回　「拍子とリズム」／歌唱法・歌唱指導４（７月の歌）	授業で指示された7月の歌の曲目を予習する。
第６回　「音階と調①」／歌唱法・歌唱指導５（８月の歌）	授業で指示された8月の歌の曲目を予習する。
第７回　「音階と調②」／歌唱法・歌唱指導６（９月の歌）	授業で指示された9月の歌の曲目を予習する。
第８回　「音階と調③」／歌唱法・歌唱指導７（１０月の歌）	授業で指示された10月の歌の曲目を予習する。
第９回　「和音①」／歌唱法・歌唱指導８（１１月の歌）	授業で指示された11月の歌の曲目を予習する。
第10回　「和音②」／歌唱法・歌唱指導９（１２月の歌）	授業で指示された12月の歌の曲目を予習する。
第11回　「和音③」／歌唱法・歌唱指導１０（１月の歌）	授業で指示された1月の歌の曲目を予習する。
第12回　「奏法に関する記号①」／歌唱法・歌唱指導１１（２月の歌）	授業で指示された2月の歌の曲目を予習する。
第13回　「奏法に関する記号②」／歌唱法・歌唱指導１２（３月の歌）	授業で指示された3月の歌の曲目を予習する。
第14回　「奏法に関する記号③」／歌唱法・歌唱指導１３（生活の歌）	授業で指示された生活の歌の曲目を予習する。
第15回　読譜に必要な基礎知識まとめ	授業で指示された生活の歌の曲目を予習する。

■ 履修上の注意
授業に積極的に臨むこと。教科書等資料から学んだことを実技で生かすようにすること。

■ 成績評価方法・基準
受講態度・授業への参加状況(20%)，提出物(20%)，まとめのテスト(60%)

■ 教科書
〔書名〕『表現者を育てるための　保育内容　音楽表現-遊びから音楽表現へ-』〔著者名〕石井玲子編著〔出版社名〕教育情報出版〔価格〕2，497円
〔書名〕『いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100（保育実用書シリーズ）』〔著者名〕小林恵美監修、井戸和秀編集〔出版社名〕チャイルド本社〔価格〕1，720円

■ 参考書
〔書名〕『音楽事始』〔著者名〕阿部陽子・大坪　豊（授業内で無料配布）

■ 備考
質問等については，授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

保育内容（表現Ⅱ）

(30231)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
横　山　美喜子　　佐　藤　和　貴

■ 授業の概要
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「表現」のねらい及びその内容への理解を深めるとともに、遊びの中から様々な表現につながっていく幼児の表現の特徴を理解する。１編の詩を選び、イメージを基に造形表現・音楽表現・言語表現・身体表現を行う。さらに互いの表現を理解し合い、１つの表現として融合させ、最終的に劇として発表する。小学校教諭および高等学校教諭としての経験を生かして、幼児の表現について考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各要領及び指針に則り、幼児の表現の特徴を理解する。	③
・1つのイメージを基に様々な形での表現を行い、幼児の表現を実感する。	④
・互いの表現を理解し合い、１つに融合していくことで共同的な表現のあり方を体験的に理解する。	⑤
・総合的な表現である劇を発表し、保育者としての実践力を高める。	⑥

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	未分化な幼児の表現の特徴について理解する。［横山］	実習等の経験を振り返る。ミニットペーパーを見直す。
第２回	詩を選び、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現の形を考える。［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する。
第３回	それぞれの表現を融合し、劇という総合的な形で表現するための手立てを考える。［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する。
第４回	造形表現活動1（舞台装置、衣装などの製作）［横山］	ベースとなる衣装を準備する。製作カードを見直す。
第５回	造形表現活動２（舞台装置、衣装などの製作）［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第６回	造形表現活動３（舞台装置、衣装などの製作）［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第７回	音楽表現活動１（BGM，効果音などの製作）［佐藤］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第８回	音楽表現活動２（BGM，効果音などの製作）［佐藤］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第９回	身体・言語表現活動１（ダンス、せりふなどの創作）［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第10回	身体・言語表現活動２（演出を考え通し練習）［横山］	製作カードを見直し、学習内容を確認する
第11回	11.総合的な表現活動（劇として発表）［佐藤］［横山］	学習内容を確認し、実践に活かす。

■ 履修上の注意
保育士資格及び幼稚園教諭免許２級取得のための必修科目である。劇としての発表イメージをもって各授業に主体的に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
受講態度・授業への参加状況（50%）劇及び劇としての表現に至る各自の表現内容（50%）ルーブリック評価については１回目の授業で説明する。提出課題等については、添削後授業中にフィードバックする。

■ 教科書
事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書
保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

■ 備考
都合により授業計画を変更する場合があります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育・保育方法論

(30232)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
岡　崎　善　治　　松　尾　　広

■ 授業の概要
前半は幼児教育・保育の方法に関する基礎的な理論や概念、視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶ。その方法として幼児教育・保育を行う上での基礎的な技術を具体的事例から解説し、毎回の授業内容における課題やグループディスカッション・発表を通して、教育・保育方法に対して知見を広げられるようにする。後半は教育をコミュニケーションによる学習活動としてとらえ、視聴覚的なコミュニケーションの意義、視聴覚教材・機器の特徴について解説し、視聴覚教材の制作を通して理解を深めるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・教育・保育方法の基礎的な理論と実践を理解する。	①③
・教育・保育方法のための指導技術を理解し、身に付ける。	③⑥
・視聴覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。	③④

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育・保育方法とは何か［岡崎］	シラバスを通読し、今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第２回　幼児教育・保育方法の歴史（１）明治期・大正期・昭和期［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第３回　幼児教育・保育方法の歴史（２）昭和期・平成期［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第４回　幼児教育・保育の方法(３)原理と基本理念［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第５回　幼児教育・保育の方法(４)子ども主体の保育実践［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第６回　個と集団への援助の仕方と幼児理解に基づく評価［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第７回　第１回～第６回までの振り返りとまとめ［岡崎］	これまでの課題を振り返り、テスト勉強をする。
第８回　評価テスト（第１回～第６回）の見直し 幼児教育・保育の技術(１)基本・ことばかけ［岡崎］	テスト問題の復習をする。 本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第９回　幼児教育・保育の技術(２)個別対応［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回　幼児教育・保育の技術(３)一斉対応［岡崎］	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回　幼児教育・保育の技術（４）グループディスカッション［岡崎］	各々の問題意識を持ち寄ってくる。 グループ発表に向けての準備をする。
第12回　幼児教育・保育の技術（５）グループディスカッション・発表準備・練習［岡崎］	グループ発表に向けての準備や練習をする。
第13回　幼児教育・保育の技術（６）グループ発表［岡崎］	グループ毎に発表に向けての準備と事前練習をする。 発表の振り返りをする。
第14回　ICT機器の活用［松尾］	事例に触れ、資料を読んで確認する
第15回　視聴覚教材の制作［松尾］	課題を制作し、提出する

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（20%）、提出課題（30%）、評価テスト（30%）、発表（20%）により総合的に評価します。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※1/3以上欠席すると単位認定は致しません。
※遅刻・早退はそれぞれ２回につき、１回の欠席とします。
提出課題等については、随時フィードバックします。

■ 教科書
教科書は使用しない。各授業で適宜、授業資料・課題を配布します。

■ 参考書
必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容の指導法

(30233)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要
幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する力を身につけられるようにする。また、幼稚園教諭、保育士としての経験に基づいた様々な生活や遊びの場面（エピソード）から、可能な保育方法をグループで話し合い、共有することで、保育を展開していくための知識と技術の引き出しを増やせるようにしていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・幼児期の発達を踏まえ、幼稚園教育の方法的特質を理解する。	②③⑤
・様々な保育場面（エピソード）から、保育方法を考え、理解する。	③④⑥
・幼稚園教育の指導計画の作成の仕方を理解する。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　幼稚園教育の基本・保育内容の指導法について	幼稚園教育要領の内容を復習しておく
第２回　エピソード①：園庭で見つけたダンゴムシ	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第３回　エピソード②：トラブルの場面	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第４回　エピソード③：片付け　エピソード④：給食	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第５回　環境を通して行う教育	既習の授業内容（保育内容等）を確認する
第６回　遊びを通しての指導	既習の授業内容（保育内容等）を確認する
第７回　家庭・地域・小学校との連携のあり方	ノートを見直し、復習する
第８回　指導計画の立案	指導計画立案について、ポイントを整理し、復習する
第９回　期末試験	

■ 履修上の注意
幼稚園教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（50%）課題提出（50%）により総合的に評価する。
試験終了後に解説をする。指導計画等の提出課題については添削して返却する。
欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。

■ 教科書
授業時にプリントを配布する。

■ 参考書
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説]〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の実技と演習

(30234)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要

授業の概要

①保育実習や保育実践に備えるために、テーマに沿って作成した指導計画をもとに模擬保育(手あそびを含め、エプロンシアター等の手作り教材を用いた保育実践)を行い、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。②牛乳パックや新聞紙等、身近な素材を使って、実習で活用できる教材の製作方法を学び、実践する機会を設ける。③仲間との協同を学ぶために「ペープサート」を取り入れ、互いに協力しながら「題材選び、台本作り、製作、練習、実演(発表)」の一連の活動を経験できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・指導計画の作成について具体的に理解する。	③⑤
・指導計画に沿った模擬保育やグループ活動により、保育者として必要な知識、技能を習得する。保育実践力を身につける。	③④⑥
・既習の教科の内容やその関連を踏まえ、総合的な保育実践力を身につける。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション・集団あそび	ジャンケンを用いたゲームを考える 手遊びを一人２つ考える
第２回　手遊びの実践・集団遊びの実践	エプロンシアター実演の準備をする
第３回　児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演①	エプロンシアター実演の準備をする
第４回　児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演② 模擬保育に向けて保育指導計画(部分案)の作成・検討	模擬保育のための指導案を作成する
第５回　保育指導計画にのっとっての模擬保育①	模擬保育のための指導案を作成する
第６回　保育指導計画にのっとっての模擬保育②	模擬授業の評価・反省をする
第７回　保育実習に向けて～教材製作	作成した教材を活用できるようにする
第８回　予想される子どもの姿を考える	予想される子どもの姿を各自まとめる
第９回　ペープサートを用いての実演	ペープサート実演の準備をする
第10回　まとめ	学習内容をまとめる

■ 履修上の注意

保育の技術や実践力を身につけるために積極的に授業に臨むこと。
書籍、インターネット等を利用して絶えず教材研究を重ねること。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（50%）レポートや提出物（50%）により総合的に評価する。
指導案等の提出課題は添削して返却する。
遅刻３回で欠席1回とする。
欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。

■ 教科書

〔遊びの指導　乳幼児編〕〔幼少年教育研究所〕〔同文書院〕〔3，200円〕

■ 参考書

〔教育・保育課程論〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔1，900円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

児童文化

(30235)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
安　藤　倫　子

■ 授業の概要

フェルトや布地等、柔らかな素材を使った児童文化財の魅力を知り、自ら作成できるよう裁縫と手芸の技術を学ぶ。幼児の発達を踏まえ、各自が題材を選定、幼児の興味を引き出す仕掛けを取り入れた「おはなし手袋」「エプロンシアター」を製作する。また、自分で作った作品を使い発表をすることで、２年生での実践に備える。保育士の経験を生かし、題材選定や仕掛け、楽曲の取り入れ方、発表の方法について個別に相談に応じる等きめ細やかな授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・布地を用いた製作過程の基礎を習得する。	④⑤⑥
・製作品に合わせた素材を選び、素材や用途に適した手法を理解する。	④⑤⑥
・幼児の発達過程や興味関心に考慮した製作、及び発表をする。	④⑤⑥

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	「授業内容と進め方」「用具と材料」説明／おはなし手袋：題材選定、／基礎縫い①：型紙、布裁断、ｽﾃｯﾁ(①ﾗﾝﾆﾝｸﾞｽﾃｯﾁ、②ﾊﾞｯｸｽﾃｯﾁ、③ｱｳﾄﾗｲﾝｽﾃｯﾁ、他2種)	①おはなし手袋：題材選定、次回確認 ②基礎縫い(ｽﾃｯﾁ①～⑤)仕上げる。
第２回	おはなし手袋：題材確認／基礎縫い②：ｽﾃｯﾁ(⑥ﾌﾚﾝﾁﾉｯﾄｽﾃｯﾁ、⑦ﾚｾﾞｰﾃﾞｰｼﾞｰｽﾃｯﾁ、⑧ｻﾃﾝｽﾃｯﾁ　他3種)	①基礎縫い(ﾋﾟﾝｸｯｼｮﾝ)を仕上げる。
第３回	おはなし手袋①：実物大で型紙、裁断、ﾌｪﾙﾄに型を写し裁断、刺繍糸でｽﾃｯﾁ、縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ)	ﾏｽｺｯﾄ製作（1/4仕上げる）
第４回	おはなし手袋②：綿を入れて縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ)／エプロンシアター：題材選定、台本作成など説明	①ﾏｽｺｯﾄ製作（1/2仕上げる） ②ｴﾌﾟﾛﾝｼｱﾀｰ：題材選定、ｲﾒｰｼﾞ図を記入し次回提出＆確認
第５回	おはなし手袋③：綿を入れて縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ)、ﾏｼﾞｯｸﾃｰﾌﾟを縫い付ける(たてまつり)／エプロンシアター：ｲﾒｰｼﾞ図を基に個々に確認	ﾏｽｺｯﾄ製作（3/4仕上げる）
第６回	おはなし手袋④：ﾏｼﾞｯｸﾃｰﾌﾟを縫い付ける(たてまつり)、仕上げ(細かいﾊﾟｰﾂ貼付)／エプロンシアター：ｲﾒｰｼﾞ図を基に個々に確認	おはなし手袋を完成させる。次回の発表に備えてｾﾘﾌを暗記し、ﾏｽｺｯﾄの動かし方を練習。（発表ﾎﾟｲﾝﾄ：対象者は幼児）
第７回	おはなし手袋⑤：おはなし手袋発表(作品ｶｰﾄﾞ：発表をしての感想･他者の発表からの気づきを記入し提出)／エプロンシアター：製作で使用する材料について説明(各自購入)	①おはなし手袋の修正＆作品ｶｰﾄﾞを記入し、次回提出 ②ｴﾌﾟﾛﾝｼｱﾀｰ：ﾌｪﾙﾄや布地、刺繍糸などの材料を各自準備。次回、布に型を写す作業から入れるように実物大で型紙を作成。
第８回	エプロンシアター①：ﾌｪﾙﾄや布地に型を写す、裁断	ﾏｽｺｯﾄ製作（1/5仕上げる）
第９回	エプロンシアター②：ﾌｪﾙﾄや布地を裁断、模様などを刺繍糸でｽﾃｯﾁ	ﾏｽｺｯﾄ製作（2/5仕上げる）
第10回	エプロンシアター③：模様などを刺繍糸でｽﾃｯﾁ、縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ)	ﾏｽｺｯﾄ製作（3/5仕上げる）
第11回	エプロンシアター④：綿を入れて縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ、たてまつり)	ﾏｽｺｯﾄ製作（4/5仕上げる）
第12回	エプロンシアター⑤：綿を入れて縫い合わせる(ﾎﾞﾀﾝﾎｰﾙｽﾃｯﾁ、たてまつり)、ﾏｼﾞｯｸﾃｰﾌﾟを縫い付ける(たてまつり)	ﾏｽｺｯﾄ製作を仕上げる。
第13回	エプロンシアター⑥：ﾏｼﾞｯｸﾃｰﾌﾟを縫い付ける(たてまつり)、飾り布(背景)の型を布地に写し裁断、エプロンに縫い付ける（たてまつり、ミシン）	背景製作（1/2仕上げる）
第14回	エプロンシアター⑦：エプロンに縫い付ける(たてまつり、ミシン)、ﾏｼﾞｯｸﾃｰﾌﾟを縫い付ける(たてまつり)	ｴﾌﾟﾛﾝｼｱﾀｰを仕上げる。次回の発表に備えてｾﾘﾌを暗記し、ﾏｽｺｯﾄの動かし方を練習。（発表ﾎﾟｲﾝﾄ：対象者は幼児）
第15回	エプロンシアター⑧：エプロンシアター発表(作品ｶｰﾄﾞ：発表をしての感想･他者の発表からの気づきを記入し提出)	ｴﾌﾟﾛﾝｼｱﾀｰの修正＆作品ｶｰﾄﾞを記入し、ﾋﾟﾝｸｯｼｮﾝと一緒に次週まで提出(ｲﾒｰｼﾞ図、型紙)

■ 履修上の注意

毎時間、裁縫道具を持参。製作物と進度は個々に異なるので自ら質問し、製作過程を積極的に確認しながら丁寧に取り組むこと。説明と異なる手法での製作品は評価基準外とする。材料費（手袋・エプロン代含む）3，500円。

■ 成績評価方法・基準
課題作品・提出物（60%）計画的に取り組む授業姿勢(事前・事後学習を含む)（40%）
発表・作品にコメント付す。

■ 教科書
授業前にプリントを配布

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については､授業終了時に受付けます。

児童文化Ⅱ

(30236)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
横　山　美喜子

■ 授業の概要

文学や音楽、演劇、玩具など様々な分野の児童文化は大人が「子どもために」与えた文化であると同時に、子ども自身がその感性で発信する自発的な活動力を持っている。この授業では、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中、子どもと大人が織りなす児童文化という考え方をその現状を学ぶことを目的とする。その中でも特に絵本を取り上げ製作する。子どもの発達段階をふまえ、ふさわしい内容を考え、表現していく。

この授業においては、小学校教諭としての経験を生かし、幼児の感性を育むための児童文化の在り方を考えながら、実践力を高められるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・多様な児童文化について知り、幼児教育における児童文化の意義を理解する。	③
・これまで学んだ表現技法を生かし、児童文化財としおての絵本を製作する。	④
・子どもの発達段階にふさわしい絵本を製作するすることへの意欲を高める。	⑤
・製作した絵本を鑑賞し合い、よりよい絵本の在り方について考察する。	⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　自分の子ども時代を取り巻く児童文化について知るとともに、児童文化の意義を理解する	自分の子供時代を振り返り、心に残る児童文化財を思い出す。ミニットペーパーを見直す。
第２回　幼児の発達段階にふさわしい絵本の内容について理解する。	これまでに読んだ絵本を振り返る。ミニットペーパーを見直す。
第３回　絵本の表現の多様性について知り、製作する絵本について構想する。	これまでに読んだ絵本を振り返る。ミニットペーパーを見直す。
第４回　絵本のテーマ、対象年齢、表現方法について具体的に考える。	造形Ⅰ、Ⅱで学んだ表現方法を振り返る。製作カードを見直す。
第５回　試作品を作成する。	原画にどのように生かすかイメージする。製作カードを見直す。
第６回　試作品を完成させ、原画の作成に入る。	原画作成への見通しをもつ。製作カードを見直す。
第７回　原画を作成する。	表現方法を工夫する。製作カードを見直す。
第８回　原画を完成させる。	完成作品への見通しをもつ。製作カードを見直す。
第９回　製本を始める。	製本の手順を知る。製作カードを見直す。
第10回　製本を完成させる。	これまでの取組を振り返る。製作カードを見直す。
第11回　互いに読み聞かせを行う。	感想を述べあい、評価する。レポートを作成する。

■ 履修上の注意

製作中に服が汚れることがあるので、作業着を着用すること。

■ 成績評価方法・基準

受講態度・授業への参加状況（50%）試作品及び作品（絵本）（50%）　絵本の試作品等に対しては評価後授業中に、また完成作品は授業終了後にフィードバックする。ルーブリック評価については第１回の授業で説明する。

■ 教科書

授業前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

絵本各種

■ 備考

都合により授業計画の順番等を変更する場合があります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

乳児保育Ⅰ

(30237)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：前期
子ども生活専攻科目
大　窪　裕喜惠

■ 授業の概要
乳児保育の意義や理念、乳児保育の社会的な役割、保育施設の社会的位置など現場視点から講義する。また3歳未満児の発達をとらえる視点、保育者の関わる姿勢、具体的な援助や支援の仕方、環境を工夫する術など保育の基本を解説する。
乳児保育が、子どもの『生きる力の基礎つくり』に繋がること、人を育てることの意義・保育の理念・目的から保育の実践に結びつけて、学生自身が考える時間を設け、学びを深められるように講義する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・乳児保育の現状と課題を踏まえた、意義・理念・役割について理解する。	①②⑤
・養護と教育の一体性や発達の連続性を理解する。	③④⑤
・３歳未満児の発達を踏まえた基礎的な知識と保育内容について理解する。	③④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：乳児保育とは何か	配布プリントを読み、授業内容・計画を理解する
第２回　乳児保育の目的と役割	P10　養護と教育について読み予習
第３回　発達の連続性について	P16　育みたい資質能力を調べよう
第４回　0，1，2歳児の発達	P28　愛着とはを調べよう
第５回　乳児（0歳児）の保育内容について	P36　身体的発達に関する視点を調べる
第６回　乳児（0歳児）の保育内容について	社会発達に関する視点を調べる
第７回　乳児（0歳児）の保育内容について	精神的発達に関する視点を調べる
第８回　1歳以上3歳未満児の保育内容～3つの視点から5領域のつながり～	P48　5領域を調べる
第９回　5領域と保育	P62　図表5－1を読み、予習
第10回　乳児の生活と遊びの基本的事項　デーリープログラム	P64　保育者の仕事を書き出す
第11回　乳児期の健康で安全な生活環境とは	P76健康・安全で必要な視点を書き出す
第12回　乳児の生活の基本（食事・睡眠・排泄・着脱・清潔）	P82　SIDSを調べる
第13回　乳児の遊び（身体的な発達について）	P102　0歳児の運動の発達の順序を調べる
第14回　乳児保育の環境構成	P116 どんな環境が必要か書き出そう
第15回　前期のまとめ	前期試験

■ 履修上の注意
①授業への取り組み（授業態度：私語を慎む・積極的な質問・発言・レポート等課題提出）を重視。
②配布レポートはファイルに綴じる。③教科書は事前に読んで予習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準
講義の受講態度　20%　（授業中に積極的に発言・発表するなどの参加態度を評価）
期末試験　80%で総合的に評価します。
レポート・期末試験の結果は、授業の中でフィードバックします。

■ 教科書
〔講義で学ぶ　乳児保育〕〔小山　朝子編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書
〔演習で学ぶ　乳児保育〕〔善本　眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 備考
＊授業内容については、都合により授業計画の内容や順番等を変更する場合があります。
＊質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

乳児保育Ⅱ

(30238)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
大　窪　裕喜惠

■ 授業の概要

3歳未満児の発育・発達の過程における特徴と、保育者の援助や関わり方の基本的な考え方や保育内容中で、個人差や発達の連続性を考慮した保育の必要性について講義する。

保育者の関わり方や援助について考え合い、どのような援助や関りが必要かグループ討議後発表を行う。また子どもが主体的に遊ぶことが子どもの発達する力を伸ばし、その為にどのような環境が必要か考えを書き出すことで、学びを深める。また保育の計画を実際に作成する・具体的な遊びや保育環境を考え合う・また保育で活用する手遊びなどを取り入れ、実践に結びつくように授業を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・3歳未満児の発達の発達を踏まえた保育者の援助や関わりの基本を学ぶ。	①②③⑤
・3歳未満児の具体的な保育の方法や環境について理解する。	③④⑥
・職員の連携及び保護者や関係機関との連携について認識する。	②③

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　乳児保育の意義　　前期試験の振り返り	演P14　主体性を保障するとは何か調べる
第２回　乳児の発育・発達の特徴と保育者の関わり　０歳児	演P20～P25 P98～p105読んで予習
第３回　乳児の発育・発達の特徴と保育者の関わり　１歳児	演P26～P28 P106～P119を読んで予習
第４回　乳児の発育・発達の特徴と保育者の関わり　２歳児	演P28～P31 P106～P119を読んで予習
第５回　乳児の発育・発達の特徴と保育者の関わり　３歳児	演P31～P35P106～P119を読んで予習
第６回　食事の援助と環境	演P36～P49を読んで予習
第７回　排泄の援助と環境	演P50～P59を読んで予習
第８回　睡眠・休息の援助と環境	演P60～P67を読んで予習
第９回　着脱に関する援助と環境	演P68～P79を読んで予習
第10回　清潔に関する援助と環境	演P80～P89を読んで予習
第11回　乳児保育における健康と安全	演P90～P97を読んで予習
第12回　乳児保育における保育の計画と強化について	P124　演P120を読んで予習
第13回　子育て支援	P140　演P132を読んで予習
第14回　乳児保育を支える連携	P144　演P130を読んで予習
第15回　後期のまとめ	後期の試験

■ 履修上の注意

①授業への取り組み（授業態度：私語を慎む・積極的に質問、発言をする・レポート等課題提出）を重視。
②配布プリントやレポートはファイルに綴じておく。
③教科書を読んで下調べをしておく。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みの状況20%　　課題提出20%　期末試験60%により、総合的に評価します。課題提出については、授業中また期末試験の結果については、機会を設けてフィードバックをします。

■ 教科書

〔演習で学ぶ　乳児保育〕〔善本　眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書

〔講義で学ぶ　乳児保育〕〔小山　朝子編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 備考

＊授業内容については、都合により授業内容の順番等を変更する場合があります。
＊質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

子どもの健康と安全

(30239)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
岩　佐　あけみ

■ 授業の概要
助産師として生命が生まれる現場や乳児健診の現場において赤ちゃんの世話や保護者の気持ちを受け止め学んでいます。子どもの健康と安全では子どもたちは、保護者、保育機関、学校、地域の方々との関わりなど環境にも依存しながら、日々成長しています。核家族化や女性の就労が増えたことからも保育園や幼稚園での生活が、今は子どもたちに大きな影響を与えます。子どもの健康保持増進、さらには自分の健康管理についても必要な援助、技術、応用能力を学び、多様性のあることを念頭におき、実践できるようにします。「子どもの保健」で学んだことを生かし、創造力をもって演習ができるようにします。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。	③⑤⑥
・日常の養護の具体的な方法について学ぶことができ、実際にやってみることができる。	②③⑥
・日常起こりうる症状やケガに対する手当を身につけることができる。	③⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　子どもの健康と安全　オリエンテーションと小児保健について	教科書をよく読み何を勉強するか知っておく
第２回　小児の発育を知る	自分の母子手帳を使い、感染について身近に感じる
第３回　身体測定の意義と実施・評価（計測し評価するまで）	教科書から測定のポイントを押さえておく
第４回　バイタルサインのチェックとその評価	教科書から測定のポイントを押さえておく
第５回　子供の基本的生活習慣の確保	教科書をよく読み理解しておく
第６回　演習①子どもの養護、日常の世話①抱き方、おむつの交換、スキンケア	見学実習に入ったら、保育士は赤ちゃんや子供をどんなふうに保育しているか観察し、演習でやってみる
第７回　演習②子どもの養護、日常の世話②歯磨き、調乳、遊び	見学実習に入ったら、保育士は赤ちゃんや子供をどんなふうに保育しているか観察し、演習でやってみる
第８回　演習③沐浴、抱き方、衣類の着脱	演習のまとめとして沐浴を一人ずつテストします
第９回　小児の事故とその予防	教科書をよく読み理解しておく
第10回　子どものよくある症状・病気とその対処法および予防	教科書をよく読み手当てができるようになる
第11回　三角巾・包帯の扱い方、子どもの心肺蘇生法	教科書をよく読み手当てができるようになる
第12回　障害を持つ小児と家族への関わり方	教科書をよく読み対応ができるようになる
第13回　児童虐待、災害の影響から子どもをできるだけ守る	教科書をよく読み理解しておく
第14回　地域との連携・協働	教科書をよく読み理解しておく
第15回　まとめ	時間がなく足りなかった部分の補習と質問
第16回　試験	子どもの保健演習からまんべんなく出題

■ 履修上の注意
授業に積極的に臨むこと、授業中の配布プリントが多いのでファイルにまとめ振り返ること。

■ 成績評価方法・基準
●期末試験　５０％●課題（レポート）提出　１５％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある）●実技試験　２０％（欠席した場合はレポート提出）●受講態度　１５％

■ 教科書
「子どもの健康と安全演習ノート」〔小林　美由紀〕　｛診断と治療社｝〔2000円〕

■ 参考書
〔配布プリント〕

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

障害児保育

(30240)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
障害児保育は、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、国民のすべてが障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することの重要性が広く認識されている。それは、保育現場においても同様で、障害の有無に関わらず、すべての子どもが健やかに発達していくことが求められている。そのため、保育者には、障害を持つ子どもの保育について必要な基礎的な知識・技術が必要とされる。そこで、ここでは、主にグループワークを通して、障害児保育の実践における基礎的な知識・技術を学ぶとともに、障害を持つ子どもに対する基本的な配慮事項についても理解できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・障害児保育に関する基礎的知識・技術を身に付けることができる	①⑤
・障害児保育の実践に関する基礎的知識・技術を身に付けることができる	①②④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：「障害」について考えてみよう	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第２回　障害児保育の基本	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第３回　発達と障害	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第４回　障害児保育のあゆみ	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第５回　肢体不自由の理解と援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第６回　視覚障害の理解と援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第７回　聴覚障害の理解と援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第８回　知的障害の理解と援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第９回　発達障害の理解と援助（１）：自閉スペクトラム症	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第10回　発達障害の理解と援助（２）：ADHD/LD	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第11回　配慮を必要とする子どもの理解と援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第12回　基本的生活習慣獲得の援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回　集団生活と遊びの援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回　保護者や家族への支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第15回　まとめと試験	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める

■ 履修上の注意
グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

■ 成績評価方法・基準
平常点（50%）、試験（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、試験については解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書
〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵　編〕〔みらい〕〔2，300円〕

■ 参考書
授業の中で指示する

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

特別支援教育

(30241)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
岡　崎　善　治

■ 授業の概要
幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目）の必修科目である。幼稚園・認定こども園に在籍している発達障害や軽度知的障害等の様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児が、保育に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力の基礎を身に付けていくことができるよう、幼児の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について概説し、また話し合いや発表を通して理解を深める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解する。	②③
・特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解する。	②③④
・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。	③④

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第２回　特別支援教育（インクルーシブ教育）に関する制度の理念や仕組み	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第３回　障害児の理解と支援①（身体障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第４回　障害児の理解と支援②（知的障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第５回　障害児の理解と支援③（発達障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第６回　特別支援教育に関する教育課程の理解	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第７回　個別の指導計画及び個別の教育支援計画作成の意義と方法	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第８回　特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第９回　障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回　まとめ・期末試験	これまでの課題を振り返り、テスト勉強をする。

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（20%）、提出課題（40%）、及び期末試験（40%）により総合的に評価します。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※1/3以上欠席すると単位認定は致しません。
※遅刻・早退はそれぞれ２回につき、１回の欠席とします。
提出課題等については随時、期末試験の結果については後日フィードバックします。

■ 教科書
教科書は使用しない。授業資料・課題を適宜配布します。

■ 参考書
必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考
質問等については、振り返りシート及びオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

社会的養護Ⅱ

(30242)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀　　米　川　純　子

■ 授業の概要

社会的養護は、子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活を守ることや心的ケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解する。

また、施設養護や家庭養護の具体的な内容や実践について学ぶことにより、施設保育士の職務内容が多岐にわたることを理解する。要保護児童対策地域協議会での実務経験を活かし、施設実習にための具体的な基礎的専門知識・技術の習得を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・社会的養護の実践に関する基礎知識・技術を身に付ける。	③④
・社会的養護の中で保育士に求められている社会的な役割を理解する。	③④⑤

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	（大瀬戸・米川）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第２回　現代の児童問題	（大瀬戸）	学習内容を復習し、理解を深める。
第３回　児童養護の理念と施設養護の原則	（大瀬戸）	学習内容を復習し、理解を深める。
第４回　施設養護の内容と実際	（大瀬戸）	施設養護の概要を知り、適切な役割を学ぶ。
第５回　乳児院における養護の実際	（米　川）	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第６回　母子生活支援施設における養護の実際	（米　川）	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第７回　児童養護施設における養護の実際	（米　川）	施設実習に向けて具体的な支援方法を知る。
第８回　児童自立支援施設における養護の実際	（米　川）	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第９回　障害者通所施設における養護の実際	（米　川）	施設実習に向けて具体的な支援方法を知る。
第10回　まとめと試験	（大瀬戸・米川）	学習内容を振り返り、さらに理解を深める。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。提出物の期限は厳守します。欠席が1/3以上の者には単位を認定しません。遅刻は20分までとし、それ以降は欠席とします。遅刻2回で1回の欠席とします。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（50%）、試験（50%）で総合的に評価します。課題や試験の結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

［社会的養護Ⅱ］［喜多一憲　監修・堀場　純也　編集］［みらい］［1，200円］

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料を配布します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子育て支援

(30243)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要

近年、日本の子育ての環境は、児童虐待や子育て不安、子どもの貧困などの問題が顕在化し、子育てがしやすい社会ではないことが広く認識されつつある。このような社会状況での子育ては、親にとって大変難しいものとなってきており、親だけでなく、社会全体で子育てを支えることが必要であるとされている。それに伴い、保育者にも子育て支援の中核的な役割を担うことが期待されている。そこで、本授業では、保育者として保育現場で子育て支援を行う基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・子育て環境の現状や保育者の役割について理解している	①②⑤⑥
・子育て支援のねらい及び内容を理解している	③④
・子育て支援の基礎的な知識及び技術を理解している	①③⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第２回　保育実践における子育て支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第３回　保育者の専門性と倫理	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第４回　保育者の支援ニーズへの気づきと多面的な理解	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第５回　子ども・保護者が多様な他者と関わる機会・場の提供	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第６回　子ども・保護者の状況・状態の把握と養育力向上	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第７回　保育所等を利用している保護者への支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第８回　地域の保護者への支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第９回　障害・発達上の課題のある子どもとその保護者への支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第10回　まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める

■ 履修上の注意

ケーススタディが中心となってくるので、関連のあるデータや事例などを事前に調べた上で、授業に臨んでもらいたい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50%）、レポート課題（50%）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。レポート課題は添削して返却する。

■ 教科書

教科書　〔演習・保育と子育て支援〕　〔小原敏郎/橋本好市/三浦主博　編〕〔みらい〕2200円

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

体育Ⅱ

(30244)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
土　屋　葉　子

■ 授業の概要

本講義では、体育Ⅰの演習をふまえ、主に大型遊具を使った基本的な運動を理解し、模擬的に実践しながら、指導者として創意工夫ができる能力を養う。また、様々な運動遊びの特性と幼児の発育・発達に合わせた適切な指導ができる指導力を育成するとともに、子どもの興味・関心を戸外に向けることのできる保育者を目指してもらえるよう、自然の中での運動の楽しさ、四季の移り変わりの様子を体感できるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・運動遊びの指導内容、方法を習得する。	④⑤⑥
・保育の現場において、より実践的な指導ができる知識・能力を身につける。	④⑤⑥
・自らの健康・体力を維持する。	④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	本講義の学習内容について確認する。
第２回　自然散策（長命館公園）	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第３回　講義（幼児の発達と運動）①運動遊びの必要性	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第４回　講義（幼児の発達と運動）②幼児期の運動能力	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第５回　バルーン遊び①グループ分け・曲決め	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第６回　バルーン遊び②創作(1)	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第７回　バルーン遊び③創作(2)	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第８回　バルーン遊び④創作(3)	学習内容を確認し、日々実践してみる。
第９回　バルーン遊び⑤発表、まとめ	他グループのバルーン発表内容をまとめ、今後の課題を見つける。
第10回　自然散策（水の森公園）	学習内容を確認し、日々実践してみる。

■ 履修上の注意

初回ガイダンスで説明する履修上の注意を遵守すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（70%）、及び受講態度（30%）により総合的に評価する。
提出課題等については、返却し、解説を行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

その都度、指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時または、オフィスアワーで受け付ける。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

ピアノ Ⅰ

(30245)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
佐 藤 和 貴　阿 部 玲 子　渡 邉　恵　大 友 詠里子　阿 部 陽 子

■ 授業の概要
幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要なピアノの基礎技能を修得する。基本的な音楽理論の理解を深めながら，演奏法を主として，ピアノの演奏能力の向上させる練習方法を身に付ける。授業形態は，一斉指導と個別指導を駆使し，運指，読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら，最も基本的なピアノ曲の演奏法を身に付ける。子どものうた（春，夏，季節のうた，生活のうた）の弾き歌い，簡易伴奏法(コードなど)について実践できるようになる。高等学校教諭としての経験を生かし，総合的な音楽の諸能力の指導とピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。(「ピアノテキスト」P.45までの課題)	④⑥
・子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(「こどものうた100」より５～10曲)	④⑥
・音楽の基礎知識を基に，基礎的な簡易伴奏法を身に付ける。	④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス／ピアノ曲を弾く	前期学修の見通しを立てる。
第２回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.6～22）	空き時間などを利用し日常的に，課題の練習をする。
第３回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.24～34） ハ長調、ト長調のスリーコード	日常的に，課題の練習をすることを身に付ける。 ハ，ヘ長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。
第４回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.36～46） ヘ長調、ニ長調のスリーコード	日常的に，課題の練習をすることを身に付ける。 ヘ，二長調の3コードを仕組みを考えながら弾く。
第５回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.48～54） スリーコードによる簡易伴奏法①	日常的に，課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。
第６回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.56～62） スリーコードによる簡易伴奏法②	日常的に，課題の練習をすることを身に付ける。 3コードやカデンツを利用して簡易伴奏に生かす。
第７回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.65～71）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第８回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.72～78）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第９回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.80～84）簡易伴奏試験	日常的な練習が良い結果を招くことを学ぶ。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。
第10回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.86～94）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第11回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.162～168）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第12回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.170～175）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第13回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.178～184）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第14回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.186～189）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第15回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.192～195）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第16回　発表試験	他人の前で演奏することを想像しながら練習する。

■ 履修上の注意
課題を毎日充分練習し，課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

発表試験の内容40%、平常点60%（平常点は，授業の中で明示した課題への取り組み方，進度状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。

■ 教科書
こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1，600円〕／〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2，000円〕／「音楽事始」

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については，授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

ピアノⅡ

(30246)

単位：１単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
佐 藤 和 貴　阿 部 玲 子　渡 邉　恵　大 友 詠里子　阿 部 陽 子

■ 授業の概要
「ピアノⅠ」の基礎的な学習を踏まえ，乳幼児教育現場で活用度の高い童謡等を中心に学習する。読譜力や奏法の技能をさらに高め，幼稚園，保育所における生活のうたや秋，冬などの季節のうた，保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが弾き歌い数多くできるようする。また，連弾演奏の機会を設け，友達と共に切磋琢磨する中でピアノ技術を高め，人間関係を深めるようにする。子どもの歌の弾き歌い，ピアノ曲の演奏法，連弾の活動に取り組む中で，知識と技術を習得するようにする。高等学校教諭としての経験を生かし，総合的な音楽の諸能力の指導とピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・ピアノの演奏の基礎的な技術を身に付ける。(「ピアノテキスト」P. 70までの課題)	④⑥
・子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(「こどものうた100」より10曲以上)	④⑥
・連弾曲に取り組み，互いの技術を切磋琢磨する中で，アンサンブルの基礎を身に付ける。	④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 96～102）	後期学修の見通しを立てる。
第２回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 104～111）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第３回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 114～120）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第４回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 122～124）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第５回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 126～132）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第６回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 134～138）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第７回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い、生活の歌試験	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。
第８回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 140～144）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。
第９回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 146～152）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。
第10回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p. 154～160）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 他人の前で演奏することを想像しながら練習する。
第11回　童謡の弾き歌い（p. 198～202）、連弾	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み，自分の技術を向上させる
第12回　童謡の弾き歌い（p. 206. ～211）、連弾	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 連弾曲に取り組み，自分の技術を向上させる
第13回　童謡の弾き歌い（p. 212～216）、連弾	連弾曲練習で，アンサンブルの技術を向上させる。
第14回　童謡の弾き歌い（p. 220～223）、連弾	連弾曲練習で，アンサンブルの技術を向上させる。
第15回　童謡の弾き歌い（その他の歌）、連弾、まとめ	連弾曲練習で，アンサンブルの技術を向上させる

。

第16回　連弾発表試験	日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。

■ 履修上の注意
それぞれの課題を毎日充分練習し，課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
発表試験の内容40%、平常点60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進度状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。

■ 教科書
〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1，600円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2，000円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については，授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

ピアノⅢ

(30247)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：前期
子ども生活専攻科目
佐 藤 和 貴　阿 部 玲 子　渡 邉　恵　大 友 詠里子　阿 部 陽 子

■ 授業の概要

「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」の学習を踏まえ，子どものうたの弾き歌い，伴奏法，歌の指導法，初見演奏について身に付けるようにする。特に、子どものうたから模擬保育として実践するための曲を取り上げ，弾き歌いの演奏方法，子どもへの指導方法を作成した指導案を基に学習する。一人一人の学生が各グループで模擬授業を実施しながら，歌唱や弾き歌いを伴った指導法を学習する。実習に向け，コードやルート音による簡易伴奏による弾き歌いの伴奏法及び指導方法も身に付ける。高等学校教諭としての経験を生かし，総合的な音楽の諸能力の指導とピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・ピアノの演奏の技術を身に付ける。(レパートリーを増やす。)	④⑥
・子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。(レパートリーを増やす。)	④⑥
・歌の指導法やピアノ伴奏法を習得する中で音楽的表現を身に付ける。	④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い:模擬保育の楽曲の弾き歌い	前期学修の見通しを立てる。指導案の検討。
第２回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：模擬保育の楽曲の伴奏法	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)
第３回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：模擬保育の楽曲の指導法、歌唱指導	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)
第４回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：模擬保育（導入）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)
第５回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：模擬保育（発表）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(導入の工夫や制作物等の準備)
第６回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：模擬保育（復習）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 指導案の検討(反省と課題)
第７回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.96～102）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第８回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.104～111）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第９回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.114～116）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第10回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い（p.120～124）	日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。
第11回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：初見演奏について	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽譜を参考に初見試奏を試みる。
第12回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：初見演奏を体験する	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 色々な楽譜を参考に初見試奏を試みる。
第13回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：コードを使用しての初見演奏	コードについて「音楽事始」等で学び直す。
第14回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：ルート伴奏法、その他	様々な伴奏パターンを工夫する。
第15回　ピアノ曲を弾く・童謡の弾き歌い：まとめ	学習のまとめをする。

■ 履修上の注意

それぞれの課題を毎日充分練習し，課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

発表試験の内容40%、平常点60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進度状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。

■ 教科書
〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1，600円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2，000円〕／「音楽事始」

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については，授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

ピアノⅣ

(30248)

単位：１単位
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：後期
子ども生活専攻科目
佐 藤 和 貴　阿 部 玲 子　渡 邉　恵　大 友 詠里子　阿 部 陽 子

■ 授業の概要
「ピアノⅠ」「ピアノⅡ」や「ピアノⅢ」の学習を踏まえ，子どもの歌の弾き歌い，初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付けるようにするする。特に，コードによる（簡易コード読み替えを含む）簡易伴奏や，曲想に合った伴奏型の工夫についてなど，多彩な伴奏法を学習する。また，授業の中で，初見視奏や初見視唱など初見演奏，さらに簡単な即興演奏などの能力を高めるための学習をすすめ，保育現場での対応力を身に付けるようにする。高等学校教諭としての経験を生かし，総合的な音楽の諸能力の指導とピアノ演奏の能力を高めていく授業を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・ピアノの演奏の技術を身に付ける。	④⑥
・子どもの歌の弾き歌いの技能を身に付ける。	④⑥
・初見演奏、コード付け、即興演奏について身に付ける。	④⑤

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調・ヘ長調のコードの復習	前期学修の見通しを立てる。
第２回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調・ニ長調のコードの復習	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第３回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ハ長調のメロディにコードを付ける	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第４回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ヘ長調のメロディにコードを付ける	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第５回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ト長調のメロディにコードを付ける	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第６回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ニ長調のメロディにコードを付ける	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第７回　童謡の弾き歌い・初見演奏：曲にふさわしい伴奏型を考える	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。
第８回　童謡の弾き歌い・初見演奏：短調のコードについて	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 長調学習を基に短調について学び，技術を練習する。
第９回　童謡の弾き歌い・初見演奏：その他のコードについて	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 長調学習を基に短調について学び，技術を練習する。
第10回　童謡の弾き歌い・初見演奏：初見で伴奏付けをする	日常的な練習が良い結果を招くことを再び学ぶ。
第11回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ビーマーチをアレンジして弾く（様々 な伴奏型）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 様々な伴奏型を工夫し演奏する。
第12回　童謡の弾き歌い・初見演奏：ビーマーチをアレンジして弾く（移調）	空き時間などを利用し日常的な課題の練習に励む。 調性を工夫し，展開を楽しみながら演奏する。
第13回　童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏①（簡単なメロディを作曲する）	メロディー作曲の楽しみを味わう。
第14回　童謡の弾き歌い・初見演奏：場面に合った演奏②（自作のメロディに即興で伴奏を付ける）	自分で考えたメロディーに伴奏を工夫する。
第15回　童謡の弾き歌い・初見演奏：まとめ、コード付け試験	学習のまとめをする。コード付けを工夫する楽しさを味わう。

■ 履修上の注意
それぞれの課題を毎日充分練習し，課題を明瞭にした上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

発表試験の内容40%、平常点60%（平常点は、授業の中で明示した課題への取り組み方、進度状況、受講態度等で総合的に判断する。）試験の結果については都度フィードバックする。

■ 教科書
〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1，600円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2，000円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については，授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

保育実習指導Ⅰ

(30249)

単位：２単位
対象学科：子専１年
授業形態：演習　学期：通年
子ども生活専攻科目
佐 藤 深 雪　　高 橋 恵 美　　山 沢 智 樹　　子ども生活専攻教員

■ 授業の概要
保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。２年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）及び障害者支援施設の見学を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育実習の意義・目的を理解する	④⑤⑥
・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする	④⑥
・実習施設における子供の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する	④⑤⑥
・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　2年間の予定　　実習先希望調査についての 説明　【深雪　髙橋　山沢】	２年間の学習の見通しを立てる。実習先を調べ調査票を提出する。課題①に取り組む。
第２回　実習の意義・目的の理解　実習先希望調査の提出　ボランティア活動について　課題①の提出　【深雪　髙橋　山沢】	実習指導の予定を確認する。課題②に取り組む
第３回　保育所についての理解　視聴した動画の内容をまとめる　課題②の提出　【髙橋　深雪】	実習の手引きを読み理解する。課題③に取り組む
第４回　施設についての理解　視聴した動画の内容をまとめる　課題③の提出　【大瀬戸　米川】	実習の手引きを読み理解する。課題④に取り組む
第５回　保育士の仕事についての理解　視聴した動画の内容をまとめる　課題④の提出　【髙橋　深雪】	実習の手引きを読み理解する。課題⑤に取り組む
第６回　保育所見学実習、準備・ガイダンス　短大附属ますみ保育園　課題⑤の提出　【山沢　深雪】	説明プリントを読み見学実習の準備をする。
第７回　施設見学1（児童養護施設）準備・ガイダンス　【大瀬戸　米川】	説明プリントを読み見学実習の準備をする。
第８回　保育所見学実習　（中止の場合は保育園園長講話）　【深雪　髙橋　山沢】	見学した内容を記録し提出する。
第９回　施設見学1（児童養護施設）見学　（中止の場合は施設長講話）　【大瀬戸　米川】	見学した内容を記録し提出する。
第10回　保育所見学実習　事後指導　【髙橋　山沢　深雪】	記録をもとに実習の振り返りを行う
第11回　施設見学1（児童養護施設）事後指導　【大瀬戸　米川】	記録をもとに実習の振り返りを行う
第12回　施設見学Ⅱ（障害者支援施設）準備・ガイダンス　【大瀬戸　米川】	説明プリントを読み見学実習の準備をする。
第13回　施設見学Ⅱ（障害者支援施設）見学　【大瀬戸　米川】	見学した内容を記録し提出する。
第14回　施設見学Ⅱ（障害者支援施設）事後指導　【大瀬戸　米川】	記録をもとに実習の振り返りを行う
第15回　保育実習の心得　「実習の手引き」「スタディガイド保育者になるために」を読み確認する。【山沢　髙橋　深雪】	実習の手引きを読んでくる。 前期に学んだことを再確認しまとめる。
第16回　実習記録（実習日誌）の書き方　保育所記録の書き方①　【髙橋　深雪　山沢】	視聴した動画の内容をまとめ、下書きを清書する。
第17回　実習記録（実習日誌）の書き方　保育所記録の書き方②　【髙橋　深雪　山沢】	視聴した動画の内容をまとめ、下書きを清書する。
第18回　実習記録（実習日誌）の書き方　施設記録の書き方①　【米川　大瀬戸】	視聴した動画の内容をまとめ、下書きを清書する。
第19回　実習記録（実習日誌）の書き方　施設記録の書き方②　【米川　大瀬戸】	視聴した動画の内容をまとめ、下書きを清書する。

第20回	保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）準備・ガイダンス 附属保育園主任講話 実習日誌の下書き①　【深雪　山沢】	実習園の概要を調べ記入する
第21回	保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）準備・ガイダンス 実習日誌の下書き②　目標と課題　活動の流れ【髙橋　深雪　山沢】	目標と課題を清書する
第22回	保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）　【深雪　髙橋　山沢】	見学した内容を記録し提出する。
第23回	保育所基礎実習Ⅰ（附属保育園）事後指導　【深雪　髙橋　山沢】	記録をもとに実習の振り返りを行う
第24回	施設見学Ⅲ（障害児入所施設）準備・ガイダンス【大瀬戸　米川】	実習日誌を記入する。施設について調べる。
第25回	施設見学Ⅲ（障害児入所施設）	見学した内容を記録し提出する。
第26回	施設見学Ⅲ（障害児入所施設）事後指導	記録をもとに実習の振り返りを行う
第27回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）準備・ガイダンス 【髙橋　山沢　深雪】	実習日誌を記入する。
第28回	「保育・教育実習報告会・実践報告会（2年生）」への参加と1年間のまとめ　【山沢　髙橋　深雪】	2年生の「保育・教育実習報告会」に参加して学んだことをまとめて提出する。
第29回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）【山沢　髙橋　深雪】	見学した内容を記録し提出する。
第30回	保育所基礎実習Ⅱ事後指導　春休みの課題　【髙橋　深雪　山沢】	記録をもとに実習の振り返りを行う

■ 履修上の注意

欠席・遅刻は厳に慎むこと。本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては、2年次の実習ができないことがある。コロナウィルス感染症の状況によっては、実習を中止し附属保育園の園長、施設の施設長などの講話に替えることがある。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み状況（８０％）提出課題（２０％）により総合的に評価する。提出物は、期限内に必ず提出すること。提出課題等については、添削後、授業の中でフィードーバックする。

■ 教科書

[保育者になるために〕[中田カヨ子ほか}[萌文書林]1620円
[保育実習の手引き][宮城県保育士養成校連絡協議会]

■ 参考書

[保育所保育指針解説][厚生労働省][フレーベル館]

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます。

保育実習指導Ⅱ

(30250)

単位：１単位　　必修科目
対象学科：子専２年
授業形態：演習　学期：通年
子ども生活専攻科目
横　山　美喜子　　大瀬戸　美　紀　　米　川　純　子　　子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育士養成課程における必修科目であり「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修の3回の実習（保育所実習Ⅰ及びⅡ、施設実習：各10日間）に向けて、実習の意義目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、模擬保育を通して、実践の場に臨むスキルと心がまえを養う。実習終了後は、実習報告会等を通して実習の振り返りを行い課題を明確にする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。	④⑤⑥
・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する・	④⑥
・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。	④⑥
・保育士の専門性と職業倫理について理解する。	④⑤⑥
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。	④⑤⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　　実習の意義・目的の明確化 【横山　大瀬戸　米川】	２年次前期の学外実習に向けた準備の見通しを立てる。
第２回　心がまえの確認① 実習オリエンテーションについて（電話のかけ方等） 【大瀬戸　米川】	「実習の手引き」を熟読し、実習の準備を始める。
第３回　心がまえの確認② 保育所保育士による講義（附属保育園長）【横山］	講話内容を確認し、実習の準備を行う。
第４回　保育所実習の準備 実習日誌の記入【米川　横山　大瀬戸】	実習関係書類の記入等の準備を行う。
第５回　保育所実習Ⅰ・直前ガイダンス 教材・活動案などの準備　【米川　横山　大瀬戸】	ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。
第６回　保育所実習Ⅰ・振り返り　【横山　大瀬戸　米川】	実習１を振り返り、実習Ⅱの準備を行う。
第７回　保育所実習Ⅱ・直前ガイダンス 教材・活動案などの準備　【米川　横山　大瀬戸】	ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。
第８回　保育所実習Ⅱ・振り返り　【横山　大瀬戸　米川】	実習Ⅱを振り返り、施設実習の課題に取り組む。
第９回　施設実習の準備　【大瀬戸　米川】	実習関係書類の記入等の準備を行う。
第10回　施設実習直前ガイダンス　【大瀬戸　米川】	ガイダンス内容を確認し、実習直前の準備を行う。
第11回　施設実習振り返り　【大瀬戸　米川】	施設実習を振り返り、今後の課題を明確にする。
第12回　実習の反省評価と疑問の解消 今後の課題の明確化　　【横山　大瀬戸　米川】	実習を振り返り、実習中の疑問を整理する。
第13回　実習評価の個別事後指導　【専攻教員全員】	実習評価をもとに、各自の課題を明確にする。
第14回　実践報告会の準備　【横山　大瀬戸　米川】	報告会資料の作成、発表準備を行う。
第15回　実践報告会　【専攻教員全員】	報告会の振り返りを行い、卒業までの課題を考える。
第16回　資格登録・免許申請書類の作成　【米川　横山　大瀬戸】	申請書類作成のために必要なものを準備する。
第17回　まとめと振り返り　【横山　大瀬戸　米川】	２年間の学修内容の振り返りを行う。

■ 履修上の注意

保育士資格取得にかかわる実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出）によっては学外実習の単位についての認定もできないことがあります。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み状況（８０％）提出課題（２０％）により総合的に評価します。すべての提出物は提出期限内に必ず提出してください。すべての提出物を提出しないと単位認定になりません。提出課題等については、添削後、授業の中でフィードバックします。学外実習未実施者への単位認定はしません。

■ 教科書
『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会

■ 参考書
『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます

教育実習(事前)指導（１年次）

(30251)

単位：
対象学科：子専１年
授業形態：講義　学期：通年
子ども生活専攻科目
佐　藤　深　雪　　高　橋　恵　美　　山　沢　智　樹　　子ども生活専攻教員

■ 授業の概要
「幼稚園教諭二種免許状」取得のための必修科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。２年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約４週間の学外実習（見学・観察・参加・部分・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表等を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・実習の意義、目的を明確にし、実習内容（実習の計画、観察、記録、評価の方法等）について理解を深める。	④⑥
・実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。	④⑤⑥
・実習で得た知識と経験を振り返り、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（２年間の予定）［佐藤深・高橋・山沢］	２年間の学修の見通しを立てる。
第２回　実習先の説明・希望調査［佐藤深・高橋・山沢］	実習の希望先を調べ、調査票を提出する。
第３回　幼稚園見学実習・準備・ガイダンス［佐藤深・高橋・山沢］	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第４回　幼稚園見学実習（附属ますみ幼稚園）［佐藤深・高橋・山沢］	見学した内容を記録し提出する。
第５回　幼稚園見学実習・事後指導［高橋・佐藤深・山沢］	記録を基に見学の振り返りをする。
第６回　基礎実習Ⅰ準備［佐藤深・高橋・山沢］	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第７回　基礎実習Ⅰガイダンス［附属ますみ幼稚園主任・佐藤深・高橋・山沢］	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第８回　基礎実習Ⅰ（附属ますみ幼稚園・観察実習）［佐藤深・高橋・山沢］	観察・参加実習の内容を記録し提出する。
第９回　基礎実習Ⅰ事後指導（グループ討議）［高橋・山沢・佐藤深］	記録を基に基礎実習の振り返りをする。
第10回　認定こども園見学・準備・ガイダンス［山沢・佐藤深・高橋］	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第11回　認定こども園見学［山沢・佐藤深・高橋］	見学した内容を記録し提出する。
第12回　認定こども園見学・事後指導［高橋・山沢・佐藤深］	記録を基に見学の振り返りをする。
第13回　実習・実践報告会（２年生発表）参加［全教員］	今後、自分が行うことを明確にする。
第14回　基礎実習Ⅱ準備・ガイダンス［佐藤深・高橋・山沢］	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第15回　基礎実習Ⅱ（附属ますみ幼稚園・観察・参加実習）［佐藤深・高橋・山沢］	観察・参加実習の内容を記録し提出する。
第16回　基礎実習Ⅱ事後指導［高橋・山沢・佐藤深］	記録を基に基礎実習の振り返りをする。

■ 履修上の注意
幼稚園教諭（二種）免許状取得に係る実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。
本科目の取り組み状況（出席・各種提出物の提出、他科目の成績等）によっては実習ができないことがあります。
教員免許取得に向けてより高い志と一層の努力を求めます。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（80%）、提出課題（20%）により総合的に評価します。
※すべての提出物は提出期限内に必ず提出してください。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※教育実習（学外実習）未実施者への単位認定は致しません。
提出課題等については、添削後フィードバックします。

■ 教科書
〔教育実習の手引き〕〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔264円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔385円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

教育実習(事前・事後)指導（２年次）

(30252)

単位：
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：通年
子ども生活専攻科目
横　山　美喜子　　大瀬戸　美　紀　　米　川　純　子　　子ども生活専攻教員

■ 授業の概要
「幼稚園教諭二種免許状」取得のための必修科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。２年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約４週間の学外実習（見学・観察・参加・部分・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表等を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・実習の意義、目的を明確にし、実習内容（実習の計画、観察、記録、評価の方法等）について理解を深める。	④⑥
・実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。	④⑤⑥
・実習で得た知識と経験を振り返り、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション（１年間の予定）［横山・大瀬戸・米川］	２年次後期の実習に向けた準備の見通しを立てる。
第２回　実習及び実習指導の予定・概略［横山・大瀬戸・米川］	実習・実習指導の予定を確認する。
第３回　実習の意義・目的の明確化［横山・大瀬戸・米川］	実習の手引きを熟読し、実習の準備を始める。
第４回　実習の心構えについての確認［横山・大瀬戸・米川］	実習の手引きを熟読し、実習の準備を始める。
第５回　幼稚園についての確認［横山・大瀬戸・米川］	視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。
第６回　幼稚園教諭の仕事についての確認［横山・大瀬戸・米川］	視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。
第７回　実習関係書類の準備［横山・大瀬戸・米川］	実習関係書類の記入等の準備をする。
第８回　日誌等記録の書き方について［横山・岡崎・大瀬戸・米川］	授業の内容を基に記録の書き方を確認する。
第９回　指導計画立案及び指導案の作成［横山・岡崎・大瀬戸・米川］	授業の内容を基に指導計画案を作成する。
第10回　実習先幼稚園との打合せ・実習直前ガイダンス［横山・大瀬戸・米川］	ガイダンスの内容を確認し、訪問と実習直前の準備をする。
第11回　実習の振り返りと疑問の解消［横山・大瀬戸・米川］	実習を振り返り、今後の課題を明確にする。
第12回　実習・実践報告会準備［横山・大瀬戸・米川］	報告会資料・発表の準備等をする。
第13回　実習・実践報告会での発表［全教員］	報告会を振り返り、卒業までの課題を考える。
第14回　実習評価等の個別事後指導［全教員］	実習評価を基に、各自の課題を明確にする。

■ 履修上の注意
幼稚園教諭（二種）免許状取得に係る実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。
本科目の取り組み状況（出席・各種提出物の提出、他科目の成績等）によっては実習ができないことがあります。
教員免許取得に向けてより高い志と一層の努力を求めます。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（80%）、提出課題（20%）により総合的に評価します。
※すべての提出物は提出期限内に必ず提出してください。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※教育実習（学外実習）未実施者への単位認定は致しません。
提出課題等については、添削後フィードバックします。

■ 教科書
〔教育実習の手引き〕〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕

■ 参考書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔264円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔385円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

保育・教職実践演習（幼稚園）

(30253)

単位：２単位
対象学科：子専２年
授業形態：講義　学期：後期
子ども生活専攻科目
高　橋　恵　美　　岡　崎　善　治

■ 授業の概要
短大における２年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業、教育実習、保育実習等）の振り返りを行い、卒業後に保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、保育現場での勤務経験のある担当者によるグループ討議、ロールプレイ、模擬保育、事例研究、フィールドワーク等を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確にする。	④⑥
・保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。	④⑥
・保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。	④⑤⑥
・子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。	④⑤⑥
・子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。	④⑥

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）［岡崎・高橋］	履修カルテを基に、これまでの学修の振り返りをする。
第２回　保育・教育実習の学びの振り返り［岡崎］ 模擬保育のための指導計画の作成［高橋］	これまでの実習での学びについて振り返りをする。
第３回　子ども理解について：事例検討［高橋・岡崎］	既習の授業内容（子どもの発達等）を確認する。
第４回　子ども理解とクラス運営［高橋・岡崎］	既習の授業内容（保育内容等）を確認する。
第５回　保育現場の理解（フィールドワーク）［高橋・岡崎］	保育現場訪問の準備を振り返りをする。
第６回　保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任［高橋・岡崎］	保育者としての自覚と責任及び就職後の職務を考える。
第７回　指導計画に基づく模擬保育①［岡崎・高橋］	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第８回　指導計画に基づく模擬保育②［高橋・岡崎］	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第９回　指導計画に基づく模擬保育③［岡崎・高橋］	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第10回　指導計画に基づく模擬保育Ⅳ［高橋・岡崎］	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第11回　指導計画に基づく模擬保育⑤［岡崎・岡崎］	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第12回　指導計画に基づく模擬保育の振り返り［岡崎・高橋］	模擬保育全体の振り返りをし、全体から見えてくる課題を個人に置き換えて、今後の個人の保育への見通しを立てる。
第13回　危機管理・保育のトラブル対応（ロールプレイ）［高橋・岡崎］	授業で実践した内容を復習する。
第14回　保護者対応について（ロールプレイ）［高橋・岡崎］	授業で実践した内容を復習する。
第15回　保育者としての資質能力の確認・まとめ［岡崎・高橋］	保育者として必要な資質・能力について再確認する。

■ 履修上の注意
保育者になるための総まとめの授業のため、積極的に授業に取り組むようにしてください。
模擬保育ではこれまでの実習（全日・部分指導等）同様、綿密な計画・周到な準備・懸命な努力（練習）により、他学生に対して、大いに影響を与えるような模範的な模擬保育を期待します。

本科目は幼稚園教諭免許状、保育士資格取得にかかわる「学びの軌跡の集大成」の科目です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組みの状況（40%）、提出課題（30%）、模擬保育（30%）により総合的に評価します。
※すべての提出物は提出期限内に必ず提出してください。
※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。
※模擬保育未実施者への単位認定は致しません。
※1/3以上欠席すると単位認定は致しません。
※遅刻・早退はそれぞれ２回につき、１回の欠席とします。
提出課題等については、随時フィードバックします。

■ 教科書
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕

■ 参考書
必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。